

社会調査士I SA

15561

担当者名 / Instructor 福岡 良明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士I」「社会調査士II」「社会調査士III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士II」「社会調査士III」への導入であり基礎である。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士II」「社会調査士III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会調査士課程全体の概要と導入	
第2回	社会調査の背景、社会調査とは	
第3回	社会調査のモラル、調査倫理	
第4回	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
第5回	調査票の作成 (1)	
第6回	調査票の作成 (2)	
第7回	調査対象者の選定、サンプリングとは	
第8回	社会調査の実施方法	
第9回	調査票の回収とコーディング	
第10回	データ入力とデータクリーニング	
第11回	質的調査の方法	
第12回	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
第13回	データの整理と分析 (1)	
第14回	データの整理と分析 (2)	
第15回	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点(日常的)	50 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会調査士I SB § 社会調査士I SB

15562

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士I」「社会調査士II」「社会調査士III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士II」「社会調査士III」への導入であり基礎である。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士II」「社会調査士III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会調査士課程全体の概要と導入	
第2回	社会調査の背景、社会調査とは	
第3回	社会調査のモラル、調査倫理	
第4回	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
第5回	調査票の作成 (1)	
第6回	調査票の作成 (2)	
第7回	調査対象者の選定、サンプリングとは	
第8回	社会調査の実施方法	
第9回	調査票の回収とコーディング	
第10回	データ入力とデータクリーニング	
第11回	質的調査の方法	
第12回	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
第13回	データの整理と分析 (1)	
第14回	データの整理と分析 (2)	
第15回	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点(日常的)	50 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会調査士I SC

15563

担当者名 / Instructor 樋口 耕一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士I」「社会調査士II」「社会調査士III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士II」「社会調査士III」への導入であり基礎である。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士II」「社会調査士III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会調査士課程全体の概要と導入	
第2回	社会調査の背景、社会調査とは	
第3回	社会調査のモラル、調査倫理	
第4回	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
第5回	調査票の作成 (1)	
第6回	調査票の作成 (2)	
第7回	調査対象者の選定、サンプリングとは	
第8回	社会調査の実施方法	
第9回	調査票の回収とコーディング	
第10回	データ入力とデータクリーニング	
第11回	質的調査の方法	
第12回	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
第13回	データの整理と分析 (1)	
第14回	データの整理と分析 (2)	
第15回	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点(日常的)	50 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会調査士I SD

15564

担当者名 / Instructor 大野 威

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士I」「社会調査士II」「社会調査士III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士II」「社会調査士III」への導入であり基礎である。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士II」「社会調査士III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会調査士課程全体の概要と導入	
第2回	社会調査の背景、社会調査とは	
第3回	社会調査のモラル、調査倫理	
第4回	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
第5回	調査票の作成 (1)	
第6回	調査票の作成 (2)	
第7回	調査対象者の選定、サンプリングとは	
第8回	社会調査の実施方法	
第9回	調査票の回収とコーディング	
第10回	データ入力とデータクリーニング	
第11回	質的調査の方法	
第12回	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
第13回	データの整理と分析 (1)	
第14回	データの整理と分析 (2)	
第15回	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点(日常的)	50 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会調査Ⅱ SA

13062

担当者名 / Instructor 大野 威、高橋 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査Ⅱ」および「社会調査Ⅲ」は社会調査課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査課程に登録し「社会調査Ⅰ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつ受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査主題と調査フィールドの検討 (1)	
第2回	調査主題と調査フィールドの検討 (2)	
第3回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 (1)	
第4回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 (2)	
第5回	班別に作業仮説の検討 (1)	
第6回	班別に作業仮説の検討 (2)	
第7回	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (1)	
第8回	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (2)	
第9回	仮説の構築 (1)	
第10回	仮説の構築 (2)	
第11回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (1)	
第12回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (2)	
第13回	調査票 (案) 作成等 (1)	
第14回	調査票 (案) 作成等 (2)	
第15回	調査票 (案) 作成等 (3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会調査士II SB § 社会調査士II SG

13029

担当者名 / Instructor 平本 毅

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士II」および「社会調査士III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつ受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査主題と調査フィールドの検討 (1)	
第2回	調査主題と調査フィールドの検討 (2)	
第3回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 (1)	
第4回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 (2)	
第5回	班別に作業仮説の検討 (1)	
第6回	班別に作業仮説の検討 (2)	
第7回	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (1)	
第8回	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (2)	
第9回	仮説の構築 (1)	
第10回	仮説の構築 (2)	
第11回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (1)	
第12回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (2)	
第13回	調査票 (案) 作成等 (1)	
第14回	調査票 (案) 作成等 (2)	
第15回	調査票 (案) 作成等 (3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会調査士Ⅱ SC

13117

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつ受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査主題と調査フィールドの検討 (1)	
第2回	調査主題と調査フィールドの検討 (2)	
第3回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 (1)	
第4回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 (2)	
第5回	班別に作業仮説の検討 (1)	
第6回	班別に作業仮説の検討 (2)	
第7回	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (1)	
第8回	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (2)	
第9回	仮説の構築 (1)	
第10回	仮説の構築 (2)	
第11回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (1)	
第12回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (2)	
第13回	調査票 (案) 作成等 (1)	
第14回	調査票 (案) 作成等 (2)	
第15回	調査票 (案) 作成等 (3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会調査士Ⅱ SD

13116

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつ受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査主題と調査フィールドの検討 (1)	
第2回	調査主題と調査フィールドの検討 (2)	
第3回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 (1)	
第4回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 (2)	
第5回	班別に作業仮説の検討 (1)	
第6回	班別に作業仮説の検討 (2)	
第7回	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (1)	
第8回	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (2)	
第9回	仮説の構築 (1)	
第10回	仮説の構築 (2)	
第11回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (1)	
第12回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (2)	
第13回	調査票 (案) 作成等 (1)	
第14回	調査票 (案) 作成等 (2)	
第15回	調査票 (案) 作成等 (3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会調査士Ⅲ SA

15489

担当者名 / Instructor 大野 威、高橋 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査結果の整理と確認 (1)	
第2回	調査結果の整理と確認 (2)	
第3回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (1)	
第4回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (2)	
第5回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (3)	
第6回	データクリーニング、分析案の検討 (1)	
第7回	データクリーニング、分析案の検討 (2)	
第8回	面接による補足調査 (1)	
第9回	面接による補足調査 (2)	
第10回	データ解析作業 (1)	
第11回	中間報告会	
第12回	データ解析作業 (2)	
第13回	データ解析作業 (3)	
第14回	調査報告書の作成、編集 (1)	
第15回	調査報告書の作成、編集 (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査士Ⅲ SB S 社会調査士Ⅲ SG

15485

担当者名 / Instructor 平本 毅

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査結果の整理と確認 (1)	
第2回	調査結果の整理と確認 (2)	
第3回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (1)	
第4回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (2)	
第5回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (3)	
第6回	データクリーニング、分析案の検討 (1)	
第7回	データクリーニング、分析案の検討 (2)	
第8回	面接による補足調査 (1)	
第9回	面接による補足調査 (2)	
第10回	データ解析作業 (1)	
第11回	中間報告会	
第12回	データ解析作業 (2)	
第13回	データ解析作業 (3)	
第14回	調査報告書の作成、編集 (1)	
第15回	調査報告書の作成、編集 (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査士Ⅲ SC

15577

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査結果の整理と確認 (1)	
第2回	調査結果の整理と確認 (2)	
第3回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (1)	
第4回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (2)	
第5回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (3)	
第6回	データクリーニング、分析案の検討 (1)	
第7回	データクリーニング、分析案の検討 (2)	
第8回	面接による補足調査 (1)	
第9回	面接による補足調査 (2)	
第10回	データ解析作業 (1)	
第11回	中間報告会	
第12回	データ解析作業 (2)	
第13回	データ解析作業 (3)	
第14回	調査報告書の作成、編集 (1)	
第15回	調査報告書の作成、編集 (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査士Ⅲ SD

15576

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査結果の整理と確認 (1)	
第2回	調査結果の整理と確認 (2)	
第3回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (1)	
第4回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (2)	
第5回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 (3)	
第6回	データクリーニング、分析案の検討 (1)	
第7回	データクリーニング、分析案の検討 (2)	
第8回	面接による補足調査 (1)	
第9回	面接による補足調査 (2)	
第10回	データ解析作業 (1)	
第11回	中間報告会	
第12回	データ解析作業 (2)	
第13回	データ解析作業 (3)	
第14回	調査報告書の作成、編集 (1)	
第15回	調査報告書の作成、編集 (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武／ミネルヴァ書房／4623041042／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

音楽I SA

20360

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。表現・鑑賞領域の学習内容について、教材研究や授業づくりの基本的な方法論の検討を通して、音楽活動のあり方や教材選択と教材解釈の方法についての理解をうながし、実践の力量の形成をめざす。また音楽科授業において必要とされる簡単な和音伴奏による伴奏や弾き歌いのスキル、代表的な歌唱教材や器楽教材の表現スキルを身につける。

本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。(シラバスに記載するテーマによる学習と、主に鍵盤楽器を中心とした個人の実技的な学習を並行して授業を構成する。)

到達目標 / Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽の基礎的技能と実践的諸能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめにー初等音楽で学ぶもの	
2	西洋音楽の決まりごと①ー五線譜を読もう	
3	西洋音楽の決まりごと②ーみんなで五線譜を奏でよう	
4	鍵盤楽器の基礎・基本①ー一人で五線譜を表現してみよう	
5	鍵盤楽器の基礎・基本②ー五線譜を表現してみよう	
6	和音伴奏の作り方①ー音楽の理論を学習して、和音伴奏をつくろう	
7	和音伴奏の作り方②ー和音伴奏をつくって弾き歌いに挑戦しよう	
8	リコーダーの基礎・基本①ーリコーダーに挑戦しよう	
9	リコーダー②ーリコーダーで表現しよう	
10	アンサンブルーいろいろな楽器をつかってアンサンブルに挑戦しよう	
11	いろいろな音①ーサウンド・スケープ	
12	いろいろな音楽②ー日本の音を体験しよう	
13	いろいろな音楽③ー世界の音楽を体験しよう	
14	音楽づくりー自由な発想で音楽をつくって表現しよう	
15	発表会ー演奏会をしよう	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特に音楽実技が不得意だと思ふ人は、授業に向けて少しでも個人練習するよう心がけてください。

また日常からさまざまなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするよう心がけましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	発表会での個人発表を評価の対象とします。
平常点(日常的)	50 %	出席、授業時の課題、授業内の小テスト、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しづつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めて、演奏することができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。

一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろな音楽に接してみてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『改訂新版初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編／音楽之友社／4-276-82007-3／

必ず持参してください。

このほか、必要に応じて、レジュメ等を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編／／／
音さがしの本	R.マリー・シェイファー／春秋社／4-393-93438-5／
ピアノ伴奏法入門 ひとりでマスター	鈴木渉著／子どもの未来社／4-901330-07-1／
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著／音楽之友社／427610050X／
日本の音―世界のなかの日本音楽 (平凡社ライブラリー)	小泉 文夫 著／平凡社／4582760716／
楽しいボディ・パーカッション (1) (2) (3)	山田俊之／音楽之友社／4276315727・4276315735・4276315743 ／
世界の調律	R.マリー・シェイファー／平凡社／／
音のなかの文化 (小泉文夫著作選集)	小泉文夫著／学習研究社／4054020771／
音遊びするもの よっといで1・2	トレバー・ウィシャート／音楽之友社／／
日本音楽がわかる本	千葉優子 著／音楽之友社／4276133149／
音楽の基礎	鞍掛昭二、小桜秀爾、廣中宏雄、山田輝子、若林延昌 著／音楽之友社／4276100488／
新編音楽中辞典	海老澤敏、上参郷祐康、西岡信雄、山口修 監修／音楽之友社／4276000173／
音楽科重要用語300の基礎知識	吉富功修編集／明治図書／4-18-717802-3／
その他、授業時に適宜紹介します。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介します。

その他 / Others

ソプラノリコーダーを使用します。各自で準備してください。(バロック式、ジャーマン式いずれも可)

音楽I SB

20361

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。表現・鑑賞領域の学習内容について、教材研究や授業づくりの基本的な方法論の検討を通して、音楽活動のあり方や教材選択と教材解釈の方法についての理解をうながし、実践的力量的形成をめざす。また音楽科授業において必要とされる簡単な和音伴奏による伴奏や弾き歌いのスキル、代表的な歌唱教材や器楽教材の表現スキルを身につける。

本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。(シラバスに記載するテーマによる学習と、主に鍵盤楽器を中心とした個人の実技的な学習を並行して授業を構成する。)

到達目標 / Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽の基礎的技能と実践的諸能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめにー初等音楽で学ぶもの	
2	西洋音楽の決まりごと①ー五線譜を読もう	
3	西洋音楽の決まりごと②ーみんなで五線譜を奏でよう	
4	鍵盤楽器の基礎・基本①ー一人で五線譜を表現してみよう	
5	鍵盤楽器の基礎・基本②ー五線譜を表現してみよう	
6	和音伴奏の作り方①ー音楽の理論を学習して、和音伴奏をつくろう	
7	和音伴奏の作り方②ー和音伴奏をつくって弾き歌いに挑戦しよう	
8	リコーダーの基礎・基本①ーリコーダーに挑戦しよう	
9	リコーダー②ーリコーダーで表現しよう	
10	アンサンブルーいろいろな楽器をつかってアンサンブルに挑戦しよう	
11	いろいろな音①ーサウンド・スケープ	
12	いろいろな音楽②ー日本の音を体験しよう	
13	いろいろな音楽③ー世界の音楽を体験しよう	
14	音楽づくりー自由な発想で音楽をつくって表現しよう	
15	発表会ー演奏会をしよう	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特に音楽実技が不得意だと思ふ人は、授業に向けて少しでも個人練習するよう心がけてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	発表会での個人発表を評価の対象とします。
平常点(日常的)	50 %	出席、授業時の課題、授業内の小テスト、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しづつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めて、演奏することができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。

一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろな音楽に接してみてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『改訂新版初等音楽科教育法』

初等音楽教育研究会編／音楽之友社／4-276-82007-3／

必ず持参してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編／／／
音さがしの本	R.マリー・シェイファー／春秋社／4-393-93438-5／
ピアノ伴奏法入門 ひとりでマスター	鈴木渉著／子どもの未来社／4-901330-07-1／
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著／音楽之友社／427610050X／
日本の音―世界のなかの日本音楽 (平凡社ライブラリー)	小泉 文夫 著／平凡社／4582760716／
楽しいボディ・パーカッション (1) (2) (3)	山田俊之／音楽之友社／4276315727・4276315735・4276315743／
世界の調律	R.マリー・シェイファー／平凡社／／
音のなかの文化 (小泉文夫著作選集)	小泉文夫著／学習研究社／4054020771／
音遊びするもの よっといで1・2	トレバー・ウィシャート／音楽之友社／／
日本音楽がわかる本	千葉優子 著／音楽之友社／4276133149／
音楽の基礎	鞍掛昭二、小桜秀爾、廣中宏雄、山田輝子、若林延昌 著／音楽之友社／4276000173／
音楽科重要用語300の基礎知識	吉富功修編集／明治図書／4-18-717802-3／
その他、授業時に適宜紹介します。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介します。

その他 / Others

ソプラノリコーダーを使用します。各自で準備してください。(バロック式、ジャーマン式いずれも可)

家庭 SA

20363

担当者名 / Instructor 加藤 佐千子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における家庭科の学習内容について、より高度な理解を促すと共に、教材研究や授業作りの基本的な方法論の検討を通して、実践的力量的形成を目指す。衣食住についての体験活動のあり方や適切な教材選択方法、家庭生活への関心や理解、裁縫や調理といった家庭科の内容について理解を促していく。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論、裁縫などの制作活動や調理実習なども組み入れ具体的な授業実践につながる教材研究の手法等の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校家庭科の指導内容がわかる。
- ・裁縫や調理の基本的知識、技術を理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
第2回目	家庭科の教育の本質と変遷、家庭科教育の目標と内容、学習指導要領の見方	歴史、目標、学習指導要領
第3回目	家庭生活への関心	家庭生活、家族
第4回目	衣類への関心1	衣生活の現状、被服材料、着方、手入れの仕方、洗濯、汚れの落ちる仕組み
第5回目	衣類への関心2	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、小物の製作
第6回目	衣類への関心3	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、小物の製作
第7回目	食事への関心1	栄養素、食品の特性
第8回目	食事への関心2 炊飯の原理、材料の切り方、包丁の持ち方 (ビデオ)、実習の説明	炊飯、切り方
第9回目	食事への関心3 実習室の使い方、実習計画立案、器具の確認	実習計画
第10回目	調理実習	ご飯、味噌汁、野菜炒め、ゆで卵
第11回目	調理実習	自由献立
第12回目	住まいへの関心 (ビデオ)	暖かい住まい方、涼しい住まい方
第13回目	学習指導案の作成方法	学習指導案
第14回目	学習指導案の作成、模擬授業、研究発表	模擬授業、研究発表
第15回目	模擬授業、研究発表、試験説明	模擬授業、研究発表、試験説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

調理実習は、事前に必要な材料を計算し、当日持参すること。また、食器拭きタオル、台布巾、鍋つかみを準備すること。簡単な小物の製作では、材料を事前に準備し当日持参すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	学習指導要領と家庭科に関する専門的内容を理解できたかどうかを確認する検証テストを実施する。
平常点(検証テスト)	30 %	授業への参加、取り組みの状況により評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活に関心を持って望んでほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説家庭科編	文部科学省 / / /
小学校の家庭科の目標、指導内容が詳しく解説されている	

参考書 / Reference Books

書名 / Title

家庭科教育法

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

佐藤文子ら／高陵社／4／

家庭科の歴史、指導方法、授業方法、設備など広く理解できる参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

家庭 SB

20364

担当者名 / Instructor 加藤 佐千子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における家庭科の学習内容について、より高度な理解を促すと共に、教材研究や授業作りの基本的な方法論の検討を通して、実践的力量的形成を目指す。衣食住についての体験活動のあり方や適切な教材選択の方法、家庭生活への関心や理解、裁縫や、調理といった主な家庭科の内容についての理解を促していく。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論、裁縫などの制作活動や調理実習なども組み入れ、具体的な授業実践につながる教材研究の手法等の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校家庭科の指導内容がわかる。
- ・裁縫や調理の基本的知識、技術を理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
第2回目	家庭科の教育の本質と変遷、家庭科の目標と内容、学習指導要領の見方	歴史、目標、学習指導要領
第3回目	家庭生活への関心	家庭生活、家族
第4回目	衣類への関心1	衣生活の現状、被服材料、着方、手入れの仕方、選択、汚れの落ちる仕組み
第5回目	衣類への関心2	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、小物の製作
第6回目	衣類への関心3	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、小物の製作
第7回目	食事への関心1	栄養素、食品の品質
第8回目	食事への関心2 炊飯の原理、材料の切り方、包丁の持ち方 (ビデオ)、実習の説明	炊飯、切り方
第9回目	食事への関心3 実習室の使い方、実習計画立案、器具の確認	実習計画
第10回目	調理実習	ご飯、味噌汁、野菜炒め、ゆで卵
第11回目	調理実習	自由献立
第12回目	住まいへの関心 (ビデオ)	暖かい住まい方、涼しい住まい方
第13回目	学習指導案の作成方法	学習指導案
第14回目	学習指導案作成、模擬授業、研究発表	模擬授業、研究発表
第15回目	模擬授業、研究発表、試験説明	模擬授業、試験説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

調理実習に際して、事前に必要な材料を計算し、当日持参すること。また、食器拭きタオル、台布巾、鍋つかみを準備すること。簡単な小物の製作では、材料を事前に準備し、当日持参すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	学習指導要領と家庭科に関する専門的内容を理解できたかどうかを確認する検証テストを実施する。
平常点(日常的)	30 %	授業への参加、取り組みの状況により評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活に関心を持って望んでほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説家庭科編	文部科学省 / / /
小学校の家庭科の目標、指導内容が詳しく解説されている。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title

家庭科教育法

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

佐藤文子ら／高陵社／4-7711-0028-4／

家庭科の歴史、指導方法、授業方法、設備など広く理解できる参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

算数科教育法 SA

20351

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数科の概論として位置付き、算数の歴史的展開、目標論、内容構成論、授業論、評価論、現代の課題などについて、学習指導要領の変遷にも言及しながら、算数教育の基本的原理を概観し、実践上の諸課題を探究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数科の基本原則を理解し、実践上の諸課題を探究する力量を形成すること。
- 2 算数科の歴史的展開を踏まえ、その内容構成に即した指導方法について実践できること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修すること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「算数」とは何か？	Arithmetic と Elementary Mathematics, 算数と数学の相違, 算数教育の意義と基本的性格
第2回	算数教育の目標と現状	国際調査, 目標論, TIMSS, PISA
第3回	算数教育の史的展開①西洋化と近代化	和算から洋算へ, 黒表紙・緑表紙・青表紙教科書, 数理思想, 数学教育近代化
第4回	算数教育の史的展開②現代化と情報化	学習指導要領の変遷, 生活単元学習, 数学教育現代化, よさの感得, 活用
第5回	算数科指導内容論①数と計算	集合, 写像, 数の体系, ペアノの公理, モジュラー算術, 合同式
第6回	算数科指導内容論②量と測定	保存, 測定・誤差, 内包量・外延量, 加法性, 次元
第7回	算数科指導内容論③図形と空間	点・直線・平面, 次元, 対称性, 射影, 位相
第8回	算数科指導内容論④数量関係	比と比例, 割合, 線形性, 記述統計・推測統計
第9回	算数科指導方法論①基本原理	多様性・練り上げ, 協同・構成, 問題解決・問題設定, 公理的・構成的方法
第10回	算数科指導方法論②指導計画	学習指導案, 教授学的変換, 教材研究, 数学的構造と概念形成, 操作性, 視覚化
第11回	算数科指導方法論③実践展開	算数的活動, 意味と手続き, 誤答分析, オープンエンドアプローチ, よさの感得
第12回	算数科指導方法論④テクノロジー活用と限界	マルチメディア, タブレットPC, デジタルコンテンツ
第13回	算数科教材論	教材分析, 教科書比較 (6社), 階層化, 特殊・一般, 数学的系統と指導系統
第14回	算数科授業論	授業設計, 授業研究(Lesson Study), 優れた算数授業, 発問分析
第15回	算数科評価論	評価類型, 観点別評価, 自己評価とメタ認知, 指導と評価の一体化, ポートフォリオ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

近隣地域や各附属学校の授業研究会などに自主的に参加することが望ましい。算数の学習指導において現職の先生方がどのような問題を抱え、よりよい教育の実現に向けて継続的に努力しているのかについて敬意を払いながら、算数実践の難しさを感じて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準／規準は講義中に提示する。
レポート試験	10 %	課題レポートの提出を求める。算数授業VTRを視聴した上で、その内容を所定の様式で要約し、自分の考えを論理的に述べられるかを評価する。
平常点(日常的)	40 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め、授業内容の要旨記述 (100字程度) から、講義の理解度をみる。また平常点 (学習態度、質問内容、討論参加等) も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数の2／3以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

算数科教育法は、単に教え方(Know-how)を学ぶものではない。人間が算数・数学を学ぶとはどういう営みであるのかを深く考えることで、小学校教員の在るべき姿や責任、心構えをしっかりと見出して欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図でみる日本の算数・数学授業研究	清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也 / 明治図書出版 / 4-18-526616-2 / 算数指導の改善を進める際の基本情報。
日本の算数・数学教育に学べー米国が目指す jugyoukenkyuu	James W. Stigler, James Hiebert / 教育出版 / 4-316-38910-6 / 算数授業再構築のための授業論。
新版 算数教育の理論と実際	数学教育学研究会 / 聖文新社 / 4-7922-0090-3 / 算数科教育の内容・方法が具体例と共に網羅してある。

基本的に、各社の算数教科書と指導書、学習指導要領を参考とする。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて抜粋を配布する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ① 小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm
 (PISA2003及びTIMSS2003結果分析と指導改善の方向が示されている)
- ② 文部科学省学習指導要領告示
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301.htm
 (指導要領が新旧対照で参照できる)

その他 / Others

授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。またPCを利用した授業を行う場合もある。PC利用に嫌悪をもたない程度のリテラシーを事前に身につけておいて欲しい。

算数科教育法 SB

20352

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数科の概論として位置付き、算数の歴史的展開、目標論、内容構成論、授業論、評価論、現代の課題などについて、学習指導要領の変遷にも言及しながら、算数教育の基本的原理を概観し、実践上の諸課題を探究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数科の基本原則を理解し、実践上の諸課題を探究する力量を形成すること。
- 2 算数科の歴史的展開を踏まえ、その内容構成に即した指導方法について実践できること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修すること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「算数」とは何か？	Arithmetic と Elementary Mathematics, 算数と数学の相違, 算数教育の意義と基本的性格
第2回	算数教育の目標と現状	国際調査, 目標論, TIMSS, PISA
第3回	算数教育の史的展開①西洋化と近代化	和算から洋算へ, 黒表紙・緑表紙・青表紙教科書, 数理思想, 数学教育近代化
第4回	算数教育の史的展開②現代化と情報化	学習指導要領の変遷, 生活単元学習, 数学教育現代化, よさの感得, 活用
第5回	算数科指導内容論①数と計算	集合, 写像, 数の体系, ペアノの公理, モジュラー算術, 合同式
第6回	算数科指導内容論②量と測定	保存, 測定・誤差, 内包量・外延量, 加法性, 次元
第7回	算数科指導内容論③図形と空間	点・直線・平面, 次元, 対称性, 射影, 位相
第8回	算数科指導内容論④数量関係	比と比例, 割合, 線形性, 記述統計・推測統計
第9回	算数科指導方法論①基本原理	多様性・練り上げ, 協同・構成, 問題解決・問題設定, 公理的・構成的方法
第10回	算数科指導方法論②指導計画	学習指導案, 教授学的変換, 教材研究, 数学的構造と概念形成, 操作性, 視覚化
第11回	算数科指導方法論③実践展開	算数的活動, 意味と手続き, 誤答分析, オープンエンドアプローチ, よさの感得
第12回	算数科指導方法論④テクノロジー活用と限界	マルチメディア, タブレットPC, デジタルコンテンツ
第13回	算数科教材論	教材分析, 教科書比較 (6社), 階層化, 特殊・一般, 数学的系統と指導系統
第14回	算数科授業論	授業設計, 授業研究(Lesson Study), 優れた算数授業, 発問分析
第15回	算数科評価論	評価類型, 観点別評価, 自己評価とメタ認知, 指導と評価の一体化, ポートフォリオ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

近隣地域や各附属学校の授業研究会などに自主的に参加することが望ましい。算数の学習指導において現職の先生方がどのような問題を抱え、よりよい教育の実現に向けて継続的に努力しているのかについて敬意を払いながら、算数実践の難しさを感じて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準／規準は講義中に提示する。
レポート試験	10 %	課題レポートの提出を求める。算数授業VTRを視聴した上で、その内容を所定の様式で要約し、自分の考えを論理的に述べられるかを評価する。
平常点(日常的)	40 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め、授業内容の要旨記述 (100字程度) から、講義の理解度をみる。また平常点 (学習態度、質問内容、討論参加等) も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数の2／3以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

算数科教育法は、単に教え方(Know-how)を学ぶものではない。人間が算数・数学を学ぶとはどういう営みであるのかを深く考えることで、小学校教師の在るべき姿や責任、心構えをしっかりと見出して欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図でみる日本の算数・数学授業研究	清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也 / 明治図書出版 / 4-18-526616-2 / 算数指導の改善を進める際の基本情報。
日本の算数・数学教育に学べー米国が目指す jugyoukenkyuu	James W. Stigler, James Hiebert / 教育出版 / 4-316-38910-6 / 算数授業再構築のための授業論。
新版 算数教育の理論と実際	数学教育学研究会 / 聖文新社 / 4-7922-0090-3 / 算数科教育の内容・方法が具体例と共に網羅してある。

基本的に、各社の算数教科書と指導書、学習指導要領を参考とする。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて抜粋を配布する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ① 小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm
 (PISA2003及びTIMSS2003結果分析と指導改善の方向が示されている)
- ② 文部科学省学習指導要領告示
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301.htm
 (指導要領が新旧対照で参照できる)

その他 / Others

授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。またPCを利用した授業を行う場合もある。PC利用に嫌悪をもたない程度のリテラシーを事前に身につけておいて欲しい。

初等国語科教育法 SA

20347

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の指導法に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科の歴史的展開、目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、児童の言語発達の特徴をふまえながら、原理的実践的に探求する。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論を組み入れることにより、教材研究、教材開発、授業改善のための実践的力量的形成を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の内容と教師の役割に関する基礎的知識を理解する。
- ・国語学力に関連する子どもの発達特性と指導方法の基礎的知識・技術を理解する。
- ・小学校国語科の教材研究、教材開発、授業改善、教育評価等に関する基礎的知識・技術を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国語科教育の歴史的展開と現代的課題	学習指導要領と教科書の特徴 教科の構造
第2回	「書くこと」領域の教材研究と授業①	文章表現技術の特徴 「作文」「綴方」「書くこと」の違い 生活と表現
第3回	「書くこと」領域の教材研究と授業②	幼・小連携の課題 低学年の発達特徴 入門期の教材 と指導
第4回	「書くこと」領域の教材研究と授業③	中学年の発達特徴 教材と指導の実際 創作指導の課 題
第5回	「書くこと」領域の教材研究と授業④	高学年の発達特徴 教材と指導の実際 「調べて書く」こ この指導
第6回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業①	美しい声 小学生の声と体の実態 音読・朗読の基礎技 術
第7回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業②	群読のためのシナリオづくり
第8回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業③	群読の実演
第9回	「読むこと」領域の教材研究と授業①	文芸学の基礎知識 構造 視点
第10回	「読むこと」領域の教材研究と授業②	民話教材の教材研究と授業
第11回	「読むこと」領域の教材研究と授業③	平和教材の教材研究と授業
第12回	「読むこと」領域の教材研究と授業④	詩の教材研究と授業
第13回	「読むこと」領域の教材研究と授業⑤	説明文教材と授業
第14回	読書・「言語事項」に関する指導法	読書指導の課題と方法 文字・語彙・文法・漢字・書写 の指導法
第15回	国語科教育における教師の役割	教師のまなざし 教育実践に学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小集団を基礎とした教材研究、指導案の作成、模擬授業など、演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となる。事前の準備を適宜指示することができる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	国語教育の内容と方法に関する諸問題の中から、受講生の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。テーマ設定の妥当性、論究過程における論理性・具体性・実証性などを評価する。
平常点(日常的)	40 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や回数程度提起される小レポート(指導案等)の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

出席するだけでは単位取得は難しい。個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

言葉と国語教育に関してはもとより、学校と教育をめぐる幅広い関心を育ててほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新しい小学国語の創造』

伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎／双文社出版／978-4-88164-080-7／問題提起的な研究書である。

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『小学校学習指導要領解説 国語編』

文部省／東洋館出版社／4-491-01549-X／

十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。 <http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm>**その他 / Others**

初等国語科教育法 SB

20348

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の指導法に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科の歴史的展開、目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、児童の言語発達の特徴をふまえながら、原理的実践的に探求する。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論を組み入れることにより、教材研究、教材開発、授業改善のための実践的力量的形成を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の内容と教師の役割に関する基礎的知識を理解する。
- ・国語学力に関連する子どもの発達特性と指導方法の基礎的知識・技術を理解する。
- ・小学校国語科の教材研究、教材開発、授業改善、教育評価等に関する基礎的知識・技術を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国語科教育の歴史的展開と現代的課題	学習指導要領と教科書の特徴 教科の構造
第2回	「書くこと」領域の教材研究と授業①	文章表現技術の特徴 「作文」「綴方」「書くこと」の違い 生活と表現
第3回	「書くこと」領域の教材研究と授業②	幼・小連携の課題 低学年の発達特徴 入門期の教材 と指導
第4回	「書くこと」領域の教材研究と授業③	中学年の発達特徴 教材と指導の実際 創作指導の課 題
第5回	「書くこと」領域の教材研究と授業④	高学年の発達特徴 教材と指導の実際 「調べて書く」こ この指導
第6回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業①	美しい声 小学生の声と体の実態 音読・朗読の基礎技 術
第7回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業②	群読のためのシナリオづくり
第8回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業③	群読の実演
第9回	「読むこと」領域の教材研究と授業①	文芸学の基礎知識 構造 視点
第10回	「読むこと」領域の教材研究と授業②	民話教材の教材研究と授業
第11回	「読むこと」領域の教材研究と授業③	平和教材の教材研究と授業
第12回	「読むこと」領域の教材研究と授業④	詩の教材研究と授業
第13回	「読むこと」領域の教材研究と授業⑤	説明文教材と授業
第14回	読書・「言語事項」に関する指導法	読書指導の課題と方法 文字・語彙・文法・漢字・書写 の指導法
第15回	国語科教育における教師の役割	教師のまなざし 教育実践に学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小集団を基礎とした教材研究、指導案の作成、模擬授業など、演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となる。事前の準備を適宜指示することができる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	国語教育の内容と方法に関する諸問題の中から、受講生の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。テーマ設定の妥当性、論究過程における論理性・具体性・実証性などを評価する。
平常点(日常的)	40 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や回数程度提起される小レポート(指導案等)の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

出席するだけでは単位取得は難しい。個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

言葉と国語教育に関してはもとより、学校と教育をめぐる幅広い関心を育ててほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

『新しい小学国語の創造』

伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎／双文社出版／978-4-88164-080-7／問題提起的な研究書である。

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『小学校学習指導要領解説 国語編』

文部省／東洋館出版／4-491-01549-X／

十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。 <http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm>

その他 / Others

初等社会 SA

20356

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校社会科現行学習指導要領には、従来から地域学習として位置づけられてきた3・4年はもちろんのこと、5・6年の学習に於いても、身近な地域の社会的事象を教材化することの重要性が述べられている。立命館大学の立地する京都は、地域社会の発展に貢献した先人・伝統文化・文化遺産・産業・地域社会のつながりなど「地域教材」の宝庫であると言える。本授業に於いては、京都を題材として「地域教材」開発の視点及び方法について考察をすすめるが、講義のみではなくフィールドワーク・演習を随時交えて、実践的な地域教材開発のあり方を学ぶ。以上のことから本授業の副題を「子ども京都学」とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①地域教材開発の視点および方法について理解できる。
- ②小学校社会科の授業で実際に使える地域教材を開発することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等社会科教育法・「子どもと社会」「子どもと教育」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「子ども京都学」事始め	京都学
2	京都のあゆみ	京都の歴史
3	京都の世界文化遺産	文化遺産
4	京都を彩る祭と行事	年中行事
5	京都のまちなみ	伝統的景観
6	受け継がれる京の文化	伝統芸能・古典芸能
7	受け継がれる京の産業	伝統産業
8	京のくらしと食文化	生活文化
9	京都の豊かな自然	北山・鴨川
10	京都観光	国際文化観光都市
11	京都・衣笠を教材化しよう①～教材料の視点～	教材化
12	京都・衣笠を教材化しよう②～フィールドワーク～	フィールドワーク
13	京都・衣笠を教材化しよう③～「なぜなに京都・衣笠」をつくる～	教材開発
14	京都・衣笠を教材化しよう④～「なぜなに京都・衣笠」発表会～	プレゼンテーション
15	京都・衣笠を教材化しよう⑤～まとめ～	レポート作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	I. 各自が開発した教材（「なぜなに京都・衣笠」）一本 II. I を使った単元指導計画
平常点(日常的)	40 %	講義中に適宜行う講義内容に関するミニレポートにおいて、講義内容を理解した上で、自らの意見や考えをまとめることが出来る。
出席重視。2 / 3以上の出席が無い者は、上記の課題の成績如何に関わらず単位を認めない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

何気ない「人」・「もの」・「場所」・「しくみ」等でも、子どもたちにとって「よい教材」となるものは、身の回りにたくさんあります。日頃から意識的に「教材にすればおもしろいものはないかな？」という目で、さまざまな「人」・「もの」・「場所」・「しくみ」等を眺めてください。それこそがよい教材づくりの近道です。ときどきで良いから、キャンパスの周りを歩くと、京都らしいものを探しながら歩こう。また、これもときどきでよいから地域紙（京都ならば京都新聞）を読もう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
わたしたちの京都 3・4年上下	京都市小学校社会科教育研究会 / / /

参考書 / Reference Books**書名 / Title**

京都

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

林屋辰三郎／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

初等社会 SB

20357

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、初等社会科の授業構成論または授業研究として位置付け、初等社会科の授業構成論、授業の分析や授業開発方法、指導案の作成方法などの検討及びその実践を通して、初等社会科の授業づくりや学習指導についての実践的力量的形成を目指す。本授業は、グループ単位（または個人単位）による教材開発、学習指導案の作成、模擬授業実践という学生主体の演習形式で行う。

到達目標 / Attainment Objectives

教材研究・模擬授業を行うことによって、小学校の教員として求められる資質の内、初等社会科授業構成能力、すなわち、教材研究と学習指導案作成のための力量を培うことをねらいとする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	初等社会科教育とは何か	
2	初等社会科授業構成の理論と方法	
3	優れた初等社会科授業における教材研究	
4	演習事前協議①ーグループ分け及びグループ協議ー	
5	演習事前協議②ーグループ協議ー	
6	演習事前協議③ーグループ協議ー	
7	教材研究演習及び検討会	
8	学習指導案作成演習及び検討会①	
9	模擬授業及び検討会①	
10	模擬授業及び検討会②	
11	模擬授業及び検討会③	
12	模擬授業及び検討会④	
13	模擬授業及び検討会⑤	
14	模擬授業及び検討会⑥	
15	模擬授業及び検討会⑦	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

問題意識を持って臨むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	模擬授業の結果を踏まえて改善した学習指導案の提出を求める。
平常点(日常的)	50 %	出席及び各演習・検討会への取り組みによる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演習が中心になるので、まずは出席すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
わたしたちの京都 3・4年 上	京都市小学校社会科教育研究会編／教材研究所／／
わたしたちの京都 3・4年 下	京都市小学校社会科教育研究会編／教材研究所／／
1-3回目については授業内容に応じたレジュメを配布する。	
4回目以降の各演習は『わたしたちの京都』の中から内容を選択して行う。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校の“優れた社会科授業”の条件	全国社会科教育学会編著／明治図書／／
小学校学習指導要領解説 社会編	文部省／日本文教出版／／
演習内容に応じて適宜紹介する。	
学習指導要領の改訂が予定されているため、改訂後の新指導要領についても主な変更点を中心に扱うことになる。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

初等社会科教育法 SA

20349

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、初等社会科の概論として位置付け、初等社会科の歴史的展開、目標論、内容構成論、授業論、評価論、現代の課題などについて、学習指導要領などにも言及しながら、初等社会科の基本的原理を概観し、実践上の諸課題を探究する。

到達目標 / Attainment Objectives

初等社会科の基本的原理について概観していくことを通して、初等社会科授業のあり方と構成の方法について理解し、授業をつくり、説明し、擁護するために必要となる見方・考え方を形成することを主たる目的とする。また、児童(生徒)として形成してきている常識的な社会科授業観を変革し、プロとしての、授業者としての見識を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	初等社会科教育とは何か	
2	初等社会科教育の意義	
3	初等社会科教育の史的展開(1)	
4	初等社会科教育の史的展開(2)	
5	初等社会科教育の目標と内容	
6	初等社会科授業構成の理論と方法	
7	初等社会科教材研究の目的と方法	
8	初等社会科の学習指導(1)－授業VTR(第3学年及び第4学年)の視聴－	
9	初等社会科の学習指導(2)－グループ・ディスカッション－	
10	初等社会科の学習指導(3)－授業VTR(第5学年)の視聴－	
11	初等社会科の学習指導(4)－グループ・ディスカッション－	
12	初等社会科の学習指導(5)－授業VTR(第6学年)の視聴－	
13	初等社会科の学習指導(6)－グループ・ディスカッション－	
14	初等社会科教育の評価	
15	初等社会科教育内容開発	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

問題意識を持って授業に臨むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終レポートにおいて、授業内容を踏まえた上での望ましい初等社会科授業のあり方について問う。
平常点(日常的)	50 %	出席及びコメントペーパーによる。
出席及びコメントペーパーについては複数回、不定期を予定。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業VTRの視聴や受講生同士のディスカッションなども行うので、まずは出席すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
改訂新版 初等社会科教育学	社会認識教育学会編／学術図書／／
小学校学習指導要領解説 社会編	文部省／日本文教出版／／

授業内容に応じたレジュメも合わせて配布する。

学習指導要領の改訂が予定されているため、改訂後の新指導要領についても、主な変更点を中心に扱うことになる。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

初等社会科教育法 SB

20350

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業スケジュールの前半は、社会科の目標、歴史、生活科との違い、現行学習指導要領に定められた小学校社会科の目標及び内容、学習指導要領に沿った年間指導計画の作成など小学校社会科指導の基礎的知識・技能について学ぶ。後半は、「教材」「基礎・基本」「個に応じた指導」「問題解決能力」「評価」などに焦点を当て、実際に社会科の指導を行う際のポイントについて、実践例を通して考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①小学校社会科の目標及び内容を理解できる。
- ②小学校社会科の指導計画作成・授業実践・評価のポイントが理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「子どもと社会」「子どもと教育」「教職に関する科目」など

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会科とは何か①～社会科の目標～	公民的資質
2	社会科とは何か②～社会科のあゆみ～	社会科教育史・初期社会科
3	社会科とは何か③～生活科と社会科～	社会科の特性・生活科
4	学習指導要領の内容①～3・4年生の社会科～	地域学習
5	学習指導要領の内容②～5年生の社会科～	産業学習・国土学習
6	学習指導要領の内容③～6年生の社会科～	歴史学習・政治学習・国際理解学習
7	年間指導計画の作成	年間指導計画
8	教材の工夫と開発①～よい教材とは何か～	教材開発
9	教材の工夫と開発②～地域の「素材・人材・施設」の活用～	地域教材
10	教材の工夫と開発③～「教科書」「地図帳」の活用～	教科書・地図帳
11	基礎・基本をおさえた学習指導の実際	授業実践・基礎基本
12	個に応じた学習指導の実際	学力保障・個に応じた指導
13	問題解決能力を育てる学習指導の実際	問題解決学習
14	小学校社会科の新しい評価の考え方と方法	評価
15	小学校社会科の課題	課題についての解説

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	小学校社会科の課題を、講義内容と関連させて把握した上で、自らの考えを交えてまとめられているか。
平常点(日常的)	80 %	講義中に適宜行う講義内容に関するミニレポートにおいて、講義内容を理解した上で、自らの意見や考えをまとめることが出来る。
出席重視。2/3以上の出席が無い者は、上記の課題の成績如何に関わらず単位を認めない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職につくための知識・技能を習得する授業であると同時に、教職に対するキャリア開発の授業と考えているので、教職にふさわしくない受講態度は謹んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説社会編	文部省(文部科学省)／日本文教出版／4-536-40072-9／
小学校社会科 基礎・基本と学習指導の実際	北俊夫・安野功／東洋館出版社／4-491-01775-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領 解説生活編	文部省(文部科学省)／日本文教出版／4-536-41004-1／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

初等体育 SA

20358

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校体育の各領域から特にボール運動の典型教材やその指導の系統性を実践的に学ぶ。ボール運動は上手い下手がはっきりするため、その中でどのような授業作りを展開するのかを中心に行う。グループ学習の実際を体験的に学ぶという児童の立場からの学びに加えて、それぞれのグループでの指導案づくりと実施、総括などの教師の立場からに立って学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

授業で取り上げる種目の中身の理解を求めることは当然であるが、それら教材に備わっている典型性を生かして、新たに教材を構成する力量を養う。また、体育授業における競争や評価の考え方、あるいは話し合いの指導の仕方を身につけることができるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	概要の説明とグルーピング
2	フラッグ・フットボールⅠ	導入とランプレーの典型
3	フラッグ・フットボールⅡ	パスプレーの典型
4	フラッグ・フットボールⅢ	作戦作りとスコア
5	フラッグ・フットボールⅣ	フラッグ・フットボールのまとめ
6	バスケットボールⅠ	シュート調査
7	バスケットボールⅡ	縦型の2対0からのシュート。ゲームの様相発展段階を知る。
8	バスケットボールⅢ	作戦作りとスコアによる評価
9	バスケットボールⅣ	バスケットボールのまとめ
10	ソフトバレーボールⅠ	導入とバスの研究
11	ソフトバレーボールⅡ	2回目のボールを確実にセッターが触るには？
12	ソフトバレーボールⅢ	上手い子と下手の子の関係
13	ソフトバレーボールⅣ	コンビネーションの意味と作戦作り
14	ソフトバレーボールⅤ	ソフトバレーボールのまとめ
15	授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この授業ではゲームのスコアをつけます。そのため、そのスコアを分析して、自分たちの課題を明確にしてくることを求めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	ボール運動の授業作りに欠かせないポイントのいくつかを問うものである。実際の授業実践事例と併せて、具体的に記述できているかどうかをみる。
平常点(日常的)	40 %	授業はグループ学習でそれぞれ役割を決めて進めていく。そのため、役割を果たされているか、スコアや感想文などの提出物が適切に提出されているかを評価の対象とする。
運動技能で評価することはありません。あくまでも子どもに教えるという観点から評価します。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

初等体育 SB

20359

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校体育の各領域から特にボール運動の典型教材やその指導の系統性を実践的に学ぶ。ボール運動は上手い下手がはっきりするため、その中でどのような授業作りを展開するのかを中心に行う。グループ学習の実際を体験的に学ぶという児童の立場からの学びに加えて、それぞれのグループでの指導案づくりと実施、総括などの教師の立場からに立って学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

授業で取り上げる種目の中身の理解を求めることは当然であるが、それら教材に備わっている典型性を生かして、新たに教材を構成する力量を養う。また、体育授業における競争や評価の考え方、あるいは話し合いの指導の仕方を身につけることができるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	概要の説明とグルーピング
2	フラッグ・フットボールⅠ	導入とランプレーの典型
3	フラッグ・フットボールⅡ	パスプレーの典型
4	フラッグ・フットボールⅢ	作戦作りとスコア
5	フラッグ・フットボールⅣ	フラッグフットボールのまとめ
6	バスケットボールⅠ	シュート調査
7	バスケットボールⅡ	縦型の2対0からのシュート。ゲームの様相発達段階を知る。
8	バスケットボールⅢ	作戦作りとスコアによる評価
9	バスケットボールⅣ	バスケットボールまとめ
10	ソフトバレーボールⅠ	導入とバスの研究
11	ソフトバレーボールⅡ	2回目のボールを確実にセッターが触るには？
12	ソフトバレーボールⅢ	上手い子と下手の子の関係
13	ソフトバレーボールⅣ	コンビネーションの意味と作戦作り
14	ソフトバレーボールⅤ	ソフトバレーボールのまとめ
15	授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この授業ではゲームのスコアをつけます。そのため、そのスコアを分析して、自分たちの課題を明確にしてくることを求めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	ボール運動の授業作りに欠かせないポイントのいくつかを問うものである。実際の授業実践事例と併せて、具体的に記述できているかどうかをみる。
平常点(日常的)	40 %	授業はグループ学習でそれぞれ役割を決めて進めていく。そのため、役割を果たされているか、スコアや感想文などの提出物が適切に提出されているかを評価の対象とする。
運動技能で評価することはありません。あくまでも子どもに教えるという観点から評価します。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

初等理科教育法 SA

20353

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校での理科教育の目標・内容・方法、および評価について包括的に解説するとともに、授業理論と指導方法について様々な事例を通して考察する。具体的には、

- 理科教育は何のために、なぜ行うのか (目的)
- 理科教育では、何を、どのように指導するのか (内容・方法)
- 理科の評価はどのように行えばよいのか (評価)

そして、

- 実験や、観察はどのように指導すればよいのだろう (実験・観察指導)

これらについて学習を深める。理科の授業の作り方と、それをいかに効果的に実施するかについての基礎的な力量を育成したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 小学校理科の変遷について、概要が説明出来る。
- ② 小学校理科の目標と内容が、学習指導要領との関わりで説明出来る。
- ③ 学習指導案が作成出来、それに基づいて観察・実験教材を用いた模擬授業がつかれる。
- ④ 実験教材のもつ有効性と限界を適切に把握し、理解出来る。
- ⑤ 観点別評価基準にしたがって、授業評価ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門Ⅰ、理科入門Ⅱ (事前に必要な知識、また心構え等を紹介しています)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理科への気づき ―オリエンテーションを兼ねて―	授業の目標、進め方 (グループ構成など)、また到達目標等の説明
第2回	理科とは何か (1)	理科の誕生 (明治、対象、昭和から平成へ)
第3回	理科とは何か (2) ―学習指導要領の変遷から―	生活理科から探究理科へ
第4回	理科とは何か (3) ―学習指導要領の変遷から―	「ゆとりの時代の理科」から「確かな学びの理科」へ
第5回	小学校理科の目標と内容 (内容と目標の関係)	これからの理科教育とその展望……検証テストの実施 (30分) ……
第6回	教材としての理科の内容 (1) ―A区分 (生物とその環境)―	環境教育との関係 (植物の受粉を事例として)
第7回	教材としての理科の内容 (2) ―B区分 (物質とエネルギー)―	素朴概念との関係 (てこによるつり合いを事例として)
第8回	教材としての理科の内容 (3) ―C区分 (地球と宇宙)―	素朴概念との関係 (地動説と天動説を事例として)
第9回	小学校における実験教材の取り扱い (安全面にも触れる)	基礎的な実験技能について (振り子の動きを事例として) ……検証テストの実施 (30分) ……
第10回	小中高という流れで捉えた理科の内容 (内容と学びの関係)	小学校理科では何を、どう指導すればよいのか
第11回	理科の授業と指導案 (1) ―基礎的な考え方―	理科の指導案とは何か、授業展開を示す指導案のスタイル
第12回	理科の授業と指導案 (2) ―実践例に触れる―	指導案の実例と模範授業 (メンター教師による授業)
第13回	理科の授業と指導案 (3) ―単元の構成と本時の授業について―	授業実践を左右する指導案の書き方……検証テストの実施 (30分) ……
第14回	理科における評価 (1) ―基本的な考え方―	相対評価、絶対評価、観点別評価と評定について
第15回	理科における評価 (2) ―評価の生かし方―	小学校の評価計画とその実際……検証テストの実施 (30分) ……

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は実験室で行います。「理科の内容」に関しては実験、実習を伴った授業を計画しています。具体的な指示については、第一回の授業時に伝えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業中に実施した「検証テスト」のテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、より深く追求する。あわせて、指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。
平常点 (検証テスト)	20 %	授業期間中に学修到達度を確認する検証テストを4回実施する。

平常点(日常的)

20 % 実験・実習等の取り組み(参加度), またその結果をまとめたレポート等により授業への積極的な関わり方を評価する。

レポート試験は, 各自が構想した指導案の作成を行ってもらいます。検証テストとの関係については, その詳細を6月末の講義時に発表します。なお, 検証テストは受験の翌週の授業で解説返却します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では, 各項目の概要に限定されます。より深く追求したい受講生には, グループ学習, また個別指導を行います。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しないが, 授業では必要に応じてプリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

小学校学習指導要領解説(理科編)

東洋館出版社／文部科学省／／

理科は理科系のための科目ですか

山下芳樹／森北出版／4-627-16121-2／備考参照

各種参考書は, 授業時に紹介します。なお, 後者の参考書は「教材の小中高の発展性」について詳細に扱っていますので購入しておいてください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時に連絡する。

その他 / Others

発展的な取り組みを歓迎します。希望者には, その詳細については授業時に連絡します。

初等理科教育法 SB

20354

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校での理科教育の目標・内容・方法、および評価について包括的に解説するとともに、授業理論と指導方法について様々な事例を通して考察する。具体的には、

- 理科教育は何のために、なぜ行うのか (目的)
- 理科教育では、何を、どのように指導するのか (内容・方法)
- 理科の評価はどのように行えばよいのか (評価)

そして、

- 実験や、観察はどのように指導すればよいのだろう (実験・観察指導)

これらについて学習を深める。理科の授業の作り方と、それをいかに効果的に実施するかについての基礎的な力量を育成したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 小学校理科の変遷について、概要が説明出来る。
- ② 小学校理科の目標と内容が、学習指導要領との関わりで説明出来る。
- ③ 学習指導案が作成出来、それに基づいて観察・実験教材を用いた模擬授業がつかれる。
- ④ 実験教材のもつ有効性と限界を適切に把握し、理解出来る。
- ⑤ 観点別評価基準にしたがって、授業評価ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門Ⅰ、理科入門Ⅱ (事前に必要な知識、また心構え等を紹介しています)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理科への気づき ―オリエンテーションを兼ねて―	授業の目標、進め方 (グループ構成など)、また到達目標等の説明
第2回	理科とは何か (1)	理科の誕生 (明治、対象、昭和から平成へ)
第3回	理科とは何か (2) ―学習指導要領の変遷から―	生活理科から探究理科へ
第4回	理科とは何か (3) ―学習指導要領の変遷から―	「ゆとりの時代の理科」から「確かな学びの理科」へ
第5回	小学校理科の目標と内容 (内容と目標の関係)	これからの理科教育とその展望……検証テストの実施 (30分) ……
第6回	教材としての理科の内容 (1) ―A区分 (生物とその環境)―	環境教育との関係 (植物の受粉を事例として)
第7回	教材としての理科の内容 (2) ―B区分 (物質とエネルギー)―	素朴概念との関係 (てこによるつり合いを事例として)
第8回	教材としての理科の内容 (3) ―C区分 (地球と宇宙)―	素朴概念との関係 (地動説と天動説を事例として)
第9回	小学校における実験教材の取り扱い (安全面にも触れる)	基礎的な実験技能について (振り子の動きを事例として) ……検証テストの実施 (30分) ……
第10回	小中高という流れで捉えた理科の内容 (内容と学びの関係)	小学校理科では何を、どう指導すればよいのか
第11回	理科の授業と指導案 (1) ―基礎的な考え方―	理科の指導案とは何か、授業展開を示す指導案のスタイル
第12回	理科の授業と指導案 (2) ―実践例に触れる―	指導案の実例と模範授業 (メンター教師による授業)
第13回	理科の授業と指導案 (3) ―単元の構成と本時の授業について―	授業実践を左右する指導案の書き方……検証テストの実施 (30分) ……
第14回	理科における評価 (1) ―基本的な考え方―	相対評価、絶対評価、観点別評価と評定について
第15回	理科における評価 (2) ―評価の生かし方―	小学校の評価計画とその実際……検証テストの実施 (30分) ……

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は実験室で行います。「理科の内容」に関しては実験、実習を伴った授業を計画しています。具体的な指示については、第一回の授業時に伝えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業中に実施した「検証テスト」のテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、より深く追求する。あわせて、指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。
平常点 (検証テスト)	20 %	授業期間中に学修到達度を確認する検証テストを4回実施する。

平常点(日常的)

20 % 実験・実習等の取り組み(参加度), またその結果をまとめたレポート等により授業への積極的な関わり方を評価する。

レポート試験は, 各自が構想した指導案の作成を行ってもらいます。検証テストとの関係については, その詳細を6月末の講義時に発表します。なお, 検証テストは受験の翌週の授業で解説返却します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では, 各項目の概要に限定されます。より深く追求したい受講生には, グループ学習, また個別指導を行います。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しないが, 授業では必要に応じてプリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

小学校学習指導要領解説(理科編)

東洋館出版社／文部科学省／／

理科は理科系のための科目ですか

山下芳樹／森北出版／4-627-16121-2／備考参照

各種参考書は, 授業時に紹介します。なお, 後者の参考書は「教材の小中高の発展性」について詳細に扱っていますので購入しておいてください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時に連絡する。

その他 / Others

発展的な取り組みを歓迎します。希望者には, その詳細については授業時に連絡します。

図画工作 SA

20362

担当者名 / Instructor 波多野 達二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「小学校図画工作科教育を行うための理論と実際」

小学校図画工作科の目標や内容について、具体的な題材を通して理解し、授業実践に向けての基礎的な能力を身につける。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校学習指導要領 図画工作科の目標にある「つくりだす喜びを味わう」ということを大切に。本授業は、どのようにすれば、「つくりだす喜びを味わう」授業が可能なのか、実際の題材に触れ、制作したりする中で、指導内容や指導方法を深めることを目標としている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	図画工作科では、何を教えるのか。
2	「子ども」とは (絵画分野で)	ローウェンフェルドの描画分類によって「子どもの描画の発達」を考察
3	「子ども」とは (工作分野で)	木工作の分野における子どもの発達について考察
4	子どもの持ち味を生かす授業のあり方 (1)	学習指導要領について
5	子どもの持ち味を生かす授業のあり方 (2)	～方式について
6	子どもの持ち味を生かす授業のあり方 (3)	造形あそびの可能性について
7	子どもの持ち味を生かす授業のあり方 (4)	学習指導案の書き方
8	図画工作科の授業 (1)	表現 (1) 「造形あそび」について
9	図画工作科の授業 (2)	表現 (2) 「絵に表す」について
10	図画工作科の授業 (3)	表現 (2) 「版に表す」について
11	図画工作科の授業 (4)	表現 (2) 「立体に表す」について
12	図画工作科の授業 (5)	表現 (2) 「工作に表す (1)」～紙を使った工作について
13	図画工作科の授業 (6)	表現 (2) 「工作に表す (2)」～紙以外の素材を使った工作について
14	図画工作科の授業 (7)	鑑賞について
15	図画工作 SA のまとめ	子どもと向き合う構えについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小学校学習指導要領解説 (図画工作編) をいつも手元に置き、説明した授業の内容と照らし合わせることが大切です。また7回目の授業以降、「教科書の写し」のプリントを随時配布しますが、いつも、「自分ならどのように授業を組み立てるか」問題意識を持って考えることが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	指導略案を作成する。子どもたちが「つくりだす喜びを味わう」ような授業にするために、どんな工夫を盛り込んでいるかを評価する。
平常点 (日常的)	60 %	授業内課題 (作品) 30 % 授業態度、授業への参加度 10 % 授業出席 20 % <授業回数の3分の1以上の欠席は、単位を認めません。>

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受け手として授業に参加するのではなく、積極的に学ぼうという意欲と問題意識を持って受講すること。

提出物は、必ず提出すること。事前に説明しますが、実技を行うときは、各自で、材料の準備をしなければならないこともあります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 図画工作編	文部科学省／日本文教出版株式会社／ISBN 4-536-4033-8 C3037／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
色彩 (造形のたのしさ)	財団法人日本色彩研究所／日本色研事業株式会社／ISBN 4-901355-20-

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

図画工作 SB

12788

担当者名 / Instructor 横澤 茂夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校図画工作科の学習(絵画・工作)について、絵画、木工作、粘土、版画、紙工作の制作を通して必要な指導の手立てや造形性、児童の発達を教授する。さらに、教科の目標や指導法について児童観、指導観、教材観を随時講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

制作活動を通して、基礎的な技術を習得する。さらに、授業を組み立てる際の児童観、教材観、指導観を制作を通して具体的に検証しながら小学校図画工作科指導の基礎を築いていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修しておかなくてはならない科目ではありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概容と導入	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
第2回目	絵画・花を描こう。花をどう描くか、オキーフの絵の鑑賞して	絵画制作、花の生命力(日高敏隆「春の数え方」より)、オキーフの造形性
第3回目	彩色仕上げと制作を通した絵画指導と制作のポイントをつかもう	花が浮き出て見える色のシステム、地と図の関係、色の明暗
第4回目	自分及び他人の作品の鑑賞を通して、鑑賞指導のねらい(他人と違う自分のよさに気づく)と絵画表現の目標	鑑賞指導、自己肯定感、絵画の造形性
第5回目	木工作にチャレンジ	切る、磨く、発想(つかって楽しめるもの)、構成
第6回目	作品を組み立て仕上げよう	木工作の造形性、形と色のバランス、色の4原色、色の明暗
第7回目	鑑賞活動と活動の目標を知ろう	自他の作品の鑑賞(伝えたい造形性)、木工作の目標(つくる活動のおもしろさ)
第8回目	粘土制作をしよう	材料・用具の特性、技術と表現力
第9回目	鑑賞活動と活動の目標を知ろう	自他の作品の鑑賞、粘土の造形性と制作の目標、イタリア／レジオ・エミリア市の幼児教育実践記録
第10回目	掘り進み木版画(描画と彫り)に挑戦しよう。	深海の魚、幻想、彫刻刀と彫り
第11回目	掘り進み木版画(堀と刷り)に挑戦しよう	彫りの効果と色の重なり、版画の造形性
第12回目	鑑賞活動と活動の目標を知ろう	P・クレイやA・ウォーホルの版画の造形性とは
第13回目	カッターを使った紙工作体験	テーマ、切る、曲げる、つなげる、止める、バランス、その造形性とは
第14回目	グループで指導案作成にチャレンジ、グループ内で簡単模擬授業を楽しもう!	指導案の作成、模擬授業、振り返り
第15回目	グループ代表による模擬授業をして、造形教育の楽しさを発見しよう!	模擬授業、全体の振り返り、希望と夢

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

第2回目: グループで花が必要です。事前に花を用意して花の描写体験をします。したがって、第1回目にグループ用意する人を予め決めておきます。

第5回目: 「木工作にチャレンジ」では、小学4年生のセット教材(「つくって、つかって、楽しんで」360円 KKはくぶん)の個人購入があります。集金は後日連絡する。

第13回目: 「カッターを使った紙工作体験」小学2年生のセット教材(「ニューデザインペーパー」A3判厚口 240円 KKはくぶん)の個人購入があります。集金は後日連絡する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	60 %	作品・作品の完成度 平常点評価A…工夫以上の表現ができる。 平常点評価B…工夫して(既習事項をつかうこと)表すことができる。
平常点(日常的)	40 %	授業期間中の学習参加度合いによる。造形に対する不思議やおもしろさについて、興味・関心・意欲の度合い(観察を中心に)。具体的には驚きや発見の喜びを味わって活動しているかどうかを活動を通して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講する時に必要なもの: エプロン、ハンドタオル、筆記具(4B程度の濃い鉛筆1本は必ず用意すること)

ノート

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books****書名 / Title**

春の数え方

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日高敏隆／新潮社／／生きものが生き延びるために工夫していることから、形と色の工夫（造形）の不思議や魅力について理解を深めるための参考書である。

造形作品についての鑑賞は、制作の過程で造形作家科の資料を示しながら、造形性についての理解を深めていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

生活科教育法 SA

20192

担当者名 / Instructor 深谷 圭助

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、小学校における生活科の概論として位置づけ、生活科の目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、学習指導要領や実践事例の検討などを組み入れながら、小学校生活科の基本原則を概観するとともに、実践上の諸課題を探究する。また、必要に応じて適宜、学習指導案の作成、模擬授業、討論などを組み入れるなどして、実践的力量養成をめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生活科教育に関する基礎理論について理解し、生活科教育におけるキーワードを用いながら、その理論について説明することができる
- ・生活科の授業を計画、構成し、子どもにとって魅力的な教材(学習材)を開発することができる
- ・子どもの展開する調査活動や具体的な体験活動の組織の仕方を学び、指導案を作成することができる。
- ・生活科の中で重視される表現活動の指導法について理解することができる。
- ・子どもの気づきのよさを認め、子どもの知的探究意欲を高める支援の仕方が理解することができる。
- ・生活科で行われる子どもによる自己評価、相互評価の手法や教員による評価方法について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

生活科は、低学年社会科と低学年理科を発展的に解消して設けられた教科である。したがって、その親教科というべき社会科、理科の教科教育法については履修しておくことが特に望まれる。また、生活科は教科横断型教科という特色も持っている。したがって、他の教科教育法科目について履修しておくことは有益である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生活科とは何かー教科としての独自性ー	児童中心主義 体験学習 経験主義教育 ボトムアップ
第2回	生活科の年間指導計画と単元構想、授業づくり ～ 模擬授業に向けて～	学校独自のカリキュラム開発 オープンエンド教育 グループづくり
第3回	生活科の内容(1) 学校と生活	学校探検、学校の友達、先生、お世話になっている人々、学校の機能
第4回	生活科の内容(2) 家庭と生活	家族の役割、家庭での仕事、家庭の機能
第5回	生活科の内容(3) 地域と生活	地域探検、地域コミュニティ、お祭り、ボランティア、地域の機能
第6回	生活科の内容(4) 公共物や公共施設の利用	遠足、通学、公共交通機関、公園、街、マナー、ルール
第7回	生活科の内容(5) 季節の変化と生活	地域の風土、日本の風土、季節に応じた生活の工夫
第8回	生活科の内容(6) 自然や物を使った遊び	制作活動、工作、おもちゃづくり、伝統的遊戯
第9回	生活科の内容(7) 動植物の飼育・栽培	小動物、昆虫の飼育 飼育法 植物(花、野菜)の栽培 栽培法
第10回	生活科の内容(8) 自分の成長	成長歴 生命の誕生 お世話になった人たち感謝
第11回	生活科における評価活動	自己評価 相互評価 ポートフォリオ評価 表現活動の重視
第12回	模擬授業(1)	小集団(ペア)による指導案作成、学習材準備、表現活動、相互評価、自己評価
第13回	模擬授業(2)	小集団(ペア)による指導案作成、学習材準備、表現活動、相互評価、自己評価
第14回	模擬授業(3)	小集団(ペア)による指導案作成、学習材準備、表現活動、相互評価、自己評価
第15回	模擬授業(4)	小集団(ペア)による指導案作成、学習材準備、表現活動、相互評価、自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

第2回で模擬授業に向けての小グループ(ペア)を決める。第3回から第11回にかけて、「生活科の内容」について生活科8領域の講義を行うが、その中で、どの領域に関する模擬授業を行いたいかを小グループ(ペア)で相談する。こうした相談は授業外学習において行う。模擬授業に関する準備は基本的に授業外で行い、このことに関する相談は、必要に応じて相談すること。第12回から第15回にかけて模擬授業を実施する。模擬授業の仕方については、講義において指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱った、生活科の内容の中から1つの領域を選び、小グループ(ペア)で協力して模擬授業に取り組む。その取り組みの様子について、プロセス、指導案、指導の実際についてのレ

ポートを課す。0～3点で評価する。

平常点(日常的)	50 %	毎回、その授業にかかわるレポート(A4用紙1枚)を課す。授業内容の理解度とともに、授業内容と自身の経験をかかわらせながら、どのような授業をしてみたいか、その具体的なアイデアを書くことを求める。0～3点で評価し、2/3以上の授業に出席し、かつレポートを提出した者のみを成績評価の対象とする。
----------	------	--

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小集団(ペア)による模擬授業を成績評価を重視する。ペアが何らかの理由で、本講義を受講し続けることが困難な場合、途中で教員の許諾を得て、異なるペアに合流する(3人グループ)となることがある。また、模擬授業の形態や時間は別途、講義において指示する。模擬授業の時間は限られているので、ワークショップ形式で行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説生活編	文部科学省／日本文教出版／4491015503／
生活科の授業方法—新しい評価を生かす構想と展開	嶋野道弘・寺尾慎一／ぎょうせい／432407142X／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
7歳から「辞書」を引いて頭をきたえる	深谷圭助／すばる舎／4883995062／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

生活科教育法 SB

20355

担当者名 / Instructor 橋本 祥夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、小学校における生活科の概論として位置づけ、生活科の目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、学習指導要領や実践事例の検討などを組み入れながら、小学校生活の基本的原理を概観するとともに、実践上の諸課題を探究する。また、必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論を組み入れて展開し、基本的な授業力を獲得させるとともに、実践的な力量の形成を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生活科の性格、目標、方法といった教科を構成する原理について学ぶ。
- ・社会、自然、人々との関わりを認識を通して、自立への基礎を養う教科として生活科をとらえ、生活科の基礎理論の習得及び授業実践の分析、授業計画作成の方法を理解する。
- ・生活科の教科理念を把握し、生活科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など生活科の授業づくりに関する基本を理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

低学年で行われる生活科の学習は、中学年以降は理科と社会科の学習につながっていく。したがって、理科、社会科の教科教育法を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	シラバスに基づくガイダンス	・自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
2	生活科の意義と特色	・生活科の意義と特色、内容構成など
3	生活科授業づくりの基本的な考え方	・生活科学習指導の基本、授業づくりのポイント
4	生活科の授業構想と実践事例 (1)	・「人と自分とのかかわり」先行実践例、単元別実践例などからの検討
5	生活科の授業構想と実践事例 (2)	・「社会と自分とのかかわり」先行実践例、単元別実践例などからの検討
6	生活科の授業構想と実践事例 (3)	・「自然と自分とのかかわり」先行実践例、単元別実践例などからの検討
7	生活科の授業構想と実践事例 (4)	・「自分の成長」先行実践例、単元別実践例などからの検討
8	子どもの学びの実際と子ども理解 (1)	・実際の授業から教材・学習材を分析
9	子どもの学びの実際と子ども理解 (2)	・実際の授業から教師の支援・子どもを分析
10	演習 生活科の授業構想・学習指導案作成	・学習指導計画案、学習指導案の作成
11	演習 生活科の教材作成・発表準備	・発表に向けての準備
12	演習 発表 (模擬授業) と討議 (1)	・発表 (模擬授業) を通して学ぶ授業づくりのポイント
13	演習 発表 (模擬授業) と討議 (2)	・発表 (模擬授業) を通して学ぶ授業づくりのポイント
14	小学校教育の現状と生活科の果たす役割	・生活科でつづけることが求められている力・生活科における評価・生活科と総合的な学習、社会、理科とのつながり
15	小学校教育や生活科についてのディスカッション	・小学校教育の現状と課題、これまでの振り返りと課題確認

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- 第1回から7回 講義形式を基本とする。配付資料の整理を行うこと。
 第8回・9回 ビデオ視聴を通じた考察をする。視聴したビデオの情報整理を行うこと。
 第10回から13回 グループでの演習を行う。グループごとに課題を決め、事前の調査を行うこと。また、グループごとで準備物を用意すること。
 第14回・15回 討議を中心とする。課題意識をもち、積極的に発言することが求められる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	オリジナルの学習指導案の作成を最終レポートとする。2/3以上の出席を最終レポートの提出資格とする。
平常点(日常的)	50 %	毎回、その回の授業に関する内容をまとめたレポートを作成する。授業内容の理解度に応じ、0～3点で評価する。2/3以上の授業に出席してレポートを提出した者のみを成績評価の対象とする。また、発表、模擬授業の内容と討論への参加度合いによっても評価する。受講態度の著しく優れた者への加点や、著しく劣る者への減点はありうる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・体験的・実践的な授業を目指しますので、自学自習が困難です。できるかぎり授業に出席してください。遅刻は原則として認めません。
- ・講義を通して、自分の目指す生活科授業とはどんな授業かを、個々に考えるようにしてください。
- ・学生自身が学んで楽しい授業を目指します。グループ活動や授業の中で、積極的に意見を述べるようにしてください。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

小学校学習指導要領の解説と展開 生活編

安彦忠彦 監修 野田敦敬／教育出版／978-4-316-80213-8／授業時に必要に応じて使用するので、授業日には必ず教科書を持参する。

毎時間授業プリントを配布する。それを綴じていけばテキストとなるようにしたい。**参考書 / Reference Books****書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

小学校学習指導要領解説 生活編

文部科学省／日本文教出版／978-4-536-59002-0／教材研究をするときに必要になる。
-----**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**文部科学省HP <http://www.mext.go.jp/>**その他 / Others**

Academic English I S1

16771

担当者名 / Instructor KUZEL JOHN MICHAEL

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(日常的)

100 %

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)

K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Academic English I S2

16772

担当者名 / Instructor GODINEZ NIEVES F.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(日常的)

100 %

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)

K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Academic English I S3

16773

担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(日常的)

100 %

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)

K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Academic EnglishII S1

16774

担当者名 / Instructor VIGERS PIERS NIGEL

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Academic EnglishII S2

16775

担当者名 / Instructor ANDERSON AARON

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Academic EnglishII S3

16776

担当者名 / Instructor ROBERT JOHN McCLUNG

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日 (第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishIII S1

16777

担当者名 / Instructor BROOKS GAVIN JOHN

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats – in written reports, posters or oral presentations, for instance.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus and research projects for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Academic EnglishIII S2

16778

担当者名 / Instructor PARRISH MICHAEL M.

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats – in written reports, posters or oral presentations, for instance.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus and research projects for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Academic EnglishIII S3

16779

担当者名 / Instructor VIGERS PIERS NIGEL

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats – in written reports, posters or oral presentations, for instance.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus and research projects for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Academic EnglishIV S1

16780

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日 (第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishIV S2

16781

担当者名 / Instructor KUZEL JOHN MICHAEL

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日 (第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishIV S3

16782

担当者名 / Instructor GODINEZ NIEVES F.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日 (第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishIV SB

11024

担当者名 / Instructor MULLIGAN CHRISTOPHER

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日 (第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishIV SC

11025

担当者名 / Instructor MILLER RICHARD

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日 (第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishV S1

16783

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishV S2

16784

担当者名 / Instructor GODINEZ NIEVES F.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishV S3

16785

担当者名 / Instructor KUZEL JOHN MICHAEL

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishV SB

11069

担当者名 / Instructor MILLER RICHARD

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日 (第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Academic EnglishV SC

11070

担当者名 / Instructor MULLIGAN CHRISTOPHER

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

アカデミック P & D S S Academic English V SA

30002

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

Students enrolled on the Sansha English Fukusenko Programme should have completed Academic English I, II & III.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction – What is Debate? How to clarify the resolution.	
2	How to make a convincing point. How to flow the arguments	
3	The First Affirmative Constructive speech (1AC)	
4	The First Negative Constructive speech (1NC). How to refute a point.	
5	Challenging supporting ideas	
6	Review & application: short debates.	
7	How to use holistic reasoning.	
8	Members' Speeches – the 2AC & 2NC; Rebuttal Speeches	
9	Full Debate #1	
10	Full Debate #2	
11	Full Debate #3	
12	Full Debate #4	
13	Full Debate #5	
14	Full Debate #6	
15	Final Examination	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	25 %	
平常点(日常的)	75 %	

Students must complete all coursework (including participation in in-class debates) in order to pass the course.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

No textbook - materials will be provided by the instructor.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アカデミックライティング S Ⅴ Academic EnglishIV SA

30194

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will help students develop their academic writing and research skills. It will lead students through the process of writing an academic paper: how to make a start with pre-writing exercises; how to research and organize information; how to outline, draft, revise and edit the paper. There will be a particular emphasis on developing students' ability to paraphrase and summarize information from secondary sources.

到達目標 / Attainment Objectives

Students will develop their formal writing skills through 3 projects: a Summary Report, a Cause-Effect Research Paper and an Academic Argument essay. The culmination of the course will be a 'mini-conference' in which students will have the chance to present and discuss their papers.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

Students on the Fukusenko programme should already have completed Academic English I, II and III.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Orientation : The Academic Writing Process	
2	Summarizing a text: identifying main ideas	
3	Creating a summary outline	
4	The Summary Report: Summarizing Information from several sources	
5	Creating a list of references	
6	Structure of a Research Paper	
7	Writing the Introduction / Thesis statement	
8	Using information from printed sources; academic honesty	
9	More practice with paraphrasing sources	
10	Making an outline; Writing with transitions	
11	Writing the conclusion	
12	The Academic Argument Paper	
13	Writing accurate generalizations	
14	Writing definitions	
15	Mini-conference - student presentations & discussion	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	There are 3 written assignments: 1) A Summary Report 2) Cause-Effect Essay 3) Academic Argument Essay Assessment will also reflect students' attendance and participation in class activities

Students must submit all 3 written assignments and any other required work in order to pass the course.

This is a demanding course and homework assignments every week. Students are expected to be highly motivated. Regular attendance is essential.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Foundations of Writing: Developing Research & Academic Writing Skills	Carolyn Spencer & Beverly Arbon / National Textbook Company, 1996 / 0-8442-9354-7 /

Students will need to bring the textbook to every class.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

For guidance on formatting APA-style citations and references see:

Comparative Society SA

11632

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course is designed specifically for those students who minor in English Communication Skills program in the College of Social Sciences. It is, therefore, NOT a lecture course, but strictly a drill course with a heavy emphasis on each and every student's class participation.

Each class session is devoted to discussing assigned readings from the text, which deals with comparative issues of the Asia-Pacific region. Specifically, we will read and examine two chapters, i.e., Ch. 10 "Asia-Pacific cinemas" and Ch. 11 "The culture of politics" from Culture and Society in the Asia-Pacific ed. by Richard Maidment and Colin Mackerras.

Students are given a study guide before each session, and therefore must prepare for it accordingly. Also given is a set of review questions after each session. These hand-outs are designed so that each student can identify where he/she stands in his/her understandings at each session.

到達目標 / Attainment Objectives

At the conclusion of this course, students should be able to discuss social issues in English from comparative societal perspectives focusing on the Asia-Pacific. Also, they should be so trained as to be able to write a short paper in English with some sociological insights.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1/15	Introduction to the course (the following schedule may be subject to change)	Text: Culture and Society in the Asia-Pacific ed. by Richard Maidment and Colin Mackerras
2/15	Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas" (pp.207-210)	
3/15	Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas" (pp.211-218)	
4/15	Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas" (pp.218-224)	---Written assignment #1 due---
5/15	Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas" (pp.224-229)	
6/15	Review, Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas"	
7/15	Test 1, Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas"	
8/15	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.231-234)	
9/15	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.234-237)	
10/15	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.237-241)	---Written assignment #2 due---
11/15	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.241-245)	
12/15	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.245-252)	
13/15	Review, Chapter 11 "The culture of politics"	
14/15	Test 2, Chapter 11 "The culture of politics"	
15/15	Students' presentations of the final papers	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	Test 1 (25%) Test 2 (25%)
レポート試験	30 %	Final paper is due one week after the last session.
平常点(検証テスト)	20 %	Written assignment 1 (10%) and Written assignment 2 (10%)

Please note that there are absolutely no make-ups for Test 1 and Test 2 above, and that students must be present in class to take them.

Written assignments must be handed in at a specified class session.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is an absolute requirement for every student to have read out loud the assigned readings at least 3 times before the session. Otherwise, students find the class discussion "cut-and-dry"!

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Culture and Society in the Asia-Pacific	Richard Maidment and Colin Mackerras/Routledge/0-415-17278-0/

Students will be given a copy of the chapters mentioned above at the start of the semester.

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

なんで英語やるの？

中津燎子／文春文庫／4-16--719501-1／

上記『なんで英語やるの？』の第一章「動機」と第二章「出発」を開講前に読んでおくと、本科目をスムーズに受講でき、楽しめること間違いなし！

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

Comparative Society SB

12636

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course is designed specifically for those SANSYA students who minor in English Communication Skills program in the College of Social Sciences. It is, therefore, NOT a lecture course, but strictly a drill course with a heavy emphasis on each and every student's class participation. Each class session is devoted to discussing assigned readings from the text, which deals with comparative issues of the Asia-Pacific region. Specifically, we will read and examine two chapters, i.e., Ch. 10 "Asia-Pacific cinemas" and Ch. 11 "The culture of politics" from Culture and Society in the Asia-Pacific ed. by Richard Maidment and Colin Mackerras.

Students are given a study guide before each session, and therefore must prepare for it accordingly. Also given is a set of review questions after each session. These hand-outs are designed so that each student can identify where he/she stands in his/her understandings at each session.

到達目標 / Attainment Objectives

At the conclusion of this course, students should be able to discuss social issues in English from comparative societal perspectives focusing on the Asia-Pacific. Also, they should be so trained as to be able to write a short paper in English with sociological insights.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction to the course (the following schedule may be subject to change)	Text: Culture and Society in the Asia-Pacific ed. by Richard Maidment and Colin Mackerras
2	Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas" (pp.207-210)	
3	Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas" (pp.211-218)	
4	Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas" (pp.218-224)	---Written assignment #1 due---
5	Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas" (pp.224-229)	
6	Review, Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas"	
7	Test 1, Chapter 10 "Asia-Pacific cinemas"	
8	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.231-234)	
9	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.234-237)	
10	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.237-241)	---Written assignment #2 due---
11	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.241-245)	
12	Chapter 11 "The culture of politics" (pp.245-252)	
13	Review, Chapter 11 "The culture of politics"	
14	Test 2, Chapter 11 "The culture of politics"	
15	Students' presentations of the final papers	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	
レポート試験	80 %	Final paper is due one week after the last session.
平常点(検証テスト)	20 %	Written assignment 1 (10%) and Written assignment 2 (10%)

Please note that there are absolutely no make-ups for Test 1 and Test 2 above, and that students must be present in class to take them.

Written assignments must be handed in at a specified class session.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is an absolute requirement for every student to have read out loud the assigned readings at least 3 times before the session. Otherwise, students find the class discussion "cut-and-dry"!

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

Students will be given a copy of the chapters mentioned above at the start of the semester.

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

なんで英語やるの？

中津燎子 / 文春文庫 / 4-16--719501-1 /

上記『なんで英語やるの？』の第一章「動機」と第二章「出発」を開講前に読んでおくと、本科目をスムーズに受講でき、楽しめること間違いなし！

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

Critical Reading SA

11549

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

In any culture, there is always a great diversity of meanings about any topic, and more than one way of interpreting or representing it. We give things meaning by how we interpret or represent them. To understand the frameworks of interpretation and the systems of representation, we take visual materials from film, TV, theatre, and performance arts, as well as written materials, and discuss issues of gender, class, race, and nation from the critical perspectives of Post-Colonial Studies, Cultural Studies, and Gender Studies.

到達目標 / Attainment Objectives

The main goal of this course is to develop students' reading ability and encourage their critical thinking through reading various articles written about contemporary culture. Students are also expected to present their analysis about some cultural forms by applying one of the critical theories introduced in class.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction about Critical Theory	Language and Gender
2	The Work of Representation	Media Literacy
3	Discourse, Power and the Subject	Contemporary popular cultural forms (news photos, advertising, and film)
4	The Spectacle of the 'Other'	Contemporary popular cultural forms (news photos, advertising, and film)
5	How 'Difference' is Represented as 'Other'	Staging 'Racial,' Ethnic, and Sexual 'Difference'
6	Stereotyping as A Signifying Practice	The Introduction of Questions of Power
7	Sexual Politics and Popular Culture	Takarazuka Revue and Performance I
8	Ambivalence and Popular Culture	Takarazuka Revue and Performance II: Staging Androgyny
9	Japanese 'Orientalism'	Takarazuka Revue and Performance III: Theater as Colonialism
10	Redefining 'Difference'	Age, Race, Class, and Sex
11	The Perspectives of Post-Colonial Studies I	Feminist Scholarship and Colonial Discourses
12	The Perspectives of Post-Colonial Studies II	
13	Film Theory	Gaze, Body, Narrative
14	Presentation I	
15	Presentation II	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

This course is offered as one of the Sansha Fukusenken Courses, and entirely conducted in English. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	Write your in-depth analysis about some cultural forms.
平常点(日常的)	50 %	Presentation and Discussion.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Language and Gender	Angela Goddard & Lindsay Mean Patterson / EIHOSHA / 4-269-14039-9 /
We read various articles from the Post-Colonial Studies, Cultural Studies, and Gender Studies.	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Critical Reading SB

11631

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

In any culture, there is always a great diversity of meanings about any topic, and more than one way of interpreting or representing it. We give things meaning by how we interpret or represent them. To understand the frameworks of interpretation and the systems of representation, we take visual materials from film, TV, theatre, and performance arts, as well as written materials, and discuss issues of gender, class, race, and nation from the critical perspectives of Post-Colonial Studies, Cultural Studies, and Gender Studies.

到達目標 / Attainment Objectives

The main goal of this course is to develop students' reading ability and encourage their critical thinking through reading various articles written about contemporary culture. Students are also expected to present their analysis about some cultural forms by applying one of the critical theories introduced in class.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction about Critical Theory	
2	The Work of Representation	Media Literacy
3	Discourse, Power and the Subject	Contemporary popular cultural forms (news photos, advertising, and film)
4	The Spectacle of the 'Other'	Contemporary popular cultural forms (news photos, advertising, and film)
5	How 'Difference' is Represented as 'Other'	Staging 'Racial,' Ethnic, and Sexual 'Difference'
6	Stereotyping as A Signifying Practice	The Introduction of Questions of Power
7	Sexual Politics and Popular Culture	Takarazuka Revue and Performance I
8	Ambivalence and Popular Culture	Takarazuka Revue and Performance II: Staging Androgyny
9	Japanese 'Orientalism'	Takarazuka Revue and Performance III: Theater as Colonialism
10	Redefining 'Difference'	Age, Race, Class, and Sex
11	The Perspectives of Post-Colonial Studies I	Feminist Scholarship and Colonial Discourses
12	The Perspectives of Post-Colonial Studies II	
13	Film Theory	Gaze, Body, Narrative
14	Presentation I	
15	Presentation II	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

This course is offered as one of the Sansha Fukusenken Courses, and entirely conducted in English. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	Write your in-depth analysis about some cultural forms.
平常点(日常的)	50 %	Presentation and Discussion.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Language and Gender	Angela Goddard & Lindsay Mean Patterson / EIHOSHA / 4-269-14039-9 C1082 /
We read various articles from the Post-Colonial Studies, Cultural Studies, and Gender Studies.	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Cultural Studies SA

10023

担当者名 / Instructor 坂本 利子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Culture has come to occupy an increasingly important position in the last few decades not only in the 'arts' but also in seemingly most 'material' domains, such as the worlds of business, the economic, the political, the academy, and many others. 'Cultural studies' (CS) has accordingly become a very popular area of study and research in the past decade or so.

CS is the study of culture/cultures using 'interdisciplinary' methods which means to use diverse methods and ideas borrowed from such disciplines as sociology, anthropology, psychology, history, literary criticism, media studies, linguistics, philosophy, etc. It is also related to intellectual movements, such as feminism, Marxism and the studies of colonialism, postcolonialism, modernity, postmodernity, and so on.

This course explores the issues of 'culture and identity' (CI) which are central to all sociological debates and discussions. It also looks at how culture works in the present day, that is, how culture is represented, produced (and reproduced), consumed and regulated. Students will learn the role of culture in social life/practices and how identity develops in a social context. The course also focuses on mass culture and popular culture, youth culture and subculture, class, gender, sexuality and the body, ethnicity, and nationality and globalization.

到達目標 / Attainment Objectives

Goal of the Course:

Students are required to understand contemporary debates on culture and identity by using contemporary theories that are based on discussions of the role of culture and identity in society. Students should also acquire knowledge of CI and academic skills in sociology through doing cultural studies. The skills include 'understanding', 'identifying', 'analyzing', 'interpreting' and 'evaluating' issues of CI (culture and identity).

Emphasis will also be placed on skill development in English, use of the Internet for research, project development, and production of short oral and written tasks linked to CS (cultural studies).

Standards for Achieving Goal:

Students will:

- complete reports and presentations to reflect the language and knowledge structures of CS.
- become familiar with a specific research methodology to support written and oral activities in CS.
- produce medium-length written reports and oral presentations that reflect a high standard of academic competence within the subject matter of CS.
- employ graphic, statistical and textual information in a variety of formats.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
Week 1	Introduction to the course and overview	
Week 2	Key issues in the study of culture and identity	
Week 3	Classical views on culture and identity	
Week 4	The new sociology of culture and identity: modernity and postmodernity	
Week 5	Mass culture and popular culture	
Week 6	Youth culture and subculture	Research paper proposal due
Week 7	Signs, discourse and power	
Week 8	Class and consumption	
Week 9	Feminism, gender and sexuality	
Week 10	Ethnicity and identity	
Week 11	Community, nation and globalization	
Week 12	Culture and globalization	
Week 13	<Presentation>	
Week 14	<Presentation>	
Week 15	Final exam and research paper due	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	
1.Attendance & Participation:20%		

- 2.Oral Assignment (Presentation):20%
- 3.Writing Assignment (Research paper):20%
- 4.Informal Evaluations(homework,quiz,on-line discussion):20%
- 5.Formal Evaluation (Final exam):20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Course Requirements

1.Attendance and participation: All students begin the semester with full marks for participation (20 points). Each day of unexcused non-attendance will lose a student 1 point of the possible total course mark, up to 20 points. Students arriving late for a class will receive a half day of non-attendance. A student with more than 1/3 non-attendance rate (5 absences) will fail the course.

Students are required to participate actively in the work of the course. Those who are unwilling to participate will be treated as absent for the day if their attendance is substantially non-participatory.

2.Achievement test: Students will be partially evaluated through use of one achievement test (final exam), totaling 20 percent of the marks for the course. Achievement will be assessed on the basis of the content, skills and knowledge.

3.Readings: Students are required to read texts and materials in advance and to do assignments stated in the materials.

4.Assignments and tasks: Course content will also consist of assignments and tasks, such as homework, quiz, on-line discussion, research project, presentation and research paper.

5.Plagiarism: All students must know that they may not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. Students must know the importance of not plagiarizing and of proper citation, and there should be appropriate penalties, if they plagiarize. No mark is given to plagiarized works.

教科書 / Textbooks

No set textbook is used for this course but handouts and other materials will be given in class.

参考書 / Reference Books

- 1.Ben Rafael, Eliezer and Yitzak Sternberg (Eds.) (2001). Identity, culture and globalization. Leiden: Brill.
- 2.Eades, J.S. and Shinji Yamashita (eds.) (2003). Globalization in Southeast Asia: local, national, and transnational perspectives. New York & Oxford: Berghahn Books.
- 3.Featherstone, Mike (1995). Undoing culture: Globalization, Postmodernism and Identity. London: Sage Publications.
- 4.Freccero, Carla (1999). Popular culture : an introduction New York: New York University Press.
- 5.Hall, Stuart (Ed.) (1997). Representation: cultural representations and signifying practices. Newbury Park: Sage Publications in association with The Open University.
- 6.Hallam, Elizabeth and Brian V. Street (Eds.) (2000). Cultural encounters: representing 'otherness'. London & New York: Routledge.
- 7.Johnson, Richard, et al. (2004). The practice of cultural studies. London: Sage Publications.
- 8.Kellner, Douglas (1995). Media culture: cultural studies, identity and politics between the modern and the postmodern. London & New York: Routledge.
- 9.Lawson, Stephanie (2003). Europe and the Asia-Pacific: culture, Identity and representations of region. London & New York: Routledge.
- 10.Storey, John (Ed.)(1996). What is cultural studies?: A reader. New York: Arnold.
- 11.Said, Edward W (1978). Orientalism: western conceptions of the orient. London: Routledge & Kegan Paul, London: Penguin, 1991
- 12.hwaites, Tony, et al. (2002). Introducing cultural and media studies: a semiotic approach. New York: Palgrave.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Cultural Studies SB

12532

担当者名 / Instructor 坂本 利子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Culture has come to occupy an increasingly important position in the last few decades not only in the 'arts' but also in seemingly most 'material' domains, such as the worlds of business, the economic, the political, the academy, and many others. 'Cultural studies' (CS) has accordingly become a very popular area of study and research in the past decade or so.

CS is the study of culture/cultures using 'interdisciplinary' methods which means to use diverse methods and ideas borrowed from such disciplines as sociology, anthropology, psychology, history, literary criticism, media studies, linguistics, philosophy, etc. It is also related to intellectual movements, such as feminism, Marxism and the studies of colonialism, postcolonialism, modernity, postmodernity, and so on.

This course explores the issues of 'culture and identity' (CI) which are central to all sociological debates and discussions. It also looks at how culture works in the present day, that is, how culture is represented, produced (and reproduced), consumed and regulated. Students will learn the role of culture in social life/practices and how identity develops in a social context. The course also focuses on mass culture and popular culture, youth culture and subculture, class, gender, sexuality and the body, ethnicity, and nationality and globalization.

到達目標 / Attainment Objectives

Goal of the Course:

Students are required to understand contemporary debates on culture and identity by using contemporary theories that are based on discussions of the role of culture and identity in society. Students should also acquire knowledge of CI and academic skills in sociology through doing cultural studies. The skills include 'understanding', 'identifying', 'analyzing', 'interpreting' and 'evaluating' issues of CI (culture and identity).

Emphasis will also be placed on skill development in English, use of the Internet for research, project development, and production of short oral and written tasks linked to CS (cultural studies).

Standards for Achieving Goal:

Students will:

- complete reports and presentations to reflect the language and knowledge structures of CS.
- become familiar with a specific research methodology to support written and oral activities in CS.
- produce medium-length written reports and oral presentations that reflect a high standard of academic competence within the subject matter of CS.
- employ graphic, statistical and textual information in a variety of formats.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
Week 1	Introduction to the course and overview	
Week 2	Key issues in the study of culture and identity	
Week 3	Classical views on culture and identity	
Week 4	The new sociology of culture and identity: modernity and postmodernity	
Week 5	Mass culture and popular culture	
Week 6	Youth culture and subculture	Research paper proposal due
Week 7	Signs, discourse and power	
Week 8	Class and consumption	
Week 9	Feminism, gender and sexuality	
Week 10	Ethnicity and identity	
Week 11	Community, nation and globalization	
Week 12	Culture and globalization	
Week 13	<Presentation>	
Week 14	<Presentation>	
Week 15	Final exam and research paper due	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	
1.Attendance & Participation:20%		

- 2.Oral Assignment (Presentation):20%
- 3.Writing Assignment (Research paper):20%
- 4.Informal Evaluations(homework,quiz,on-line discussion):20%
- 5.Formal Evaluation (Final exam):20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Course Requirements

1.Attendance and participation: All students begin the semester with full marks for participation (20 points). Each day of unexcused non-attendance will lose a student 1 point of the possible total course mark, up to 20 points. Students arriving late for a class will receive a half day of non-attendance. A student with more than 1/3 non-attendance rate (5 absences) will fail the course.

Students are required to participate actively in the work of the course. Those who are unwilling to participate will be treated as absent for the day if their attendance is substantially non-participatory.

2.Achievement test: Students will be partially evaluated through use of one achievement test (final exam), totaling 20 percent of the marks for the course. Achievement will be assessed on the basis of the content, skills and knowledge.

3.Readings: Students are required to read texts and materials in advance and to do assignments stated in the materials.

4.Assignments and tasks: Course content will also consist of assignments and tasks, such as homework, quiz, on-line discussion, research project, presentation and research paper.

5.Plagiarism: All students must know that they may not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. Students must know the importance of not plagiarizing and of proper citation, and there should be appropriate penalties, if they plagiarize. No mark is given to plagiarized works.

教科書 / Textbooks

No set textbook is used for this course but handouts and other materials will be given in class.

参考書 / Reference Books

- 1.Ben Rafael, Eliezer and Yitzak Sternberg (Eds.) (2001). Identity, culture and globalization. Leiden: Brill.
- 2.Eades, J.S. and Shinji Yamashita (eds.) (2003). Globalization in Southeast Asia: local, national, and transnational perspectives. New York & Oxford: Berghahn Books.
- 3.Featherstone, Mike (1995). Undoing culture: Globalization, Postmodernism and Identity. London: Sage Publications.
- 4.Freccero, Carla (1999). Popular culture : an introduction New York: New York University Press.
- 5.Hall, Stuart (Ed.) (1997). Representation: cultural representations and signifying practices. Newbury Park: Sage Publications in association with The Open University.
- 6.Hallam, Elizabeth and Brian V. Street (Eds.) (2000). Cultural encounters: representing 'otherness'. London & New York: Routledge.
- 7.Johnson, Richard, et al. (2004). The practice of cultural studies. London: Sage Publications.
- 8.Kellner, Douglas (1995). Media culture: cultural studies, identity and politics between the modern and the postmodern. London & New York: Routledge.
- 9.Lawson, Stephanie (2003). Europe and the Asia-Pacific: culture, Identity and representations of region. London & New York: Routledge.
- 10.Storey, John (Ed.)(1996). What is cultural studies?: A reader. New York: Arnold.
- 11.Said, Edward W (1978). Orientalism: western conceptions of the orient. London: Routledge & Kegan Paul, London: Penguin, 1991
- 12.hwaites, Tony, et al. (2002). Introducing cultural and media studies: a semiotic approach. New York: Palgrave.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

Issues of Democracy SA

12533

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

到達目標 / Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukusenko Programme.
Preferably, students will already have completed Academic English I, II & III before taking this course.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Defining democracy: key concepts and questions Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
2	Athenian democracy Reading from Robert Dahl, 'Democracy & Its Critics'	
3	How democratic was Athenian democracy? Reading from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
4	The Second Transformation: Democracy as Representative Government Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
5	Virtual Democracy? The democratizing potential of the Internet#1 Reading: 'Virtual Democracy?' tapescript	
6	Digital democracy: The democratizing potential of the Internet#2 Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
7	Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'? Written assignment: Should voting be compulsory?	
8	Should voting be compulsory? Readings Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuinness, 'The case against compulsory voting'	
9	Measuring democracy: Basic criteria Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
10	Measuring democracy: The Freedom House index Reading from Freedom House, 'Freedom In The World'	
11	The Third Wave of Democracy Reading Renske Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'	
12	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#1 Reading & Research activity - Afghan democracy	
13	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#2 Reading from James Fishkin, 'The Voice of the People'	
14	Deliberative Polls - a new initiative for democracy	
15	Final examination	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenko Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト)	25 %
平常点(日常的)	75 %

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.

2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts - that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).

2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)

3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly - either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books書名 / Title

On Democracy

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Robert Dahl / Yale University Press / 0300084552 / A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Freedom House <http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1>

International IDEA <http://www.idea.int/>

その他 / Others

Issues of Democracy SB

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

Language and Society SA

11698

担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This is a fukusenko B-gun course with 2 credits mainly for the third year students. This course is designed to develop students' English language and academic skills through the study of sociolinguistics.

- 1) Students will be introduced to key vocabulary and some of the central themes of sociolinguistics.
- 2) Students will work to develop 4 English skills, especially reading and speaking skills, by a variety of study activities, including:
 - ・ Lectures and explanations by the instructor;
 - ・ Teacher directed and independent reading;
 - ・ Research-based writing projects;
 - ・ Student directed a pair or group presentation;
 - ・ Class and group discussions.

到達目標 / Attainment Objectives

- Students will be expected to:
- ・ Develop an understanding of language and concepts related to the topic of sociolinguistics;
 - ・ Learn and use a variety of reading skills and content-analysis skills;
 - ・ Become familiar with research methodology to support written and oral arguments;
 - ・ Work with a partner or group to give a formal presentation of a high standard;
 - ・ Complete a short research/writing project as part of their preparation for the presentation;
 - ・ Communicate verbally in English with the instructor and classmates on a range of activities.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Introduction to the course: Overview of course objectives and requirements	Introduction to Sociolinguistics
第2回	Language & Society (Reading critically)	
第3回	Language & Society (Skimming / Scanning)	
第4回	Language & Culture (Essay structure)	
第5回	Language & Culture (Research method)	
第6回	Language & Education (Citation & references)	
第7回	Language & Education (Due: Essay Draft)	
第8回	Feedback on Essay Draft	Preparation for presentations
第9回	Language & Media	
第10回	Language & Media (Due: Essay)	
第11回	Language & Gender	
第12回	Language & Social Class	
第13回	Review	Final Class test
第14回	Group presentations, and Evaluation	
第15回	Group presentations, and Evaluation	Summary of the course

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Students are required to read given materials in advance and to do writing assignments stated in the materials or instructed by the teacher.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点 (日常的)	100 %	Attendance and class participation (25%), Assignments including homework (10%), Research/writing project (20%), Presentation (20%), and Final Class Test (25%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Participation:

A high level of preparation outside of class as well as active participation in class will be required.

Responsibility of Absent Students:

Students who are absent from class must contact classmates to find out about work done or assigned during their absence. If absent on a day when an assignment is due, students must submit that assignment on their first day back in class.

Plagiarism:

Students must not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. A student who plagiarizes will receive a mark of zero for the assignment and may fail the course.

教科書 / Textbooks

The instructor will provide lesson materials through the webCT.

参考書 / Reference Books

All students will be expected to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class each week.

Additional materials will be introduced in class.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The following websites may be useful for students studying in this course:

<http://www.studygs.net>

<http://grammar.ccc.commnet.edu/grammar/>

その他 / Others

Language and Society SB

10088

担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This is a fukusenko B-gun course with 2 credits mainly for the third year students. This course is designed to develop students' English language and academic skills through the study of sociolinguistics.

- 1) Students will be introduced to key vocabulary and some of the central themes of sociolinguistics.
- 2) Students will work to develop 4 English skills, especially reading and speaking skills, by a variety of study activities, including:
 - ・Lectures and explanations by the instructor;
 - ・Teacher directed and independent reading;
 - ・Research-based writing projects;
 - ・Student directed a pair or group presentation;
 - ・Class and group discussions.

到達目標 / Attainment Objectives

Students will be expected to:

- ・Develop an understanding of language and concepts related to the topic of sociolinguistics;
- ・Learn and use a variety of reading skills and content-analysis skills;
- ・Become familiar with research methodology to support written and oral arguments;
- ・Work with a partner or group to give a formal presentation of a high standard;
- ・Complete a short research/writing project as part of their preparation for the presentation;
- ・Communicate verbally in English with the instructor and classmates on a range of activities.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Introduction to the course: Overview of course objectives and requirements	Introduction to Sociolinguistics:
第2回	Language & Society (Reading critically)	
第3回	Language & Society (Skimming / Scanning)	
第4回	Language & Culture (Essay structure)	
第5回	Language & Culture (Research method)	
第6回	Language & Education (Citation & references)	
第7回	Language & Education (Due: Essay Draft)	
第8回	Feedback on Essay Draft	Preparation for presentations
第9回	Language & Media	
第10回	Language & Media (Due: Essay)	
第11回	Language & Gender	
第12回	Language & Social Class	
第13回	Review	Final Class test
第14回	Group presentations, and Evaluation	
第15回	Group presentations, and Evaluation	Summary of the course

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	Attendance and class participation (25%), Assignments including homework (10%), Research/writing project (20%), Presentation (20%), and Final Class Test (25%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Participation:

A high level of preparation outside of class as well as active participation in class will be required.

Responsibility of Absent Students:

Students who are absent from class must contact classmates to find out about work done or assigned during their absence. If absent on a day when an assignment is due, students must submit that assignment on their first day back in class.

Plagiarism:

Students must not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. A student who plagiarizes will receive a mark of zero for the assignment and may fail the course.

教科書 / Textbooks

The instructor will provide lesson materials through the WebCT.

参考書 / Reference Books

All students will be expected to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class each week.

Additional materials will be introduced in class.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The following websites may be useful for students studying in this course:

<http://www.studygs.net>

<http://grammar.ccc.commnet.edu/grammar/>

その他 / Others

Study Abroad Program S

20195

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

Study Abroad Programは、これまでみなさんが培ってきた総合的な英語運用能力を基礎としつつ、専門領域における英語運用能力向上のための短期集中プログラムです。本プログラムでは、講義はもちろんのこと、フィールドトリップや小旅行などを通して、オーストラリアの社会・歴史・文化などについての理解を深め、英語運用能力の更なる向上をめざしていきます。出発前に4回の事前学習を英語教員（オーストラリア出身）の指導のもとで行います。その後、University of Southern Queensland (USQ)（オーストラリア クイーンズランド州）で20時間の英語スキルトレーニング、60時間の講義、フィールドトリップ、小旅行からなる5週間の夏期研修プログラムを実施します。さらに帰国後も成果を公表するためにポスター展示と文集作成があります。2008年8月8日（金）～9月13日（土）の5週間（予定）

到達目標 / Attainment Objectives

必修英語の履修を通じて学んできた総合的な英語運用能力を基礎に、産業社会学部でさまざまな専門を学ぶ学生の関心と必要に応じた短期集中特別プログラムを通じて、専門領域でも役立つ英語運用能力をさらに向上させるとともに、フィールドトリップや講義を通して派遣先の国の社会、歴史、文化についての理解を深めます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

英語副専攻の学生は、A群科目を履修していること。産業社会学部英語副専攻の履修者以外から参加者を募る場合は、別途案内します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	① 事前学習 (4回) : オーストラリアの歴史・文化・社会などの諸問題の学習を進めます。② USQとの遠隔授業を実施します。③ 留学・渡航手続に関するガイダンスを実施します。④ 帰国後の成果物作成について説明を行います。	現地ではUniversity of Southern Queensland 所属の担当教員から詳しい予定表、成績のつけ方について資料が配布されますので、それを参照すること。
	留学の成果物として、ポスターと報告集を作成します。ポスターは完成後、掲示・公開します。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

ホームステイの滞在なので、ホストファミリーとの交流を深めるためにも、通常の英語クラスでは、特に積極的に英語で話すように努力をすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	事前学習、オーラルプレゼンテーション、エッセイライティング、出席、参加度を含む。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際事情研究 SA S Global Issues SA

30024

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Why is it that some societies are poor, and others are rich? Are the rich societies getting richer, while others are getting poorer? There are major schools of thought that try to explain the differences between the rich and poor nation states: The Modernization, Dependency, the World Systems Theories, and Postcolonialism. These theories also attempt to explain how the political, social, historical, and cultural systems influence the economic conditions of the rich and poor nations.

到達目標 / Attainment Objectives

Towards the end of the course, students are expected to present their own case studies and apply one of the theories introduced in class from a critical point of view.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This class is not open for international students from 2007 spring. You have to be registered as a "fukusenko" student or a graduate student. The class is suitable for 3rd year students or above.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/29	Moderniation Theories	Explanation of Attainment Objectives, Procedures and Grading Methods
10/6	The Modernization School : Theoretical Assumptions and Historical Perspective	
10/13	The Modernization Perspective	
10/20	1) Classical Modernization Case Studies	
10/27	2) Classical Modernization Case Studies	
11/3	Criticism of Modernization Case Studies	
11/10	Dependency School: Theoretical Assumptions and Historical Perspective	*a short review test on the modernization school (10% of total grade)
11/17	The Dependency School Perspective	
11/24	Classical Dependency School Case Studies	
12/1	Implications of the Dependency School	*a short review test on the dependency school (10 % of total grade)
12/6	1) Presentation	
12/8	2) Presentation	
12/15	3) Presentation and discussion of all the presentations	
12/22	Comparison between Modernization and Dependency Schools	Exploring other development theories, eg. World Systems Theory
1/19	In-Class Verification Exam for Final Verification and post exam explanation lecture	Note: 1/12 (Monday) is a national holiday/no class

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

This course is conducted entirely in English. This course is open to fukusenko undergraduate and graduate students only and no longer open to international students. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	30 %	In-Class (no make-up exam later)
平常点(日常的)	70 %	Participation (30%) , Presentation (20%), Review test (10% x 2)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Social Change and Development: Modernization, Dependency, and World Systmes Theories	Alvin So / Sage Library of Social Research / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際事情研究 SB § Global Issues SB

30377

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Why is it that some societies are poor, and others are rich? Are the rich societies getting richer, while others are getting poorer? There are major schools of thought that try to explain the differences between the rich and poor nation states: The Modernization, Dependency, the World Systems Theories, and Postcolonialism. These theories also attempt to explain how the political, social, historical, and cultural systems influence the economic conditions of the rich and poor nations.

到達目標 / Attainment Objectives

Towards the end of the course, students are expected to present their own case studies and apply one of the theories introduced in class from a critical point of view.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This class is not open for international students from 2007 spring. You have to be registered as a "fukusenko" student or a graduate student. The class is suitable for 3rd year students or above.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10/1	Modernization Theories	Explanation of Attainment Objectives, Procedures and Grading Methods
10/8	The Modernization School : Theoretical Assumptions and Historical Perspective	
10/15	The Modernization Perspective	
10/22	1) Classical Modernization Case Studies	
10/29	2) Classical Modernization Case Studies	
11/5	Criticism of Modernization Case Studies	
11/12	Dependency School: Theoretical Assumptions and Historical Perspective	*a short review test on the modernization school (10% of total grade)
11/19	The Dependency School Perspective	
11/26	Classical Dependency School Case Studies	
12/3	Implications of the Dependency School	*a short review test on the dependency school (10 % of total grade)
12/10	1) Presentation	
12/17	2) Presentation	
12/24	3) Presentation and discussion of all the presentations	
1/7	Comparison between Modernization and Dependency Schools	Exploring other development theories, eg. World Systems Theory
1/14	In-Class Verification Exam for Final Verification and post exam explanation lecture	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

This course is conducted entirely in English. This course is open to fukusenko undergraduate and graduate students only and no longer open to international students. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検定テスト)	30 %	In-Class (not make-up exam later)
平常点(日常的)	70 %	Participation (30%), Presentation (20%), Review test (10% x 2)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Please come to class well prepared with your reading assignment completed. Your participation is a must to make this class successful. As soon as you have decided on your topic for your presentation, please check with the instructor.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Social Change and Development: Modernization, Dependency, and World Systems Theories	Alvin So / Sage Library of Social Research //

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

異文化研究I SA

16885

担当者名 / Instructor 玉木 佳代子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

既習のドイツ語能力を定着させつつ、発展的学習を行っていきます。そのため、文法事項の復習や補足も随時行います。ドイツの文化や社会に関するテーマを扱いながら、受講生には、特定のテーマに関して、日本とドイツの比較を行ってもらいます。学習テーマとしては、学部専攻に深く関わりのある、「社会福祉政策」や「環境政策」を予定しています。その他、受講生が関心を持っているテーマも随時取り入れていきたいと思しますので、積極的に提案してください。ドイツ語能力に関しては、表現力（「話す」と「書く」）、理解力（「読む」と「聞く」）を総合的に伸ばしていくことを目標とします。そのため、日常会話に必要な語彙も、随時学習していきます。小テストや課題、プレゼンテーションなどの日常点で成績評価を行うため、最終講義日試験は実施しません。

到達目標 / Attainment Objectives

ドイツ語運用能力を総合的に伸ばすこと。ドイツの社会や文化に関する知識を深めること。特定のテーマに関する語彙を増やし、ドイツ語である程度表現できるようになること。特定のテーマに関して、日本とドイツ両国を比較し、類似点や相違点を発見すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方・アンケート	ドイツ語での自己紹介
第2回 & 第3回	食文化	ビールなど
第4回 & 第5回	住居	住居問題、住宅扶助
第6回 & 第7回	社会福祉	介護保険、年金制度
第8回 & 第9回	教育環境	教育制度、職業教育
第10回 & 第11回	環境政策	ゴミ問題など
第12回 & 第13回	政治制度	政党政治
第14回 & 第15回	歴史	二つのドイツからEUへ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回必ず復習を行ってください。継続して学習することが、言語習得には重要です。単語を覚えたり、文章を書いたりするときは、必ず口に出し、自分の耳で聞くようにしましょう。また、少しでもドイツ語やドイツに触れる機会を増やすようにしてみてください（コミュニケーションルームの利用、インターネットでドイツ語のサイトを見ている等）。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	小テスト、出席状況、課題提出、授業への積極的な参加などを総合評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことがあれば、授業中でも授業外でも、どんどん質問してください。

教科書 / Textbooks

プリントを適宜配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://home.comcast.net/%7Edkalischer/WebRadio/DeutscherRundfunk.htm> (ドイツのラジオが聞けます。)
<http://www.n-tv.de/> (ドイツのニュースを生放送で見ることができます。)
<http://www.tagesschau.de/> (ドイツのニュースを録画で見ることができます。)
<http://www.dw-world.de/> (ドイツの様々な情報が得られます。)

その他 / Others

授業スケジュールや取り扱うテーマは、受講生のドイツ語力や関心の領域を考慮し、変更する場合があります。

異文化研究I SB

16886

担当者名 / Instructor GRAS ALEXANDRE

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- * 必修フランス語で修得した知識を確かなものにしつつ、さらなる文法事項を学ぶ。
- * 上記の知識に支えられた実践的コミュニケーション能力を養う。
- * 日常的な生活場面で使われる言葉が理解できるように、聞く・話す・読む・書くの4能力をバランスよく養成し、フランス語会話の基礎を身につけると共に、フランス語が話されている地域への理解、またはフランス文化についての知識を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

- * 実用フランス語技能検定試験3級程度のヒアリング・スピーキング・ディクテーション能力の養成を目指す。
- * 現地での短期滞在に必要な自己表現能力・聞き取り能力の獲得。
- * 現代フランス語圏の国々の事情に関する基本的知識の獲得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	A l'aéroport (1) à la douane ガイダンス 空港で・税関で 依頼の表現①	
2.	A l'aéroport (1) Au bureau de location de voitures 空港で・レンタカーの事務所で 依頼の表現②	
3.	A l'hôtel (1) Arrivée ホテルで・到着 遺憾の表現	
4.	A l'hôtel (2) Réservation du petit déjeuner ホテルで・朝食の予約 拒否の表現	
5.	A la gare (1) Au guichet des informations 駅で・案内係で 非難する表現	
6.	A la gare (2) Au guichet des réservations 駅で・予約係で 必要性をあらわす表現	
7.	Dans le train 列車の中で 相手の言いわけを聞き入れない表現	
8.	Dans le taxi タクシーの中で 値段・料金をたずねる表現	
9.	Aller au Louvre en bus バスでルーブルへ行く 確かめる・念をおす	
10.	Les transports さまざまな交通機関 伝聞による推定・可能性をあらわす	
11.	A la poste (1) Achat de timbres 郵便局で・切手を買う 何かを買う、注文をする	
12.	A la poste (2) Envoi d'un paquet 郵便局で・小包を送る 間違っていること、あっていることをあらわす	
13.	A la banque 銀行で 不満、承服できないことをあらわす	
14.	Révisions 復習	
15.	Test et bilan テストとまとめ	

学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- * 「フランス異文化研究」の授業では、フランス語によるコミュニケーション能力の開発に必要な発音・語彙・基本表現を習得するために、とりわけ口頭による練習を行う。平常点を重視するので、あまり臆病にならないよう、できるだけ積極的に参加するように求める。
- * 「フランス異文化研究」の授業では、フランス語によるコミュニケーション能力の向上に必要な発音・語彙・基本表現を習得するために、とりわけ口頭による練習を行う。平常点を重視するので、授業への積極的な参加を求める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

* 評価の方法: 平常点 (75%以上の出席と積極的な授業への参加など)、発表、会話・語彙のテストなどを総合的に勘案する。具体的な点数配分としては、出席点:15点、会話の小テスト・発表:55点 (平均点数)、語彙のテスト:30点 (平均点数) である。

****注意**** フランス事情・フランス文化についての発表：前期の期間中に一度、フランス事情・フランス文化に関して興味のある一つのテーマを選んで発表（10～15分程度）を日本語で行う。発表後、教員と他の学生で質疑応答。発表の準備のため、最初の授業のときにペアを作り、発表のテーマを決め、発表順番を決める。発表は一ヵ月後（授業の5回目）から随時始めていく予定である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- * 主体的・積極的に授業に参加すること。
- * 少しずつ能力を身につけていけるように、必ず毎日10分程度フランス語を勉強すること。
- * 授業の前に、必ず前回の授業の内容によく目を通して復習すること。
- * 教養を深めるため、最初の授業のガイダンスのときに教員から紹介された参考書籍（文法、文化、歴史、思想、料理など）の何冊かを読むこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「Premier voyage en France 1 初めてのフランス旅行1（CD付）」 大木 充・Georgette KAWAI-CHARNAY／駿河台出版社／4-411-00916-1／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

異文化研究I SC

16887

担当者名 / Instructor 劉 愛群

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、中国語の必修科目を終え、または終えようとしている学生を対象に、中国語の継続学習を行いたいと考える人のための授業である。基礎、展開、総合、表現などで身に付けた語彙、文法、表現などの知識を用いて、中国語の学習を行い、中国語のコミュニケーション力を高めながら、中国語圏の文化・社会などの知識を学び、中国に対する理解を深めていくことを目標としている。具体的には、まず中国のニュース番組、娯楽番組、映画などの章段を視聴覚的に聞き、その後に発音、語彙、文法事項、意味などを学習し、続いてその取り上げた材料に出てくる社会的文化的背景などを学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ◎ 中国語のコミュニケーション力を向上させる。
- ◎ 中国語圏の文化・社会に対する理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	多民族国家の中国の社会	
第2回	経済格差の拡大	
第3回	都市と農村の生活	
第4回	中華料理	
第5回	人口の抑制と高齢化問題	
第6回	一人っ子の社会問題	
第7回	中国のメディア	
第8回	中国の映画やドラマ	
第9回	中国の教育	
第10回	自家用車ブームと環境問題	
第11回	北京オリンピック	
第12回	音楽や歌	
第13回	四字成語と歴史の物語	
第14回	中国のお正月の風習	
第15回	日中友好交流	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	テスト、授業への貢献度(発表・宿題・小テスト)、出席状況などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

異文化研究II SA

16888

担当者名 / Instructor 玉木 佳代子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

前期の「異文化研究I SA」に引き続き、既習のドイツ語能力を定着させつつ、発展的学習を行っていきます。そのため、文法事項の復習や補足も随時行います。ドイツの文化や社会に関するテーマを扱いながら、受講生には、特定のテーマに関して、日本とドイツの比較を行ってもらいます。学習テーマとしては、学部専攻に深く関わりのある、「社会福祉政策」や「環境政策」を予定しています。その他、受講生が関心を持っているテーマも随時取り入れていきたいと思っておりますので、積極的に提案してください。ドイツ語能力に関しては、表現力（「話す」と「書く」）、理解力（「読む」と「聞く」）を総合的に伸ばしていくことを目標とします。そのため、日常会話に必要な語彙も、随時学習していきます。小テストや課題、プレゼンテーションなどの日常点で成績評価を行うため、最終講義日試験は実施しません。

到達目標 / Attainment Objectives

ドイツ語運用能力を総合的に伸ばすこと。ドイツの社会や文化に関する知識を深めること。特定のテーマに関する語彙を増やし、ドイツ語である程度表現できるようになること。特定のテーマに関して、日本とドイツ両国を比較し、類似点や相違点を発見すること。日本の文化や社会に関して、ドイツ語で（口頭でも書式でも）簡単に説明できること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期に「異文化研究I SA」を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	開講時に、別途指示する。	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回必ず復習を行ってください。継続して学習することが、言語習得には重要です。単語を覚えたり、文章を書いたりするときは、必ず口に出し、自分の耳で聞くようにしましょう。また、少しでもドイツ語やドイツに触れる機会を増やすようにして下さい（コミュニケーションルームの利用、インターネットでドイツ語のサイトを見してみる等）。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点 (日常的)	100 %	小テスト、出席状況、課題提出、プレゼンテーション、授業への積極的な参加などを総合評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことがあれば、授業中でも授業外でも、どんどん質問してください。

教科書 / Textbooks

プリントを適宜配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://home.comcast.net/%7Edkalischer/WebRadio/DeutscherRundfunk.htm> (ドイツのラジオが聞けます。)
<http://www.n-tv.de/> (ドイツのニュースを生放送で見ることができます。)
<http://www.tagesschau.de/> (ドイツのニュースを録画で見ることができます。)
<http://www.dw-world.de/> (ドイツの様々な情報が得られます。)

その他 / Others

異文化研究II SB

16889

担当者名 / Instructor 橋本 知子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- * 必修フランス語で修得した知識を確かなものにつつ、さらなる文法事項を学ぶ。
- * 上記の知識に支えられた実践的コミュニケーション能力を養う。
- * 日常的な生活場面で使われる言葉が理解できるように、聞く・話す・読む・書くの4能力をバランスよく養成し、フランス語会話の基礎を身につけると共に、フランス語が話されている地域への理解、またはフランス文化についての知識を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

- * 実用フランス語技能検定試験3～準2級程度のヒアリング・スピーキング・ディクテーション能力の養成を目指す。
- * 現地での短期滞在に必要な自己表現能力・聞き取り能力の獲得。
- * 現代フランス語圏の国々の事情に関する基本的知識の獲得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	A la banque, au distributeur de billets ガイダンス 銀行で・ATMを用いる 困ったことをあらわす表現	
2.	Dans la rue (1) Les toilettes 通りで・トイレをさがす 自分の考えをいう表現	
3.	Dans la rue (2) Les rencontres 通りで・人に出会う 相手の誘いを受け入れる・断る表現	
4.	Au café (1) La commande カフェで・注文する 間違いを認める表現	
5.	Au café (1) L'addition カフェで・お金を払う 断る表現	
6.	Dans les magasins (1) Au bureau de tabac たばこ屋さんで 推定する表現	
7.	Dans les magasins (2) Au magasin de vêtements 洋服屋さんで 好きでないこと、気に入らないことをあらわす表現	
8.	Dans les magasins (3) A la librairie 本屋さんで 苦情をいう	
9.	Dans les magasins (4) Au marché aux puces ノミの市で 値切るための表現	
10.	A l'opéra (1) Réservation par téléphone 電話でオペラの予約をする 助言するための表現	
11.	A l'opéra (2) Dans la salle オペラ座で 後悔をあらわす表現	
12.	Chez le médecin お医者さんで 禁止することをあらわす表現	
13.	Chez le coiffeur 美容院で 満足であることをあらわす表現	
14.	Révisions 復習	
15.	Test et bilan テストとまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- * 「フランス異文化研究」の授業では、フランス語によるコミュニケーション能力の開発に必要な発音・語彙・基本表現を習得するために、とりわけ口頭による練習を行う。平常点を重視するので、あまり臆病にならないよう、できるだけ積極的に参加するように求める。
- * 「フランス異文化研究」の授業では、フランス語によるコミュニケーション能力の向上に必要な発音・語彙・基本表現を習得するために、とりわけ口頭による練習を行う。平常点を重視するので、授業への積極的な参加を求める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検定テスト)	30 %	
平常点(日常的)	70 %	

* 評価の方法：平常点（75%以上の出席と積極的な授業への参加など）、発表、会話・語彙のテストなどを総合的に勘案する。具体的な点数配分としては、出席点：15点、会話の小テスト・発表：55点（平均点数）、語彙のテスト：30点（平均点数）である。

****注意**** フランス事情・フランス文化についての発表：後期の期間中に一度、フランス事情・フランス文化に関して興味のある一つのテーマを選んで発表（10～15分程度）を日本語を行う。発表後、教員と他の学生で質疑応答。発表の準備のため、最初の授業のときにペアを作り、発表のテーマを決め、発表順番を決める。発表は一ヵ月後（授業の5回目）から随時始めていく予定である。

。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- * 主体的・積極的に授業に参加すること。
- * 少しずつ能力を身につけていけるように、必ず毎日10分程度フランス語を勉強すること。
- * 授業の前に、必ず前回の授業の内容によく目を通して復習すること。
- * 教養を深めるため、最初の授業のガイダンスのときに教員から紹介された参考書籍（文法、文化、歴史、思想、料理など）の何冊かを読むこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「Premier voyage en France 2 初めてのフランス旅行2（CD付）」 大木 充・Georgette KAWAI-CHARNAY／駿河台出版社／4-411-00918-8／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

異文化研究Ⅱ SC

16890

担当者名 / Instructor 劉 愛群

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、中国語の必修科目を終え、または終えようとしている学生を対象に、中国語の継続学習を行いたいと考える人のための授業である。基礎、展開、総合、表現などで身に付けた語彙、文法、表現などの知識を用いて、中国語の学習を行い、中国語のコミュニケーション力を高めながら、中国語圏の文化・社会などの知識を学び、中国に対する理解を深めていくことを目標としている。具体的には、まず中国のニュース番組、娯楽番組、映画などの章段を視聴覚的に聞き、その後に発音、語彙、文法事項、意味などを学習し、続いてその取り上げた材料に出てくる社会的・文化的背景などを学習する。

後期は、中国の映画を2本取り上げ、微視的に上記のテーマを取り扱う予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

- ◎ 中国語のコミュニケーション力を向上させる。
- ◎ 中国語圏の文化・社会に対する理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「我的父親母親」 (1)	
第2回	「我的父親母親」 (2)	
第3回	「我的父親母親」 (3)	
第4回	「我的父親母親」 (4)	
第5回	「我的父親母親」 (5)	
第6回	「我的父親母親」 (6)	
第7回	「我的父親母親」 (7)	テスト
第8回	「山の郵便配達」 (1)	
第9回	「山の郵便配達」 (2)	
第10回	「山の郵便配達」 (3)	
第11回	「山の郵便配達」 (4)	
第12回	「山の郵便配達」 (5)	
第13回	「山の郵便配達」 (6)	
第14回	「山の郵便配達」 (7)	
第15回	「山の郵便配達」 (8)	テスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	テスト、授業への貢献度(発表・宿題・小テスト)、出席状況などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義 (キャリア形成論) GA S キャリア形成論 LA S キャリア形成特殊講義 SA S ヴィジョン形成特殊講義 (キャリア形成) 12935
 I) GA S 特殊講義 (キャリア形成論) W

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、様々な科学分野の視座から「自己」や「社会」、そして「立命館大学」を見つめ直すことで、これから始まる大学の学びを体系化する点に、最大の特長があります。

講義では、思想、哲学や多文化理解の概念、経済学といった人文・社会科学のアプローチから自己を科学的にとらえる授業とともに、数学、人工知能、認知工学、動物行動学という自然科学領域からも自己を見つめます。さらに、立命館大学の教学理念「平和と民主主義」についてもしっかりと学びます。講義の終盤では、内定の決まった4回生を招き、授業を総括するとともに大学での学びを展望します。

到達目標 / Attainment Objectives

立命館大学は全学横断的に「キャリア教育科目」を配置しており、本講義はその中に位置付けられます。各科目は、学生のキャリア発達に応じた段階的な到達目標を掲げていて、本講義は科学的な「自己理解」です。本講義には、文学部、産業社会学部、国際関係学部、理工学部などから学内の教員が数多く登壇します。総合大学で学ぶ意味、喜びも併せて感じ取ってほしいものです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義は、全学型のキャリア教育科目に位置づけられています。立命館大学では、1回生前期から3回生前期まで、キャリア発達に応じたキャリア教育科目を配置していて、本講義はそのスタートに該当します。受講しますと、講義の中で全学型キャリア教育科目についての詳細を紹介します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ／大学での学びを考える (加藤)	概要／副題「科学からとらえる自己」の意味を考え、大学における学びの大切さや意義につき解説する。後半は、グループワーク。
第2回目	テーマ／思想、哲学に見る自己の在り方 (文学部教員)	概要／思想、哲学の領域から、人間とは何か、日本人とは何か、私 (自己) とは何かを深く問いかけ、考察します。
第3回目	テーマ／思想、哲学を通じて自己と向き合う (加藤)	概要／前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて私 (自己) とは何かにつき考察する。
第4回目	テーマ／多文化社会を生きる (産業社会学部教員)	概要／異文化間コミュニケーションギャップの観点から、多文化社会と自己を考察する。
第5回目	テーマ／多文化理解を通じて自己と向き合う (加藤)	概要／前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて多文化社会に生きる意味を考察する。
第6回目	テーマ／数学でとらえる自己 (理工学部教員)	概要／数学は哲学である。数学の持つ世界観、社会観を通じて自己と社会のつながりを考察する。
第7回目	テーマ／数学を通じて自己と向き合う (加藤)	概要／前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて数学を通した世界観について考察する。
第8回目	テーマ／脳における自己の世界 (理工学部教員)	概要／自己認識を医学 (脳の科学) の立場から解析する。脳のメカニズムと自己認識の関わりを学ぶとともに、ストレス社会に生きる意味も併せて考察する。
第9回目	テーマ／脳の科学を通じて自己と向き合う (加藤)	概要／前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて脳の科学を通した社会観について考察する。
第10回目	テーマ／立命館大学の教学理念を理解する (国際平和ミュージアム)	概要／立命館大学の教学理念「平和と民主主義」について、その背景と社会的な意義を考察する。
第11回目	テーマ／教学理念を通じて自己と向き合う (加藤)	概要／前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて教学理念の持つ意味と立命館大学での学びについて考察する。
第12回目	テーマ／経済学でとらえる自己と社会 (加藤)	概要／労働経済学ライフスタイル論を通じて自己と職業人人生、社会を考察する。
第13回目	テーマ／動物行動学でとらえる自己と社会 (廣瀬)	概要／動物行動学を通じて自己と職業人人生、社会を考察する。
第14回目	テーマ／働くこと、生きること (加藤+ジュニアアドバイザー)	概要／本学を卒業しビジネス社会で活躍する直前のジュニアアドバイザーを招き、パネルディスカッション形式で受講生と双方向で展開する授業。司会は加藤が務める。
第15回目	テーマ／総括 (加藤)	概要／全講義を振り返り、コーディネーターがまず自己理解と大学での学びの内省化につき総括。それをもとに受講生がグループワークを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	自己理解とその延長線上の社会認識の理解度を中心に評価します。
平常点(日常的)	90 %	①出席状況、②受講態度、③5回設けている前回講義の検証授業(第3、5、7、9、11講)においてグループワークを実施し、そこで学修到達度を検証する目的の課題レポートを実施、の3要素をもとに評価します。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることが絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件で評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。90%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学部やキャンパスを超えて数多くの本学教員が次々に講義を展開し、講義の開始時にコーディネーター教員の加藤が各講義の位置づけ、前後の講義との関連性などについて解説します。講義内容の多くは皆さんの専門外の分野であると同時に、受講機会の極めて少ない貴重な体験となるはずです。総合大学ならではの多彩な講師陣から多くの英知を受け取り、ものの見方、考え方を広げて欲しいものです。そのためにも、受け身とならず能動的な受講姿勢を心がけてください。受講ノートはしっかりと作成するように。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代科学の誕生(講談社学術文庫、上・下巻)	H・バターフィールド著、渡辺正雄訳／講談社／科学史の不朽の名著。人間社会の価値観の変遷とともに科学の歴史を紐解く。
はじめての哲学史講義	鷺田小彌太／PHP研究所／古代ギリシャ哲学から近代西洋哲学、現代の構造哲学、言語哲学を表題とおり分かりやすく解説する。
科学と哲学の基本書を2冊挙げました。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、この機会に、他の教員の研究業績も閲覧してみてください。「立命館の英知」を感じ取ることができます。

その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠、BKCともに開設されているインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な自己観や社会観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

特殊講義 (キャリア形成論II) GA S キャリア形成特殊講義 SB S ヴィジョン形成特殊講義 (キャリア形成論II) G3 S キャリア形成論 LC ¹³⁰²²

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、様々な科学分野の視座から「他者（個人、組織、地域、社会）」を認識することで、大学の学びを見つめ直すばかりか、卒業後のキャリア形成にも視野を広げる点に最大の特長があります。

講義は、「大学の学びを仕事（職業人生）と結び付け展望する」、「仕事（職業人生）を知る、考える」、「中間総括を行い内省化する」、「仕事（職業人生）の意味を知り対応する」、「大学の学びを仕事（職業人生）と結び付け総括する」の5段階から構成され、キャリア発達段階に応じた仕事（職業人生）観を育みます。

到達目標 / Attainment Objectives

立命館大学は全学横断的に「キャリア教育科目」を配置しており、本講義はその中に位置付けられます。各科目は、学生のキャリア発達に応じた段階的な到達目標を掲げていて、本講義は科学的な「他者認識」です。本講義には、川口清史学長が講義全体の方向付けを行うほか、ビジネスの第一線で活躍する学外講師がオムニバス形式で多数登壇し、仕事（職業人生）について深く考察します。プロフェッショナルたちの知見から、科学的な他者認識能力を大いに高めてほしいものです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅰ」（1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講）、「インターンシップ入門」（2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講）の受講が望めます。

また、3回生以上の受講生は「キャリア形成論Ⅲ」（3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講）の受講や、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオブ演習」（3回生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講）にもチャレンジしてください。さらに、高度なインターンシップ、コーオブ教育を柱とした「コーオブ教育概論」（研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講）も夏期集中講義として開講されますので、3回生以上でさらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word [大学の学びを仕事（職業人生）と結び付け展望する]
第1回目	テーマ／（導入）大学の学びと職業人生1（加藤）	概要／キャリア発達段階における「自己理解」に続く「他者認識」のあり方について解説した上で、本講義の位置づけと学び方を教示する。
第2回目	テーマ／大学の学びと職業人生2（川口清史、立命館大学学長）	概要／立命館大学学長が、学園の教学精神を踏まえ立命館のあるべき姿と、その下で学ぶ意義、意味について深く考察する。 [仕事（職業人生）を知る、考える]
第3回目	テーマ／環境ビジネスとしての21世紀型動物園（宮下実、大阪市立天王寺動物園園長）	概要／環境教育ビジネスとしての動物園経営を通じ、職業人生の広がりや大学における学びの重要性を解説する。
第4回目	テーマ／日本の技術、世界の技術（講師：大手メーカー技術開発部門）	概要／工学を中心とする世界の第一線の動向を解説。その上で、大学における学びの意義について考察する。
第5回目	テーマ／若年者雇用問題の概要（堀有喜衣、日本労働政策研究・研修機構研究員）	概要／雇用のあり方を問う3回連続の講義。初回は、雇用問題の研究家による分析をもとに考察する。
第6回目	テーマ／若年者雇用問題とキャリア形成（豊田義博、リクルートワークス研究所主任研究員）	概要／雇用問題の国際情勢に詳しい研究者による国際的動向分析をもとに考察する。
第7回目	テーマ／若年者雇用や教育をめぐる学生に伝えたいこと（斎藤貴男、ジャーナリスト）	概要／若年者雇用を考える3回連続講義の最後は、ジャーナリストの立場から問題の根源を探り考察する。 [大学の学びを仕事（職業人生）と結びつけ中間的に内省化する]
第8回目	テーマ／（中間総括）大学の学びと職業人生3（加藤＋グループワーク）	概要／これまでの講義を通じた学びを、グループワークを通じて内省化する。 [仕事（職業人生）の意味を知り対応する]
第9回目	テーマ／若者が社会的弱者に転落する（宮本みち子、放送大学教授）	概要／第8講までの学びをさらに発展的に展開する4回連続講義。初回は、社会的弱者として位置づけた若者（学生）のあり方。そこから大学の学びに求められるものを理解する。
第10回目	テーマ／法律相談室から見た若年者雇用（笹山尚人、東京法律事務所弁護士）	概要／法律の側面からとらえる仕事（職業人生）。
第11回目	テーマ／ワークライフバランス（大沢真知子、日本女子大学人間社会学部教授）	概要／時代の先端をゆくワークライフバランスの概念を深く理解し、仕事と学びを生涯をかけてどのように両立してゆくか考察する。

第12回目	テーマ／働く喜びと大学での学び（石田隆一、インダ社長）	概要／立命館大学とはインターンシップ、コーオプ教育プログラムなど幅広く連携する企業から講師を招聘し、仕事（職業人生）の意味について総括的に解き明かす。 [大学の学びを仕事（職業人生）と結び付け総括する]
第13回目	テーマ／大学での学びと職業・社会生活1（内定者によるパネルディスカッション）	概要／内定者（ジュニアアドバイザー）との双方向形式の授業。
第14回目	テーマ／大学での学びと職業・社会生活2（卒業生によるパネルディスカッション）	概要／卒業生（キャリアアドバイザー）との双方向形式の授業。
第15回目	テーマ／（総括）大学の学びと職業人生4（加藤）	概要／大学の学びの中核期にあって、他者（個人、組織、地域、社会）に科学的な視座から向き合う意味を総括する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 20 % 自己理解とその延長線上の社会認識の理解度を中心に評価します。

平常点(日常的) 80 % ①出席状況、②受講態度、の2要素をもとに評価します。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ビジネスの第一線で活躍する学外講師が数多く登壇しますので、講義の開始時にコーディネーター教員の加藤が各講義の位置づけ、前後の講義との関連性などについて解説します。講義内容の多くは皆さんが将来キャリアを形成する際に大きな力となるものばかりですから、この機会にぜひ、専門的な知識ばかりでなくモノの見方、考え方を広げて欲しいものです。そのためにも、受け身とならず能動的な受講姿勢を心がけてください。受講ノートはしっかりと作成するように。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

特に指定しません。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、学外講師はいずれも社会的な知名度の高い顔ぶれです。ホームページで検索すれば多くの情報が得られますので、講義の前に必ずチェックしてみてください。講師陣の英知を感じ取ることができるはずです。

その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠、BKCともに開設されているインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な自己観や社会観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

キャリア形成論Ⅲ G S キャリア形成論 LD S キャリア形成特殊講義 SC S ヴィジョン形成特殊講義 (キャリア形成論Ⅲ) GA, 12864

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、総合大学としての立命館大学の英知を結集して組み立てられている点に最大の特長があります。学生数(大学院生含む)約3万6000人の日本有数の大規模総合大学、立命館大学には、国内外で高い評価を受けている優れた教員が数多く在籍しています。その一方で、3キャンパスに分かれていることもあり、他キャンパスの、さらには他学部での優れた英知に触れる機会に乏しいのが現状です。

このため、12学部中、9学部(予定)から研究・教育実績に定評のある優れた教員を講師として招き本講義を組み立てました。「立命館の英知」をぜひこの機会に学びとってください。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は二つです。

一つは、専攻学問の再検証です。入学以来の学習上のモチベーションはいかがですか？ 学生生活にも慣れ、学ぶ目的や目標を見失いやすい時期に差し掛かっているのではないのでしょうか。今ここで、改めて所属する学部の教学を見直し、その社会的な意味や意義、何よりも学ぶ楽しさを再認識してほしいのです。教材は立命館の英知です。9学部(予定)の英知に触れることで、自らの専攻学問の再検証を図る。これが第一の到達目標です。

もう一つは、「会社」に対する負のイメージの科学的な払拭です。1980年代後半に生まれた皆さんは、成長期と日本経済の低迷期が重なる世代で、会社に代表される経済組織に負のイメージを強く持つことが統計等でも検証されています。本講義では、この偏ったイメージを3つの科学的カテゴリー(経済・経営学、法学、総合科学)から払拭します。会社は長い職業人生の舞台であり、皆さんの才能が発露される場でもあります。インターンシップや就職活動を控えたこの時期、ビジネス社会に前向きな気持ちで臨めるよう、科学的な視座を獲得するのが第二の到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講にもチャレンジしてください。

さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講)も夏期集中講義として開講されますので、さらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ／会社とは何者か (加藤)	概要／副題「会社と科学」の会社とは、ビジネス社会の意。科学的なものの見方、考え方の基本を説く。 [経済学・経営学カテゴリー]
第2回目	テーマ／「経済学」がとらえる会社と企業社会 (経済学部教員)	概要／会社＝企業は経済の担い手の1つであり、経済社会に大きな影響を与えている。企業社会といわれるものには、会社内部で形成されている一種の社会という意味と、社会自体が企業中心の社会になっているという2つの意味がある。会社は市場を媒介にして、他の社会領域と関係を結び、またそれに影響を与えているので、ここでは、消費者問題を中心にして広く企業の社会的地位や役割について考える手がかりを提供したいと考える。
第3回目	テーマ／「国際経済」の中の日本企業 (国際関係学部教員)	概要／企業が海外進出し、多国籍化していく原理は、それほど単純なものではない。この問題を、今日もっとも一般的な理論パラダイムとして受け入れられているJ. H. Dunningの折衷理論を柱にしながら、わかりやすく解説していく。具体例として、日経新聞を用いながら日本企業のケースを取り上げる。
第4回目	テーマ／「経営学」と会社 (経営学部教員)	概要／組織(会社)とは何か。会社の根源に経営学の手法から迫る。加えて、新しい会社形態とその特長、そこで働く意味や意義など実践的な内容を加味した授業を展開する。
第5回目	テーマ／「財務」から見た会社 (経営学部教員)	概要／ディスクロージャー(財務内容の開示)は、企業の社会的評価を左右する重要な課題である。その中で最も有力な開示手段である「有価証券報告書」を使って、これを縦横に分析し、真の企業価値を読み解くのに不可欠な基本的な知識と考え方を学ぶ。 [法学カテゴリー]

第6回目	テーマ／「商法(会社法)」と株式会社 (法学部教員)	概要／受講生の中には卒業後会社に就職する人も、すぐにでも自分で会社を作りたいと考えている人もいると思う。会社に就職した人であっても、いずれ社長になれば自ら会社を経営することになる。会社の経営には多くの関係者が存在するため、その利害を調整する一定のルールが必要になる。会社法は会社に関する法的ルールを定めた法律である。この講義では、株式会社の経営に関する具体的な問題について、会社法の観点からできる限りわかりやすく説明する。
第7回目	テーマ／「税法」と株式会社 (法学部教員)	概要／今回の講義では、受講生が将来就職して働く中でどのような課税上の扱いを受けるのか、給与所得者の所得課税について、その現状と問題点をとりあげたい。まず、給与所得課税の基本的仕組みを説明したうえで、給与所得控除やフリンジ・ベネフィット課税、源泉徴収・年末調整と給与所得者の確定申告権などの具体的な問題点を納税者の視点から考える。加えて、最近議論となっているいわゆる「サラリーマン増税」の内容を批判的に紹介したいと思う。
[中間的総括]		
第8回目	テーマ／経済学、経営学、法学を概観して (加藤)	概要／3つの科学分野からの会社(ビジネス社会)へのアプローチを行った上で、専攻学問の異なる受講生で編成するグループによる学習検証のワーキングを行う。議論の成果をレポート課題として課す。
[総合科学カテゴリー]		
第9回目	テーマ／コンテンツから見る「会社」 (映像学部教員)	概要／日本が誇るコンテンツ産業を考察しつつ、新しい働き方を追及する。
第10回目	テーマ／「会社」の社会的役割 (政策科学部教員)	概要／日本だけでなく世界各国で企業の不祥事が多発している。このような状況で、企業が社会より信頼性を確保するためには、社会的責任を自覚し、それを反映した経営理念に準拠した企業活動を遂行する必要がある。本講では改めて、そもそも企業とは何か、企業が何を対象にどのように活動し何を求めるのか、社会に何を還元しうするのか、さらに、企業の社会的責任とは何か、に関して、その全体像を考察する。
第11回目	テーマ／NPO法人と「株式会社」 (産業社会学部教員)	概要／1998年のNPO法施行以降、日本でもNPOが急速に台頭している。NPOという組織の株式会社と何が異なり、何が共通しているのかを明らかにする。同時に近年、「営利」「非営利」が融合し、新しい働き方が生まれている。また現在、多くの企業がNPOとのパートナーシップを進めており、この点についても論じていく。
第12回目	テーマ／知能ロボットから見た「会社」 (情報理工学部教員)	概要／認知工学の立場から、緊急時の情報と人間(社会)との関わりを、企業や自治体における事業継続管理(BCM)をもとに解き明かす。
第13回目	テーマ／生態学から見た「会社」 (理工学部教員)	概要／近代の自然科学の背景にある「合理的精神」については、その正統性と限界性をうまく理解しておきたい。問いの世界は自由だが答えるのは不自由もいところ。とりわけ人間社会とそれを支える組織、経済原理の拠ってたところについて、生物学の視点からなにか気のきいたことを語れといわれても、それはとても難しい。ここでは苦し紛れに、生物学が人間という存在を<相対化>できる数少ない科学であるとの確信に基づいて、怪しい存在としての人間の、その近代になってますますその「怪しさ」を顕わにしてきたこと――怪しい／人間の／生態学を試みてみよう。
第14回目	テーマ／現代文学から見た「会社」 (文学部教員)	概要／1980年代以降の現代文学を取り上げ鑑賞しながら、現代(ビジネス)社会の中で私たちがどのようにアイデンティティーを確立し、人間関係を築いているのか、あるいは、多様な価値観の中で現代社会をどのように捉え、生きていくべきなのか、を学生諸君と共に考えてみたい。
[総括]		

第15回目 テーマ／専攻学問 (科学) と会社 (加藤)

概要／インターンシップおよび就職活動直前期にあたって、会社 (ビジネス社会) を自ら専攻する学問的視点から、さらには他の科学領域も含めた広い科学的視座からとらえるべく、3つのカテゴリーからのアプローチを総括。総括レポート課題を課す。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	「経営学・経済学」、「法学」、「総合科学」の3つのカテゴリー全体にわたる理解度を中心に評価します。
平常点(日常的)	90 %	①出席状況、②受講態度、③授業期間内に学修到達度を検証するレポート課題を、中間的総括(第8講)、総括(第15講)で実施、の3要素をもとに評価します。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

9学部から12人(いずれも予定)の教員が次々に講義を展開し、それをコーディネーター教員が講義の開始時、終了時に関連づけます。講義の多くは皆さんの専門外分野ですから、講師が基本書を指定する場合は、事前に必ず読んでおいてください。基本書の指定は、原則として1週前の講義終了時にコーディネーター教員(加藤)が行います。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
会社はこれからどうなるのか	岩井克人／平凡社／ISBN4-582-82977-5／会社は何者か、誰のものか、どうなるのか。会社論の根源に迫る良書。小林秀雄賞受賞。
キャリア教育－歴史と未来	Kenneth B. Hoyt, 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳／雇用問題研究会／ISBN4-87563-230-4／キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。

初回の授業に向けての基本書を2冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、この機会に、他の教員の研究業績も閲覧してみてください。「立命館の英知」を感じ取ることができます。

その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠、BKCともに開設されているインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な会社観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

キャリア形成特殊講義 SD

15565

担当者名 / Instructor 出口 剛司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- (1) 民間企業のあらゆる業種・分野の職種調査と、その職種に求められる要件 (資格・語学・アカデミックキャリア) の調査
- (2) 職種ピックアップとインタビュー
- (3) 調査に基づく議論、レポート作成、プレゼンテーション
- (4) 1グループ5名程度のグループワークとする

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまな業種、職種の職業理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とする。またフィールドワークを伴う実践型の授業とし、論理力、分析力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を涵養する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	概要説明、業界・企業研究1	
第02回	業界・企業研究2	
第03回	業界・企業研究3	
第04回	業界・企業研究4	
第05回	業界・企業研究5	
第06回	フィールドワーク事前ガイダンス	
第07回	フィールドワーク1	
第08回	フィールドワーク2	
第09回	フィールドワーク3	
第10回	フィールドワーク4	
第11回	プレゼンテーション1	
第12回	プレゼンテーション2	
第13回	プレゼンテーション3	
第14回	プレゼンテーション4	
第15回	プレゼンテーション5	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

自らが取材する企業・業界についての研究をしっかり行い、理解を深め、十分な準備をしてから、インタビューに臨むこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	授業への出席を重視します。第1回目の授業では授業の進め方、成績評価など重要な説明をしますので、必ず出席してください
P (合格) または F (不合格) として評価する		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜指示する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
13歳のハローワーク	村上 龍 / 幻冬社 //

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

インターンシップ入門 GA S キャリア形成特殊講義 SE S ヴィジョン形成特殊講義 (インターンシップ入門) GA S 特殊講義 (15494) ターンシップ入門) GA

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、専攻の異なる学部生が少人数のグループを編成し、異なる視座から議論を展開する機会が数多く盛り込まれている点に特長があります。講義名の通り、全学インターンシップ・プログラムの関連科目に位置づけられており、3回生時に集中するインターンシップに向けて必要とされる教養、知識、スキルなどを幅広く学ぶほか、その後の就職活動や卒業後のキャリア形成にもつながる幅広い学びを実現します。

到達目標 / Attainment Objectives

「基礎学習」では、インターンシップの精神に照らし、在籍する学部やインスティテュートの学び(専攻学問)の再検証を目標とします。「実践学習」では集中講義形式をとり、外部講師を招き現実課題に取り組むことで企画立案能力とプレゼンテーション能力を習得します。さらに、「発展学習」でインターンシップの受入先であるビジネス社会を科学的にとらえる視座を獲得します。その上で、「総括学習」では高倍率時代を迎えているインターンシップのエントリーを確実に通過できるための戦略的スキルなどを、専門家を招きマスターします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目、衣笠開講)の受講が望まれます

また、3回生以上の受講生は「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講や、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオブ演習」(3回生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)にもチャレンジしてください。さらに、高度なインターンシップ、コーオブ教育を柱とした「コーオブ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講)も夏期集中講義として開講されますので、3回生以上でさらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	[基礎学習]	
第1回目	テーマ／キャリア教育考 (加藤／講義＋グループワーク)	概要／一人称から二人称へ。科学的な視座とは何かを学び、立命館大学のインターンシップ基本理念の精神を理解する。後半はグループワーク。
第2回目	テーマ／理論と実践Ⅰ (加藤)	概要／インターンシップからキャリア教育まで、定義を中心に科学的に産学連携教育を理解する。
第3回目	テーマ／理論と実践Ⅱ (廣瀬)	概要／動物行動学から見る学びの意味、意義、価値について考察する。
第4回目	テーマ／問題発見と課題解決に向けてⅠ (加藤／講義＋グループワーク)	概要／論理的思考法、討論技法をもとに、問題発見、課題解決、企画立案の基礎的スキルを学習する。
第5回目	テーマ／問題発見と課題解決に向けてⅡ (加藤／講義＋グループワーク)	概要／発想法をもとに、問題発見、課題解決、企画立案の基礎的スキルを学習する。
	[実践学習 (集中講義)]	
第6、7回目 (11月第1週土曜)	テーマ／企画立案への挑戦Ⅰ (菅野聡之セガエンタテインメント施設開発統括部長、犬走泰信らぼーとりテール事業部長／講義＋グループワーク)	概要／学外講師2名を招き、2教室に分かれ2回連続の集中講義を実施。現実課題の企画立案にグループ単位で挑戦する。第6回目は、ビジネス社会における企画立案の重要性や、そこに求められる基礎知識や素養等をまず講師が指導。その上で、現実的な課題が講師から提示される。第7回目は、専攻学問の異なる顔ぶれのグループに分かれ、問題発見や課題解決に向けた議論を展開する。
第8、9回目 (11月第4週土曜)	テーマ／企画立案への挑戦Ⅱ (同上／グループ別発表と評価、総括)	概要／前回授業から3週間にわたりグループ別に取り組んできた企画立案の発表。2回連続の集中講義形式。終盤に、発表に対する評価コメントと総括が講師からなされる。
	[発展学習]	
第10回目	テーマ／コンテンツ産業から見る会社 (中村彰憲 政策科学部教授)	概要／従来のモノづくりの尺度で規定できる仕事から、多様な業務に対応可能な企画・制作ノウハウを多面的に併せ持つプロデューサー的人材への要請が高まっている。コンテンツ型人材の解析を通じ、インターンシップにおける望ましい学びについて考える。
第11回目	テーマ／ベンチャー企業から見る社会 (黒木正樹経営学部教授)	概要／常に創造性を求められるベンチャー企業。立命館大学では、学内においてベンチャー企業を育成するシステムを持っており、その担当教員を招き新たな会社、社会に対する視座を学ぶ。
	[総括学習]	

第12回目	テーマ／戦略的エントリー法Ⅰ（加藤）	概要／高倍率のインターンシップエントリーに対処するための連続講義。1回目は初級・中級編。小手先の文章作成スキルでは高倍率のエントリーを突破できない。講義では論理思考に基づく作文法をもとに「読み手の心に刺さる」文章の作成法を学習する。
第13回目	テーマ／戦略的エントリー法Ⅱ（加藤）	概要／連続講義の2回目は中級編から上級編。1回目の授業で培われた基礎的文章力をもとに、高倍率のエントリーに通用する確かな作文能力の習得を目指す。
第14回目	テーマ／受入者から見たインターンシップ（村本 伸一 京セラ人事企画部長）	概要／インターンシップの受入れ側は何を学生に求め、何を見ているのか。コーオプ演習などを通じて本学との間で様々なインターンシッププログラムを展開する企業から講師を招き、インターンシップの客観的分析を試みる。
第15回目	テーマ／大学での学びとインターンシップ（加藤）	概要／最終講義では、サブタイトルの「就労と科学」に基づき総括を行うとともに、立命館大学のインターンシップ・プログラム、キャリア教育科目など幅広い学びの環境につき解説する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

インターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	「基礎学習」、「実践学習」、「発展学習」、「総括学習」の4つの学習カテゴリーの理解度を中心に評価します。
平常点(日常的)	90 %	①出席状況、②受講態度、③実践学習の4回の講義(第6～9講)を通じて、企業が抱える現実の課題解決にあたるが、その成果発表及び成果作品に対して、担当学外講師が評価を行う。評価は、グループ単位で実施、④エントリーシート(第14講)、の4要素をもとに評価します。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。90%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に、時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大規模教室でありながら、グループワークが数多く導入される講義です。グループワークは様々な形で評価に影響します。よって、常に能動的な受講意志を持つことが肝要です。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／／国内外のインターンシップに関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
主に「基礎学習」の参考書を3冊挙げました。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

春期のインターンシップ・ガイダンスに参加すると、参加者全員に「立命館大学 Internship Guide Book」が配布されます。その中で、インターンシップに関連するサイトが紹介されます。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されているインターンシップオフィスは情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。受講で得られた各種の能力、スキルを大いに生かすためにも。

キャリア形成論Ⅲ(コオプ教育概論) GA S 特殊講義(自由選択)Ⅰ(コオプ教育概論) T S 特殊講義(基礎)Ⅰ(コオプ教育概論) T S 特殊講義(基礎)Ⅰ(コオプ教育概論) C S コオプ教育概論 G S キャリア形成論 LE S キャリア形成特殊講義 SF S 政策科学特殊講義(コオプ教育概論) P S 特殊講義(各部門共通)Ⅰ RK

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、約半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラム、コオプ演習と教育的にリンクする科目として開講される夏期集中講義です。対象は全学で、学部や大学院の枠組みを超えた顔ぶれが受講するほか、大学コンソーシアム京都を通じた公開授業でもあり、学外からも受講生が参加します。演習名の「コオプ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コオプ教育(Cooperative Education)に由来しています。9月第一週の夏期集中講義で、衣笠・BKCの隔年開講です。2008年度は衣笠の開講です。

到達目標 / Attainment Objectives

科目名称のコオプ教育にふさわしく、講義全体を通じて、①高度な産業社会に通用する高い問題発見・課題解決能力の涵養、②学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、③自律的な学習意志・姿勢の確立、を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義に教育的にリンクする講義として、「コオプ演習」(3回生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)が開講されています。同演習受講生は、必ず受講することが望まれます。

また、本講義は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていることから、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講も勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1日目		
1講(2限)	テーマ／導入－コオプ教育とは (加藤)	概要／1906年に米国・シンシナティ大学で導入されて以来、一世紀に及ぶコオプ教育の歴史や、近年日米とも大きな高まりを見せるキャリア教育の動向などを解説する。
2講(3限)	テーマ／理論を实践する1 (課題の提示と解説)	概要／学外講師として渡海一博ドリームリンクス代表取締役を招き、現実の課題をもとに14講の発表に向け受講生がチームを結成してその解決立案に挑戦する。
3講(4限)	テーマ／理論を实践する2(問題の発見と課題の整理、グループワーク)	概要／前講義で示された現実の課題を受けて、受講生チームが問題の発見と課題の整理をグループワークを通じて実践する。
第2日目		
4講(1限)	テーマ／事前学習－能動的な学びと人材(加藤)	概要／グループワークを通じてテーマに即した議論を行い、次講の公開講座に備える。
5講(2限)	基調講演「産業界から見た産学連携教育」(講師：ニタ村 森経済産業省産業技術環境局大学連携推進課企画調整官)	概要／長期で高度な内容のインターンシップ、コオプ教育を日本でどのように組み立て、展開してゆくべきか。産学連携教育を所管する経済産業省から講師を招き、あるべき日本型コオプ教育像を探る。
6～8講(3～5限)	シンポジウム「日本型コオプ教育を考える」	概要／文部科学省、経済産業省、経済団体、教育関係者の4名パネリストで、シンポジウム形式で表題につき意見交換。その上で会場と双方向で議論を展開する。5限は公開講座全体を通じた総括レポート作成を行う。
第3日目		
9講(2限)	テーマ／①技術者として生きて、②メディア人として生きて	概要／理系、文系の両クラスに分かれ、職業人生を考察する。理系クラス講師は丸山 博京セラ部品研究開発本部責任者、文系クラス講師は桑原 毅京都新聞社編集局次長。
10講(3限)	テーマ／①21世紀の技術者人生を考える、②21世紀のメディア人人生を考える	概要／前講義をもとに、グループワークを通じて21世紀に向けての職業人生を考察する。
11講(4限)	テーマ／調査法、統計処理法を学び、実践する。	概要／問題発見・課題解決型学習プログラムに不可欠なスキルに調査法、統計処理法を学習する。講師は、立命館大学キャリア教育センターの廣瀬幸弘教授。
第4日目		
12、13講(3、4限)	テーマ／理論を实践する3(企画立案への挑戦、グループワーク)	概要／2講、3講を受けて、受講生チームが翌日の企画立案発表に向けて準備を行う。
第5日目		

14 講 (4 限) テーマ／理論を实践する 4 (企画立案発表)

概要／2 講、3 講、12 講、13 講を通じて積み上げてきた企画立案を受講生チームが発表する。

15 講 (5 限) テーマ／理論と実践を総括する

概要／コーディネーター教員が講義全体を総括した上で、総括レポートを作成し講義時間内に提出する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義には産業界からも受講生が参加します。グループワークなどを通じて社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。特に、コーオプ演習受講生は、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかりと目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	10 %	最終授業で総括レポートを課します。
平常点(日常的)	90 %	①出席状況、②学習姿勢、③第14講でグループ別の企画立案発表を行い、それをコーディネーター教員が評価する。評価はグループ単位で行う、の③要素をもとに総合的に評価します。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることが絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は公開講座を除き、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。90%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は大学院生や学外からの受講生を交え、グループワークなど双方向型の授業形式を数多く採り入れていますので、受講生自らが学び取ろうという能動的な姿勢が強く求められます。教室内でビジネス社会と触れ合う良い機会です。多くのものを学んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～』、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／『日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察』の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
『立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて』、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／『コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。』
キャリア教育－歴史と未来	Kenneth B. Hoyt, 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳／雇用問題研究会／『キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。』
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／『国内外のコーオプ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊』
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／『産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。』
コーオプ教育の基本書を5冊挙げました。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

学外講師の所属する企業、団体の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

キャリア形成特殊講義 SG

15596

担当者名 / Instructor 水野 篤夫, 斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

青少年の自立と成長をどのように促進するのか。この問いは青少年教育において古くからあるものだ。しかし、ニートや引きこもりの増加に見られるように、若者を巡る課題や社会環境は複雑化し続けており、近年、改めてクローズアップされる問いとなっている。こうした現況にあって、青少年の自立と成長を促進する専門職（いわゆる「ユースワーク」）に対して注目が集まっている。

本講義では、若者の自立と成長をどのように促進するのかという問いに対し、実践的な答えを提示しつつ、受講生とともに新たな企画・政策の立案を試みたい。その際、実際に「わかものを元気にする仕事」に従事している方々をゲストにお招きする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義を通じて、個々の青少年の課題と向かい合うと同時に、そうした課題を生起させている社会構造にも目を向けることを受講生には期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクションーユースサービスとは何か？	ユースサービス 青年 若者 思春期
第2回	現代日本の青少年が抱える課題を考える (ワークショップ)	ポスト青年期
第3回	ユースサービスの実践から学ぶ①ー非行・犯罪と青少年	非行 少年犯罪
第4回	ユースサービスの実践から学ぶ②ーセクシュアルヘルスと青少年	セクシュアルヘルス リプロダクティブヘルス
第5回	ユースサービスの実践から学ぶ③ーニート、フリーターと青少年	ニート フリーター 就労
第6回	ユースサービスの実践から学ぶ④ー不登校、引きこもりと青少年	不登校 引きこもり
第7回	ユースサービスの実践から学ぶ⑤ードラッグ依存と青少年	依存 薬物
第8回	ユースサービスの実践から学ぶ⑥ー多文化共生と青少年	多文化共生
第9回	ユースサービスの実践から学ぶ⑦ー政治参加／社会参加と青少年	政治参加 社会参加
第10回	海外のユースサービスの活動を知る	イギリス ユースワーク
第11回	ユースサービスの基本プロセスを学ぶ	ユースサービスの企画／政策の立案、実施、見直し、フィードバック
第12回	現代日本の青少年のニーズを調べる (グループワーク)	
第13回	現代日本の青少年のニーズを調べる (グループワーク)	
第14回	新たなユースサービスの取り組みを企画するーグループ発表会①	
第15回	新たなユースサービスの取り組みを企画するーグループ発表会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	グループ発表およびレポートの提出
平常点(日常的)	60 %	講義の最後にミニレポートを課す場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、青少年支援のあり方について、多角的に学ぶと同時に、受講生自身が新しいユースサービスプログラムを考案する場でもある。したがって、。したがって恒常的な出席が難しい学生には適さない。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムで、二つの特長を備えています。

一つは、後期セメスター期間を通じて、企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム(5名程度)が取り組む実践的で自律的な学習プログラムであること。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

二つ目は、本科目が文部科学省の「平成17年度派遣型高度人材育成協同プラン」の選定プログラムであることです。日本ではまだ数少ないコーオペ教育プログラムとして学内外の注目を集めているばかりか、国の委託事業として各チームに専用のパソコンが貸与されたり、活発な学習活動への支援が行われます。こうして、キャンパス内にとどまらない幅広い学習活動がサポートされます。

本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は4月上旬頃にガイダンスを行いますので、学部事務室の掲示板またはインターンシップオフィスで日程を確認してください。なお、選考合格後には履修料(1万円)の納入が必要となります。

到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育(Cooperative Education)に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。本学の大学院生のほか、大学コンソーシアム京都を通じて学外からも受講生が参加する科目で、受講により本演習の理解は一段と深まります。

また、本演習は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていて、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講も望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) (開講前)	テーマ / Theme [学内公募]	キーワード / Key Word
	[リスクマネジメント研修]	①参加企業からの課題が2007年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2008年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考(リポート、面接)が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
(開講)	[学内研究会]	7月に実施される、全学インターンシップ・プログラムの「リスクマネジメント研修」等を受講します。
	[プレゼンテーション研修]	7月初旬に第1回(チームの顔合わせ、課題・会社研究)が、そして9月下旬から年末まで原則として毎週、授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。内容は、チームによる自主的学習活動です。
	[企業研修]	9月上旬に、専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
	[企画立案研修]	9月中旬に会社研究を目的に、2日間限定で参加企業に出向き研修(インターンシップ)を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	[中間発表]	9月下旬に、専門家を学外から招き、企画立案に関する基本的なノウハウを習得します。
	[成果発表]	11月上旬に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
	[成果発表]	2008年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

[総括評価]

2009年1月初旬の学内研究会で、自己評価と他者評価を通じた総括評価を評価シートをもとに行うほか、リーダーに関してはヒアリング形式で別途総括評価を行います。

[報告書作成]

2008年度内に、チーム単位で報告書(120ページ程度)を作成します。報告書は受講生にも配布されますので、就職活動などに大いに活用できます。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出(随時)、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに総合的に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員(加藤)が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオペ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオペ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオペ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／コーオペ教育をめぐる動向とともに、コーオペ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／／国内外のコーオペ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント(ミレニアム版)	フィリップ・コトラー／ピアソン・エデュケーション／／問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。
コーオペ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムで、二つの特長を備えています。

一つは、後期セメスター期間を通じて、企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム (5名程度) が取り組む実践的で自律的な学習プログラムであること。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

二つ目は、本科目が文部科学省の「平成17年度派遣型高度人材育成協同プラン」の選定プログラムであることです。日本ではまだ数少ないコーオペ教育プログラムとして学内外の注目を集めているばかりか、国の委託事業として各チームに専用のパソコンが貸与されたり、活発な学習活動への支援が行われます。こうして、キャンパス内にとどまらない幅広い学習活動がサポートされます。

本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は4月上旬頃にガイダンスを行いますので、学部事務室の掲示板またはインターンシップオフィスで日程を確認してください。なお、選考合格後には履修料 (1万円) の納入が必要となります。

到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育 (Cooperative Education) に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3年生以上配当科目、衣笠開講) が夏期集中講義として開講されます。本学の大学院生のほか、大学コンソーシアム京都を通じて学外からも受講生が参加する科目で、受講により本演習の理解は一段と深まります。

また、本演習は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていて、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講) の受講も望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回) (開講前)	テーマ / Theme [学内公募]	キーワード / Key Word
	[リスクマネジメント研修]	①参加企業からの課題が2007年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2008年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考 (リポート、面接) が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
(開講)	[学内研究会]	7月に実施される、全学インターンシッププログラムの「リスクマネジメント研修」等を受講します。
	[プレゼンテーション研修]	7月初旬に第1回 (チームの顔合わせ、課題・会社研究) が、9月下旬から年末まで原則として毎週、授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。内容は、チームによる自主的学習活動です。
	[企業研修]	9月上旬に、専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
	[企画立案研修]	9月中旬に会社研究を目的に、2日間限定で参加企業に出向き研修 (インターンシップ) を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	[中間発表]	9月下旬に、専門家を学外から招き、企画立案に関する基本的なノウハウを習得します。
	[成果発表]	11月上旬に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を、原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
	[成果発表]	2008年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

[総括評価]

2009年1月初旬の学内研究会で、自己評価と他者評価を通じた総括評価を評価シートをもとに行うほか、リーダーに関してはヒアリング形式で別途総括評価を行います。

[報告書作成]

2008年度内に、チーム単位で報告書(120ページ程度)を作成します。報告書は受講生にも配布されますので、就職活動などに大いに活用できます。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出(随時)、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに総合的に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員(加藤)が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオペ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオペ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオペ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／コーオペ教育をめぐる動向とともに、コーオペ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／／国内外のコーオペ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント(ミレニアム版)	フィリップ・コトラー／ピアソン・エデュケーション／／問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。
コーオペ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ GC S 海外インターンシップ GC

15227

担当者名 / Instructor 谷垣 和則

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い就業意識の醸成、自主性、独創性、柔軟性のある人材育成などを目的に、企業や行政機関およびNPO・NGO団体などにおいて、2週間～1ヶ月程度の就業体験を行う「教育プログラム」です。受入先の部門としては、管理・総務・営業・製造現場・研究開発部門など多岐にわたります。募集および受講許可発表などの手続きは、全て大学コンソーシアム京都が窓口となって行います。

到達目標 / Attainment Objectives

日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、関連科目の「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)および「キャリア形成論III」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。また、本年度から新たに高度なインターンシップ、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠)も夏季集中講義として開講されます。インターンシップで学んだものをさらに発展的に学習したい方にお勧めです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	事前講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表
	インターンシップ研修	詳細はガイダンス時に発表
	事後講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限毎日、新聞は読むようにしましょう。特に、インターンシップ先の業界に関わる記事にはしっかり目を通してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターンシップ研修が行われる企業等は、学校ではありません。学習プログラムが用意されているわけではないのです。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢が求められます。過去の事例でも、「立命館大学の学生はいろいろと提案してきて、こちらもやりがいがあった」との声が寄せられています。受け身でなく、能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

必要に応じて適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて適宜指示する。

その他 / Others

必要に応じて適宜指示する。

国内インターンシップ GC § 海外インターンシップ GC § 特殊講義 (基礎) I (インターンシップ) GC § 特殊講義 (基礎) 1 (インターンシップ) GC 15229

担当者名 / Instructor 谷垣 和則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い就業意識の醸成、自主性、独創性、柔軟性のある人材育成などを目的に、企業や行政機関およびNPO・NGO団体などにおいて、2週間～1ヶ月程度の就業体験を行う「教育プログラム」です。受入先の部門としては、管理・総務・営業・製造現場・研究開発部門など多岐にわたります。募集および受講許可発表などの手続きは、全て大学コンソーシアム京都が窓口となって行います。

到達目標 / Attainment Objectives

日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、関連科目の「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)および「キャリア形成論III」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。また、本年度から新たに高度なインターンシップ、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠)も夏季集中講義として開講されます。インターンシップで学んだものをさらに発展的に学習したい方にお勧めです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	事前講義 (大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表
	インターンシップ研修	詳細はガイダンス時に発表
	事後講義 (大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限毎日、新聞は読むようにしましょう。特に、インターンシップ先の業界に関わる記事にはしっかり目を通してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点 (日常的)	100 %	大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターンシップ研修が行われる企業等は、学校ではありません。学習プログラムが用意されているわけではないのです。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢が求められます。過去の事例でも、「立命館大学の学生はいろいろと提案してきて、こちらもやりがいがあった」との声が寄せられています。受け身でなく、能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

必要に応じて適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて適宜指示する。

その他 / Others

必要に応じて適宜指示する。

国内インターンシップ(専門) GA § 国内インターンシップ GA § 海外インターンシップ GA § 海外インターンシップ(専門) C.15228
§ 国内インターンシップ IA § 海外インターンシップ IA § 学校インターンシップ GA

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位認定を行います。そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②履修料(1万円)を納入し、③「事前、事後研修」をすべて受講し、④最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティテュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)および「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講にもぜひチャレンジしてください。

なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1, 2	事前研修Ⅰ／総合オリエンテーション、インターンシップとは何か(基本的視点)、グループワーク(専攻学問の再検証と問題発見への挑戦)	
	事前研修Ⅱ／ビジネスマインド研修、ビジネスマナー研修	事前研修Ⅲ／リスクマネジメント研修、企業研究研修(エントリー対策、財務分析等)
3	インターンシップ研修(原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とします)	
4	事後研修／インターンシップ研修における学びの成果発表、グループワーク(就業体験を通じての学びの確認と今後の学習目標設定)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	日常点(事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習の内容をもとに評価します):70%、最終レポートなど:20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります):10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。理由なき学内研修での遅刻や欠席は、その時点でF評価になります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

仕事！	スタッズ・ターケル／晶文社／ISBN4-7949-5661-4／1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編／日本経済新聞社／ISBN4-532-35114-6／日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍／幻冬舎／ISBN4-344-00429-9／人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立ちそうな3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される学内の様々なインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、関連サイトが紹介されます。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ(専門) GA § 国内インターンシップ GA § 海外インターンシップ GA § 海外インターンシップ(専門) C¹⁵²³⁰
§ 国内インターンシップ IA § 海外インターンシップ IA § 学校インターンシップ GA

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位認定を行います。そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②履修料(1万円)を納入し、③「事前、事後研修」をすべて受講し、④最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティテュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)および「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講にもぜひチャレンジしてください。

なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1, 2	事前研修Ⅰ／総合オリエンテーション、インターンシップとは何か(基本的視点)、グループワーク(専攻学問の再検証と問題発見への挑戦)	
	事前研修Ⅱ／ビジネスマインド研修、ビジネスマナー研修	事前研修Ⅲ／リスクマネジメント研修、企業研究研修(エントリー対策、財務分析等)
3	インターンシップ研修(原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とします)	
4	事後研修／インターンシップ研修における学びの成果発表、グループワーク(就業体験を通じての学びの確認と今後の学習目標設定)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	日常点(事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します):70%、最終レポートなど:20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります):10%
評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。理由なき学内研修での遅刻や欠席は、その時点でF評価になります。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

仕事！	スタッズ・ターケル／晶文社／ISBN4-7949-5661-4／1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編／日本経済新聞社／ISBN4-532-35114-6／日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍／幻冬舎／ISBN4-344-00429-9／人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立ちそうな3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される様々な学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、関連サイトが紹介されます。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

(共) ボランティアインターンシップ GA S 特殊講義 (自由選択) I (VTインターンシップ) TA

20389

担当者名 / Instructor 赤澤 清孝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、講義科目、演習科目と連動しながら行われる。主に夏期休暇中で90時間以上のインターンシップをおこなう。

到達目標 / Attainment Objectives

インターンシップ先により異なる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~15	インターンシップ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	活動時間、計画作成、提出物、報告内容等から判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティアインターンシップ GB S 特殊講義 (自由選択) I (VTインターンシップ) TB

20391

担当者名 / Instructor 吉田 真

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、講義科目、演習科目と連動しながら行われる。主に夏期休暇中で90時間以上のインターンシップをおこなう。

到達目標 / Attainment Objectives

インターンシップ先により異なる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~15	インターンシップ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	活動時間、計画作成、提出物、報告内容等から判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティアマネジメント論 GA S 特殊講義 (自由選択) I (VTマネジメント) TA

16745

担当者名 / Instructor 赤澤 清孝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア活動支援演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動を組織し、調整、推進していくうえでコーディネーターに求められる役割と業務および倫理について学ぶ。ボランティア振興に関わるイベントの企画運営と展開のあり方、ボランティアの登録や管理、ボランティア活動の相談から調整と評価までの需給調整、社会資源の活用と開発などについての基本的な考え方、知識や技術を取りあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ボランティアコーディネーションの応用的理解	ボランティア活動・ボランティアコーディネーションの評価
2	ボランティアコーディネーションの応用的理解	情報技術を使ったボランティア支援
3	ボランティアコーディネーションの応用的理解	ボランティア活動を発展させる資源
4	ボランティアコーディネーションの応用的理解	ボランティアのリーダーシップ
5	リスクマネジメント	ボランティア活動に関する倫理問題
6	リスクマネジメント	ボランティア活動上のトラブルと保険
7	リスクマネジメント	災害時のボランティアコーディネーション
8	リスクマネジメント	困難なコーディネーションの対処 (ケース)
9	ボランティアの活動展開	ボランティアの活動展開
10	ボランティアの活動展開	ボランティアグループからNPOへ (1)
11	ボランティアの活動展開	ボランティアグループからNPOへ (2)
12	ボランティアの活動展開	NPOを成功に導くために
13	ボランティアコーディネーションまとめ	ボランティアコーディネーションまとめ (1)
14	ボランティアコーディネーションまとめ	ボランティアコーディネーションまとめ (2)
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点 (日常的)	100 %	出席、授業への積極性、課題提出及びその内容を踏まえて評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボランティアマネジメント	桜井政成 / ミネルヴァ書房 //

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティアマネジメント論 GB S 特殊講義 (自由選択) I (VTマネジメント) TB

16747

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則、吉田 真

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア活動支援演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動を組織し、調整、推進していくうえでコーディネーターに求められる役割と業務および倫理について学ぶ。ボランティア振興に関わるイベントの企画運営と展開のあり方、ボランティアの登録や管理、ボランティア活動の相談から調整と評価までの需給調整、社会資源の活用と開発などについての基本的な考え方、知識や技術をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ボランティア活動の応用的理解	ボランティア活動, コーディネーション評価
2	活動のプランニング①	ボランティア・ニーズ
3	活動のプランニング②	社会資源, 連携, 調整
4	活動のプランニング③	ボランティアの募集, 情報, 講座
5	活動のプランニング④	相談援助とマッチング
6	報告会	インターンシップの報告
7	リスクマネジメント	トラブル対応, 保険
8	グループ運営, 支援①	NPO
9	グループ運営, 支援②	ボランティア・グループ
10	グループ運営, 支援③	国際関係団体
11	ボランティアマネジメント総論①	
12	ボランティアマネジメント総論②	
13	レポート構想報告会	
14	レポート報告会①	
15	レポート報告会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点 (日常的)	100 %	出席、授業への積極性、課題提出及びその内容を踏まえて評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア活動支援演習 GA S 特殊講義(自由選択) I (VT活動支援演習) TA

16749

担当者名 / Instructor 赤澤 清孝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に着けることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	インターンシップの振り返り	
2～8	インターンシップ等に関心を持ったテーマを深める(企画 & プレゼンスキルの向上)	
9～14	修了レポートの作成(ライティングスキルの向上)	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア活動支援演習 GB S 特殊講義(自由選択) I (VT活動支援演習) TB

16751

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に着けることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	インターンシップの振り返り	
2～8	インターンシップ等に関心を持ったテーマを深める(企画 & プレゼンスキルの向上)	
9～14	修了レポートの作成(ライティングスキルの向上)	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア活動支援演習 GC S 特殊講義 (自由選択) I (VT活動支援演習) TC

16753

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に着けることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	各グループで振り返り	
2	リサーチ課題設定、発表準備	
3	グループセッション①	リサーチ課題確認
4	グループセッション②	リサーチ課題確認
5	グループセッション③	リサーチ課題確認
6	報告会	インターンシップの報告
7	修了レポート書き方	レポート作成・発表準備①
8	構想報告①	レポート作成②
9	構想報告②	レポート作成③
10	構想報告③	レポート作成④
11	構想報告④	レポート作成⑤
12	ボランティアマネジメント総論②	
13	レポート構想報告会	
14	レポート報告会①	
15	レポート報告会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点 (日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア活動支援演習 GD S 特殊講義(自由選択) I (VT活動支援演習) TD

16755

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に着けることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	各グループで振り返り	
2	リサーチ課題設定、発表準備	
3	グループセッション①	リサーチ課題確認
4	グループセッション②	リサーチ課題確認
5	グループセッション③	リサーチ課題確認
6	報告会	インターンシップの報告
7	修了レポート書き方	レポート作成・発表準備①
8	構想報告①	レポート作成②
9	構想報告②	レポート作成③
10	構想報告③	レポート作成④
11	構想報告④	レポート作成⑤
12	ボランティアマネジメント総論②	
13	レポート構想報告会	
14	レポート報告会①	
15	レポート報告会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア活動支援演習 GE S 特殊講義 (自由選択) I (VT活動支援演習) TE

16757

担当者名 / Instructor 奥村 昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に着けることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	各グループで振り返り	
2	リサーチ課題設定、発表準備	
3	グループセッション①	リサーチ課題確認
4	グループセッション②	リサーチ課題確認
5	グループセッション③	リサーチ課題確認
6	報告会	インターンシップの報告
7	修了レポート書き方	レポート作成・発表準備①
8	構想報告①	レポート作成②
9	構想報告②	レポート作成③
10	構想報告③	レポート作成④
11	構想報告④	レポート作成⑤
12	ボランティアマネジメント総論②	
13	レポート構想報告会	
14	レポート報告会①	
15	レポート報告会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア情報・調査演習 GA S 特殊講義 (自由選択) I (VT情報・調査演習) TA

16735

担当者名 / Instructor 赤澤 清孝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動をおとしてコーディネーターの役割について理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介等
2～4	インターンシップの目標設定	
5～9	インターンシップ先の調査	
10～14	インターンシップ計画書の作成	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点 (日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア情報・調査演習 GB S 特殊講義 (自由選択) I (VT情報・調査演習) TB

16737

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動をおしてコーディネーターの役割について理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介等
2～4	インターンシップの目標設定	
5～9	インターンシップ先の調査	
10～14	インターンシップ計画書の作成	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点 (日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア情報・調査演習 GC S 特殊講義 (自由選択) I (VT情報・調査演習) TC

16739

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動とおしてコーディネーターの役割について理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	開会式、オリエンテーション
2	ワークショップ①	ボランティアとコーディネーターの役割
3	ワークショップ②	演習の進め方
4	意見交換	スタッフと受講生、受講生間の問題意識の交換と共有
5	レポート課題の発表①	
6	レポート課題の発表②	
7	レポート課題の発表③	
8	インターンシップ各論①	ゲストスピーカーとの質疑応答
9	インターンシップ各論②	ゲストスピーカーとの質疑応答
10	インターンシップ各論③	ゲストスピーカーとの質疑応答
11	レポート課題の発表④	
12	インターンシップの準備	OBの体験談、注意事項、計画の作成
13	インターンシップ先の情報収集①	グループワーク
14	インターンシップ先の情報収集②	グループと個人目標設定、プレゼン準備
15	まとめ	発表会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点 (日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア情報・調査演習 GD S 特殊講義 (自由選択) I (VT情報・調査演習) TD

16741

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動とおしてコーディネーターの役割について理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	開会式, オリエンテーション
2	ワークショップ①	ボランティアとコーディネーターの役割
3	ワークショップ②	演習の進め方
4	意見交換	スタッフと受講生, 受講生間の問題意識の交換と共有
5	レポート課題の発表①	
6	レポート課題の発表②	
7	レポート課題の発表③	
8	インターンシップ各論①	ゲストスピーカーとの質疑応答
9	インターンシップ各論②	ゲストスピーカーとの質疑応答
10	インターンシップ各論③	ゲストスピーカーとの質疑応答
11	レポート課題の発表④	
12	インターンシップの準備	OBの体験談、注意事項、計画の作成
13	インターンシップ先の情報収集①	グループワーク
14	インターンシップ先の情報収集②	グループと個人目標設定、プレゼン準備
15	まとめ	発表会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) ボランティア情報・調査演習 GE S 特殊講義 (自由選択) I (VT情報・調査演習) TE

16743

担当者名 / Instructor 奥村 昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動とおしてコーディネーターの役割について理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	開会式、オリエンテーション
2	ワークショップ①	ボランティアとコーディネーターの役割
3	ワークショップ②	演習の進め方
4	意見交換	スタッフと受講生、受講生間の問題意識の交換と共有
5	レポート課題の発表①	
6	レポート課題の発表②	
7	レポート課題の発表③	
8	インターンシップ各論①	ゲストスピーカーとの質疑応答
9	インターンシップ各論②	ゲストスピーカーとの質疑応答
10	インターンシップ各論③	ゲストスピーカーとの質疑応答
11	レポート課題の発表④	
12	インターンシップの準備	OBの体験談、注意事項、計画の作成
13	インターンシップ先の情報収集①	グループワーク
14	インターンシップ先の情報収集②	グループと個人目標設定、プレゼン準備
15	まとめ	発表会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) 社会とボランティア GA S 特殊講義 (自由選択) I (社会とVT) TA

16731

担当者名 / Instructor 赤澤 清孝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア情報・調査演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動の実態と動向、社会的な意義と課題、そしてボランティアコーディネーターの役割と実践のあり方について学ぶ。また、国や自治体などの政策動向等の社会状況を踏まえたうえで、ボランティア活動の固有性について考えるとともに、求められるボランティアコーディネーター像を検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	開講式、オリエンテーション
2	ボランティア概論(1)	ボランティア活動の現在
3	ボランティア概論(2)	ボランティアイメージの国際比較
4	ボランティア概論(3)	VCTP修了生の活動
5	ボランティア概論(4)	ボランティアと地域社会
6	ボランティアコーディネーションの基礎(1)	ボランティアコーディネーション概論
7	ボランティアコーディネーションの基礎(2)	個別援助の知識・技術・倫理 (1)
8	ボランティアコーディネーションの基礎(3)	個別援助の知識・技術・倫理 (2)
9	ボランティアコーディネーションの基礎(4)	グループの運営と支援 (1)
10	ボランティアコーディネーションの基礎(5)	グループの運営と支援 (2)
11	ボランティア活動の開始(1)	ボランティア活動のプランニング (1)
12	ボランティア活動の開始(2)	ボランティア活動のプランニング (2)
13	ボランティア活動の開始(3)	ボランティア募集の方法 (1) 情報発信
14	ボランティア活動の開始(4)	ボランティア募集の方法 (2) ボランティアのリクルート
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席、授業への積極性、レポート課題の提出等を加味して判断

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボランティアマネジメント	桜井政成／ミネルヴァ書房／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

(共) 社会とボランティア GB S 特殊講義 (自由選択) I (社会とVT) TB

16733

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則, 吉田 真

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア情報・調査演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動の実態と動向、社会的意義と課題、そしてボランティアコーディネーターの役割と実践のあり方について学ぶ。また、国や自治体などの政策動向等の社会状況を踏まえたうえで、ボランティア活動の固有性について考えるとともに、求められるボランティアコーディネーター像を検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア (前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ (夏期集中)
- (4)ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	開講式、オリエンテーション
2	ボランティアと社会①	ボランティアとコーディネーターの役割
3	ボランティアと社会②	NPO・市民活動の広がり
4	意見交換	スタッフと受講生、受講生間の問題意識の交換と共有
5	ボランティア活動の広がり①	福祉
6	ボランティア活動の広がり②	環境
7	ボランティア・コーディネート概論	役割と機能
8	インターンシップ各論①	インターンシップの概要
9	インターンシップ各論②	インターンシップの概要
10	インターンシップ各論③	インターンシップの概要
11	コーディネーション・スキル①	マネジメント技術
12	コーディネーション・スキル②	ファシリテーション
13	先進的経験に学ぶ①	社会福祉協議会
14	先進的経験に学ぶ②	NPO
15	まとめ	発表会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席、授業への積極性、レポート課題の提出等を加味して判断

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基本民法 (民法入門・債権各論) JA § 基本民法 (民法入門・債権各論) GA

16673

担当者名 / Instructor 二宮 周平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、1回生が入学後にはじめて履修する専門科目であり、かつ、全部で18単位ある民法科目のうちの最初の科目でもある。日常生活で直面する法律問題 (契約や事故など) を素材に、民法の基本的な諸制度について学んでいく。講義の範囲は、民法典第3編債権のうち、第1章 (総則) を除いた部分 (第2章契約、第3章事務管理、第4章不当利得、第5章不法行為) のほか、民法入門 (民法の意義・歴史、判例や学説の意義、民法典の全体像など) である (なお、第1章にある「債務不履行」も含む)。

民法は、私法 (市民と市民間の法律関係を規律する法) の一般法 (原則となる法) であるといわれる。それだけに本講義で習得する内容は、他の科目の理解にも必要であることが多い。90分の授業が2コマ連続するため、1日の授業で進む量は、かなり多いものと覚悟してほしい。したがって、担当教員の指示に従い、予習や復習をしっかりと行うことが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 民法の基本的な思考方法を身につける。
- ② 民法典に用意された諸制度について、大まかに理解する。
- ③ 教科書や判例など、長文の法律文献を読む習慣を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにないが、「法学入門」で扱われる内容は、「基本民法」の理解にも資するものと思われる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	民法入門①	民法の意義、歴史、法源、判例の読み方
第2回	民法典の全体像①	物の売買
第3回	民法典の全体像②	土地の取引
第4回	民法典の全体像③	お金の貸し借り
第5回	民法典の全体像④	日常生活と法
第6回	契約法入門	契約の流れと契約類型
第7回	契約の主体	権利能力、行為能力、法人、代理、民法の基本原則
第8回	契約の成立①	申込みと承諾、申込みの誘引
第9回	契約の成立②	到達主義、発信主義
第10回	契約の成立③	法律行為、クーリング・オフ
第11回	契約の成立④	不当利得、手付け
第12回	契約の効力①	同時履行の抗弁権
第13回	契約の効力②	危険負担、第三者のためにする契約
第14回	契約の不履行①	債務不履行の要件
第15回	契約の不履行②	債務不履行の効果
第16回	契約の不履行③	契約締結上の過失
第17回	契約の不履行④	契約の解除
第18回	契約の不履行⑤	売主の担保責任
第19回	契約の不履行⑥	欠陥住宅の問題
第20回	答案の書き方	演習＋解説
第21回	契約各論①	賃貸借 (その1)
第22回	契約各論②	賃貸借 (その2)
第23回	不法行為①	一般的不法行為の要件 (その1)
第24回	不法行為②	一般的不法行為の要件 (その2)
第25回	不法行為③	一般的不法行為の要件 (その3)
第26回	不法行為④	一般的不法行為の要件 (その4)
第27回	不法行為⑤	不法行為の効果 (過失相殺、期間制限など)
第28回	不法行為⑥	特殊の不法行為 (その1)
第29回	不法行為⑦	特殊の不法行為 (その2)
第30回	不法行為⑧	特別法上の不法行為 (国賠法、自賠法、製造物責任法)

具体的な学習方法については授業中に指示するが、基本的には、指定された教科書を何度も繰り返し読むことを勧める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメを配布する。なお、講義には、コンパクトなサイズのものでよいため、必ず六法を持参されたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
契約法講義 (第2版)	後藤巻則 / 弘文堂 / /
不法行為法 (第3版)	吉村良一 / 有斐閣 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
契約法講義	加賀山茂 / 日本評論社 / /
新・キーワード民法	中田邦博＝高橋英弘 / 法律文化社 / /
民法判例百選Ⅱ (第五版 新法対応補正版)	星野英一ほか / / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基本民法 (民法入門・債権各論) JB S 基本民法 (民法入門・債権各論) GB

16674

担当者名 / Instructor 山田 希

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、1回生が入学後にはじめて履修する専門科目であり、かつ、全部で18単位ある民法科目のうちの最初の科目でもある。日常生活で直面する法律問題 (契約や事故など) を素材に、民法の基本的な諸制度について学んでいく。講義の範囲は、民法典第3編債権のうち、第1章 (総則) を除いた部分 (第2章契約、第3章事務管理、第4章不当利得、第5章不法行為) のほか、民法入門 (民法の意義・歴史、判例や学説の意義、民法典の全体像など) である (なお、第1章にある「債務不履行」も含む)。

民法は、私法 (市民と市民の間の法律関係を規律する法) の一般法 (原則となる法) であるといわれる。それだけに本講義で習得する内容は、他の科目の理解にも必要であることが多い。90分の授業が2コマ連続するため、1日の授業で進む量は、かなり多いものと覚悟してほしい。したがって、担当教員の指示に従い、予習や復習をしっかりと行うことが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 民法の基本的な思考方法を身につける。
- ② 民法典に用意された諸制度について、大まかに理解する。
- ③ 教科書や判例など、長文の法律文献を読む習慣を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにないが、「法学入門」で扱われる内容は、「基本民法」の理解にも資するものと思われる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	民法入門①	民法の意義、歴史、法源、判例の読み方
第2回	民法典の全体像①	物の売買
第3回	民法典の全体像②	土地の取引
第4回	民法典の全体像③	お金の貸し借り
第5回	民法典の全体像④	日常生活と法
第6回	契約法入門	契約の流れと契約類型
第7回	契約の主体	権利能力、行為能力、法人、代理、民法の基本原則
第8回	契約の成立①	申込みと承諾、申込みの誘引
第9回	契約の成立②	到達主義、発信主義
第10回	契約の成立③	法律行為、クーリング・オフ
第11回	契約の成立④	不当利得、手付け
第12回	契約の効力①	同時履行の抗弁権
第13回	契約の効力②	危険負担、第三者のためにする契約
第14回	契約の不履行①	債務不履行の要件
第15回	契約の不履行②	債務不履行の効果
第16回	契約の不履行③	契約締結上の過失
第17回	契約の不履行④	契約の解除
第18回	契約の不履行⑤	売主の担保責任
第19回	契約の不履行⑥	欠陥住宅の問題
第20回	答案の書き方	演習＋解説
第21回	契約各論①	賃貸借 (その1)
第22回	契約各論②	賃貸借 (その2)
第23回	不法行為①	一般的不法行為の要件 (その1)
第24回	不法行為②	一般的不法行為の要件 (その2)
第25回	不法行為③	一般的不法行為の要件 (その3)
第26回	不法行為④	一般的不法行為の要件 (その4)
第27回	不法行為⑤	不法行為の効果 (過失相殺、期間制限など)
第28回	不法行為⑥	特殊の不法行為 (その1)
第29回	不法行為⑦	特殊の不法行為 (その2)
第30回	不法行為⑧	特別法上の不法行為 (国賠法、自賠法、製造物責任法)

具体的な学習方法については授業中に指示するが、基本的には、指定された教科書を何度も繰り返し読むことを勧める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメを配布する。なお、講義には、コンパクトなサイズのものでよいため、必ず六法を持参されたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
契約法講義 [第2版]	後藤巻則 / 弘文堂 / /
不法行為法 [第3版]	吉村良一 / 有斐閣 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
契約法講義	加賀山茂 / 日本評論社 / /
新・キーワード民法	中田邦博＝高橋英弘 / 法律文化社 / /
民法判例百選Ⅱ [第五版 新法対応補正版]	星野英一ほか / / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基本民法 (民法入門・債権各論) JC § 基本民法 (民法入門・債権各論) GC

16675

担当者名 / Instructor 石橋 秀起

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

民法全体の序論と、民法財産法のうち債権各論に関する法制度の概説。

到達目標 / Attainment Objectives

民法上のルールのうち、とりわけ契約当事者間の権利義務関係 (契約法) と事故当事者間の権利義務関係 (不法行為法) に関するものを中心に、その基本的知識を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス (受講上の注意等) / 【第1部 民法入門 ①】 I. 民法とは何か (民法の法源)	
第2回	【第1部 民法入門②】 II. 民法典について (歴史と条文構成について) III. 民法の基本原理	
第3回	【第1部 民法入門③】 IV. 日常生活と民法 (1) 物の売買をめぐる法制度 (2当事者間に生じる様々な問題)	
第4回	【第1部 民法入門④】 IV. 日常生活と民法 (2) 物の売買をめぐる法制度 (2当事者間に生じる様々な問題)	
第5回	【第1部 民法入門⑤】 IV. 日常生活と民法 (3) 物の売買をめぐる法制度 (静的安全と動的安全)	
第6回	【第1部 民法入門⑥】 IV. 日常生活と民法 (4) 金銭の貸し借りをめぐる法制度	
第7回	【第1部 民法入門⑦】 V. 「債権各論」を学ぶにあたって	
第8回	【第2部 契約法①】 I. 契約の成立 申込みと承諾	
第9回	【第2部 契約法②】 II. 契約の効力 (1) 同時履行の抗弁権・危険負担	
第10回	【第2部 契約法③】 II. 契約の効力 (2) 危険負担 (つづき)・第三者のためにする契約	
第11回	【第2部 契約法④】 III. 契約の不履行 (1) 債務不履行に基づく損害賠償責任	
第12回	【第2部 契約法⑤】 III. 契約の不履行 (2) 債務不履行に基づく損害賠償責任	
第13回	【第2部 契約法⑥】 III. 契約の不履行 (3) 契約解除	
第14回	【第2部 契約法⑦】 III. 契約の不履行 (4) 契約解除	
第15回	【第2部 契約法⑧】 III. 契約の不履行 (5) 売買契約上の担保責任	
第16回	【第2部 契約法⑨】 III. 契約の不履行 (6) 売買契約上の担保責任	
第17回	答案の書き方 模擬問題の出題と解説	
第18回	【第2部 契約法⑩】 IV. 賃貸借契約	
第19回	【第2部 契約法⑪】 IV. 賃貸借契約	
第20回	【第3部 不法行為法①】 I. 不法行為法序論	
第21回	【第3部 不法行為法②】 II. 一般的不法行為の要件 (1) 違法性・故意または過失	
第22回	【第3部 不法行為法③】 II. 一般的不法行為の要件 (2) 損害の発生・因果関係	
第23回	【第3部 不法行為法④】 II. 一般的不法行為の要件 (3) 不法行為責任を阻却する事由	

第24回	【第3部 不法行為法⑤】 III. 不法行為の効果(1) 生命侵害における賠償請求権者・賠償範囲の画定
第25回	【第3部 不法行為法⑥】 III. 不法行為の効果(2) 損害額の算定・過失相殺
第26回	【第3部 不法行為法⑦】 III. 不法行為の効果(3) 賠償請求権の行使期間 IV. 特殊の不法行為(1) 使用者責任
第27回	【第3部 不法行為法⑧】 IV. 特殊の不法行為(2) 土地工作物責任・自動車損害賠償保障法
第28回	【第3部 不法行為法⑨】 IV. 特殊の不法行為(3) 動物占有者の責任・共同不法行為責任
第29回	【第4部 不当利得法】 要件と効果・給付利得と侵害利得
第30回	【第5部 事務管理法】 管理者と「本人」との間の様々な債権債務関係

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
後藤巻則	契約法講義 [第2版] / 弘文堂 / /
吉村良一	不法行為法 [第3版] / 有斐閣 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
契約法講義	加賀山茂 / 日本評論社 / /
新・キーワード民法	中田邦博・高畠英弘 / 法律文化社 / /
民法判例百選 II [第五版 新法対応補正版]	星野英一・平井宜雄・能見善久 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

経済原論I J S 経済原論I G

10670

担当者名 / Instructor 西村 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

米国が主張するグローバル・スタンダードは、自由な市場取引と市場開放です。そこで、最初に、市場取引の成果を測る"ものさし"の一つである「余剰」の概念を紹介します。そして、競争市場の成果と問題点を概観しながら、ミクロ経済学の基礎的な知識（需要曲線・供給曲線、消費者行動、生産者行動、市場の役割と失敗等）を説明していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・留保価格と市場価格の関連、および、需要曲線と供給曲線の経済的な意味を理解する。
- ・消費者余剰、生産者余剰および総余剰の概念と、その意味を理解する。
- ・競争的な市場取引についての評価とその限界を理解する。
- ・競争的な市場と非競争的な市場における生産者行動の違いを理解する。
- ・市場主義についてのメリットやデメリットについて論理的な考え方ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1～3回目	市場取引の成果を測る方法についての紹介。	消費者余剰、生産者余剰および総余剰の意味。競争取引と相対取引がもたらす総余剰の違い。
第4～5回目	市場が不均衡の場合の調整。数量割当や価格規制などの経済規制がもたらす総余剰への影響。	価格調整と非価格調整の違いと総余剰への影響。消費税の実質負担と課税による社会的損失の発生。
第6～8回目	可変費用、固定費用、限界収入、限界利潤、限界費用などの内容説明。	競争企業の合理的行動と利潤最大の条件。
第9～11回目	独占企業の利潤最大化行動と独占価格の設定。独占市場の弊害を測るラーナーの独占度。	限界費用原理、独立採算制および二部料金制に基づく公共料金の設定と総余剰との関連。
第12～14回目	ゲームの理論の紹介。	複占市場の企業行動とクールノー競争およびベルトラン競争の相違。
第15回目	競争市場が効率的な資源配分を実現する取引であることの確認。	競争市場が機能しない場合の公共料金や公共政策の存在意義。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特にありません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	講義の理解度を深める一助として、不定期に宿題を課します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

経済学は論理的な学問です。ミクロ経済学の知識は全講義で完結します。したがって、毎回講義に出席することが大切です。それから、講義のスタイルは、グラフや記号を多用した形式になります。受講生は、このようなスタイルに抵抗を抱かないことを願います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
インタラクティブ・エコノミクス	篠原総一・西村理・平山健二郎／有斐閣／ISBN4-641-16140-2／
教科書でカバーできない箇所は、資料をその都度配布します。	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

経済原論Ⅱ J S 経済原論Ⅱ G

10771

担当者名 / Instructor 西村 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在の日本経済を概観しながら、マクロ経済学の基礎的な知識（国民経済の枠組み、国民所得決定理論、マネーサプライと信用創造、失業と需要管理政策、労働市場の特徴等）を紹介していきます。そして、国内総生産（GDP）決定の均衡分析を説明します。さらに、金融政策や財政政策の役割についても説明します。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・マクロ経済の基本的な概念についての用語を知る。
- ・マクロ経済の循環と生産物市場・労働市場・金融市場の関連について理解する。
- ・均衡GDPの決定とその要因について理解する。
- ・主要な一般新聞に掲載される経済記事のアウトラインを理解できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「経済原論Ⅰ」を履修することが望ましいです。履修できない場合、指定参考書の第Ⅱ編「ミクロ経済学」の第1～3章および第6～10章を読んで受講すると、「経済原論Ⅱ」の講義内容が理解しやすくなります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1～2回目	国民所得統計から見た日本経済のスケール。	GDPの定義、名目値と実質値の違い、成長率と総合物価変化率との関係。
第3～5回目	マクロ経済の枠組み（需要サイドと供給サイドの両面から）についての説明。	国内総支出の構成項目の説明。成長率と内需寄与度・外需寄与度の関係。経済循環図からみた三面等価。
第6～7回目	総需要関数の決定要因についての説明。	消費関数とその説明変数。投資関数とその説明変数。投資の金利非対称性と投資の二面性についての説明。
第8～10回目	GDP決定の均衡分析および乗数効果について。	貨幣の需要関数とI-S曲線およびL-M曲線の意味。
第11～12回目	財政・金融政策の効果と流動性の罫における政策効果。	輸出入関数と為替相場の動き。
第13～14回目	日本の労働市場の特徴について。	少子高齢社会と経済のグローバル化による日本型雇用への影響。
第15回目	マクロ経済全体の枠組みとその構成項目の理解。	インフレ（デフレ）や失業者の発生メカニズムと財政・金融政策の役割についての理解。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	講義の理解度を深める一助として、不定期に宿題を課します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

経済学は論理的な学問です。マクロ経済学の知識は全講義で完結します。したがって、毎回講義に出席することが大切です。それから、講義のスタイルは、グラフや記号を多用した形式になります。受講生は、このようなスタイルに抵抗を抱かないことを願います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アウトLOOK日本経済 (仮題)	西村理・加藤一誠／萌書房／／近刊予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
インタラクティブ・エコノミクス	篠原総一・西村理・平山健二郎／有斐閣／ISBN4-641-16140-2／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

憲法I JA § 憲法I GA

16661

担当者名 / Instructor 倉田 玲

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本国憲法は「基本的人権」(第11条／第97条)を保障している「国の最高法規」(第98条第1項)です。ひとりひとりが「法の下に平等」(第14条第1項)な「個人として尊重される」(第13条)ために、「そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する」という「人類普遍の原理」(前文)に基づいて、権利の保障が規定され、権力の限界が設定されています。

この授業では、日本国憲法の存在理由(前文／第10章「最高法規」)を踏まえ、その基本原理である国民主権／平和主義／人権保障の分野(前文／第1章「天皇」／第2章「戦争の放棄」／第3章「国民の権利及び義務」)の諸問題を解説します。とくに人権保障の分野については、重要な憲法判例の紹介を多く交えて重点的に解説します。ひとつひとつの論点について基本原理の相互関係を検討してもらい、全体を通じて日本国憲法に基づく権利と権力の基本的な関係を把握してもらうことを主眼として、講義の形式で授業を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

日本国憲法の基本原理(国民主権／平和主義／人権保障)について、基礎的な学識を修得してもらうこと。もう少し具体的には、講義のなかで解説する学説や判例について批判的に検討してもらい、それを通じて修得された学識を論理的な文章で説明できる程度に、日本国憲法を使いこなせるようになってもらうこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

法学入門が実質的にも履修済であることが望まれますが、形式的にも未履修である場合などは、参考文献を意欲的に活用して補うようにしてください。また、法学フロンティア(憲法の歴史)を並行して履修するとよいでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	最高法規(日本国憲法第10章)	憲法の歴史／憲法の分類
2	天皇(日本国憲法第1章)	国民主権の原理
3	戦争の放棄(日本国憲法第2章)	平和主義の原理
4	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	人権保障の原理
5	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	幸福追求権／公共の福祉
6	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	法の下に平等
7	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	精神の自由
8	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	精神の自由
9	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	精神の自由
10	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	精神の自由
11	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	経済的自由
12	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	経済的自由
13	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	人身の自由
14	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	社会権
15	国民の権利及び義務(日本国憲法第3章)	社会権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で扱う内容に関連した報道などには留意しておいてください。授業を欠席した場合は、コースツール(WebCT)を利用して講義資料を入手し、任意の参考文献を活用して補うようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	応用力をともなった学識の定着を確認するため、定期試験期間中に筆記試験を実施します。定期試験の出題には、日本国憲法に基づく論述を求める設問を用います。
平常点(日常的)	20 %	重要な事項に関する知識と理解を確認するため、授業時間中に小テストを実施します。小テストの出題では、多肢選択式(択一式)などの短答式の設問を用います。

この科目の成績評価は、定期試験の得点に小テストの得点を加算した合計点に基づき、厳正におこないます。なお、通常の授業時間中に実施する小テストについては、原則として持ち込み自由としますが、定期試験については、法学部において2008年度後期の定期試験への持ち込みが許可される種類および状態の六法のみを持ち込み許可物件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

効果的な学習のために、効率的な復習を心がけてください。なお、日本国憲法に基づいて保障されるべき「学問の自由」(第23条)を、自分の権利としても、他人の権利としても、大切にしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。独自に作成して配付する資料をもとに各回の講義をおこないます。聴講による学習を補うには基本書(体系書／概説書)などが必要ですが、これについては各自で用意して任意の予習や復習に役立ててください。なお、受講に際しては、適当な六法を携行してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法 (第4版)	芦部信喜 (著)・高橋和之 (補訂) / 岩波書店 / 4000227643 / 定評あるオーソドックスな概説書
憲法の本	浦部法穂 (著) / 共栄書房 / 476341030X / 読みやすいコンサイスな入門書
憲法1人権 (第3版)	渋谷秀樹・赤坂正浩 (著) / 有斐閣 / 4641123083 / 使いやすいコンパクトな概説書

初回の講義時に以上の3点を含めた参考文献のリストを配付します。また、必要に応じて、講義中に参考文献を紹介することがあります。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- (1) www.asaho.com
水島朝穂氏による
「平和憲法のメッセージ」
- (2) www.jiclj.jp
法学館憲法研究所
- (3) www.ndl.go.jp/constitution/
国立国会図書館による
「日本国憲法の誕生」

その他 / Others

憲法I JB § 憲法I GB

16665

担当者名 / Instructor 倉田 原志

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本国憲法にかかわる議論としては、基本原理、基本的人権、統治機構に大きく分類することができるが、この講義では、そのなかの基本原理と基本的人権を取り扱う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・憲法の基本原理・人権保障にかかわる概念や基本問題を幅広く理解できる。
- ・現実の憲法問題について、判断を下せる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	憲法とは何か	法の支配、立憲主義
第2週	日本憲法史	明治憲法、マッカーサー・ノート、八月革命説
第3週	国民主権 - 日本国憲法の基本原理 (1)	主権、象徴天皇制
第4～5週	平和主義 - 日本国憲法の基本原理 (2)	自衛権、安保条約、平和的生存権
第6～8週	基本的人権総論 - 日本国憲法の基本原理 (3)	人権の観念、人権の享有主体、特別権力関係、私人間効力
第9週	包括的基本権	幸福追求権、プライバシーの権利
第10週	法の下での平等	相対的平等、14条1項後段列挙事由
第11週	内心の自由 - 精神的自由権 (1)	思想・良心、政教分離、学問の自由
第12週	表現の自由 - 精神的自由権 (2)	二重の基準、事前抑制、報道の自由、わいせつ、集会の自由
第13週	経済的自由	規制目的二分論、財産権
第14週	社会権	生存権、環境権、教育を受ける権利、労働基本権
第15週	人身の自由	適正手続
第15週	国務請求権	請願、裁判を受ける権利、国家賠償
第15週	参政権	選挙権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回、予習として、教科書の当該箇所を読んでおくことをすすめます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	86 %	授業内容を理解しているかどうかを評価する。
平常点(日常的)	14 %	授業内容の理解度を確認する小テストを実施する。

小テストの内容・方法・時期については、開講後1か月以内には確定し、講義で説明する予定です。その他、レジュメ、Web-CTなどでも連絡します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日頃から新聞などを読み、憲法をめぐる動きについて、注意をはらっていただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『憲法 (第4版)』	芦部信喜・高橋和之補訂／岩波書店／／毎回、参照しながら講義する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『憲法判例百選 (第5版) I』	高橋和之ほか編／有斐閣／／
『憲法判例百選 (第5版) II』	高橋和之ほか編／有斐閣／／
『憲法判例 (第5版)』	戸松秀典・初宿正典編著／有斐閣／／

その他は、開講時および講義の中で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

憲法I JC § 憲法I GC

16663

担当者名 / Instructor 多田 一路

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この講義では、憲法一般及び日本国憲法の基本原理(国民主権、平和主義)と、基本的人権について扱います。意外に思うかもしれませんが、「人権」という言葉は、しばしば矮小化されて使用されています。この矮小化された「人権」概念の呪縛を解きほぐし、憲法の基本理念に即した法学的人権理解の手助けとなるような講義を意識的に追求します。

到達目標 / Attainment Objectives

憲法原理および基本的人権に関する基本的な論点を把握し理解することを目標とします。当然ですが、理解とは、その問題について、論理的に説明ないし表現できるということです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

法学入門

並行履修が望ましい科目として、基本民法、戦後日本政治史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	憲法 の 概念 と 立憲主義	形式的意味、実質的意味、憲法規範の特徴、憲法の類型
2	近代市民憲法の成立(1)	明治憲法、自由民権運動、外見的立憲主義
3	近代市民憲法の成立(2)	日本国憲法の制定、近代立憲主義、憲法の運用
4	国民主権	主権、国民主権の二面性、国民主権の性格
5	国民主権の下での象徴天皇制	天皇の地位、天皇の行為
6,7	平和主義(1)(2)	戦争の違法化、自衛権、戦力不保持
8	基本的人権総論(1) 人権の展開	権力に対抗する権利、立法権に対抗する権利、社会的権利、第三世代の人権
9	基本的人権総論(2) 人権の概念、人権の保障、人権の類型論	基本的人権の意義、人権を保障する主体、裁判的救済
10	基本的人権総論(3) 人権の主体	未成年者の人権、外国人の人権、法人の人権
11,12	基本的人権総論(4) 人権の制約	公共の福祉、内在的制約
13	基本的人権総論(5) 人権が妥当する範囲	公務員の人権、在監者の人権、私人間における人権保障
14,15	包括的権利(1)(2)	幸福追求権、人格的権利、名誉権、プライバシー権、自己決定権
16	平等	形式的平等、実質的平等、アファーマティブ・アクション、合理的差別、裁判における審査
17	思想良心の自由、信教の自由(1)	内心の自由、沈黙の自由、信教の自由
18	信教の自由(2)、学問の自由	政教分離原則、教育の自由、教育権、大学の自治
19~21	表現の自由(1)(2)(3)	表現の自由を保障する意義、知る権利、表現の自由に対する規制
22	職業選択の自由、居住・移転の自由	営業の自由、規制目的、居住・移転の自由の性質
23	財産権	財産権保障の意味、公用収用、損失補償
24,25	人身の自由と適正手続の保障(1)(2)	適正手続主義、罪刑法定主義、被疑者の権利、刑事被告人の権利
26	社会権の意義と生存権	生存権の法的性格、環境権
27	教育を受ける権利と労働に関する権利	教育の機会均等、学習権、勤労権、労働基本権
28	国務請求権	裁判を受ける権利、国家賠償請求権
29,30	参政権	請願権、選挙権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・講義はそのアウトラインをプラズマディスプレイで提示しながら進めます。アウトラインのファイルはwebCTに置いておくので、必要ならば事前にプリントアウトしてもかまいません。
- ・webCT上で小テストを課します。この小テストは、教室で一斉に行うものではなく、オンデマンドで一定の期間内に行うものです。詳細は、講義で説明します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記)	70 %	基本的な論点について、論理的に表現できているかを評価します。
平常点(日常的)	30 %	小テストを、webCT上で、講義時間外に数回行います。

webCT上で的小テストを上記のように成績に反映させますから、各自、webCTの利用について習得しておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小テストをコツコツ取り組んだ者が、期末試験で好成績を挙げています。

また、小テストの解説を、講義中で行う予定ですので、出席するほうがトクです。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。自宅学習等については、体系書・概説書を利用してください。体系書・概説書は、参考書の欄で例示します。いうまでもないことですが、六法は必携です。

参考書 / Reference Books書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

憲法 (第四版)	芦部信喜 高橋和之補訂／岩波書店／／
憲法学教室 (全訂第2版)	浦部法穂／日本評論社／／
憲法 (第三版)	佐藤幸治／青林書院／／
憲法 (第2版)	辻村みよ子／日本評論社／／
憲法Ⅰ・Ⅱ (第4版)	野中、中村、高橋、高見／有斐閣／／

上記は、あくまで例示であり、この他にも、体系書・概説書は多数。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

市民と憲法研究者をむすぶ憲法問題Web <http://www.jca.apc.org/~kenpoweb/>

法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp/>

その他 / Others

憲法Ⅱ JA S 憲法Ⅱ GA

14158

担当者名 / Instructor 中島 茂樹

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、憲法Ⅰで扱われた人権保障理論を前提として、国民主権と政治制度というテーマのもとに統治機構にかんする諸問題を扱う。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会における国家の諸活動はかつて見られなかったほどに肥大化し、国民の社会・経済生活とのかかわり、したがってまた、国民の権利・自由とのかかわりも著しく複雑・多様な様相を示している。この憲法Ⅱでは、国民主権原理を基軸とし、人権保障の手段としての統治機構という観点から、歴史的な視点と比較憲法的な視点をふまえて、現実政治を洞察できる能力を獲得することを目標としたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国民主権と国民代表制度	国民主権と代表の概念、国民代表制
2	国民主権と選挙制度・政党	国民主権と選挙制度、政党の憲法上の位置、政治資金の規制と政党への公的助成
3	権力分立の原理	近代憲法の権力分立制、権力分立制の現代の変容
4	国会(1)	国会の地位
5	国会(2)	国会議員の地位と権能、国会と議院の権能
6	内閣(1)	行政権と内閣、内閣の組織と権能
7	内閣(2)	議院内閣制、衆議院の解散
8	裁判所	司法権の意味と範囲、裁判所の組織と権能、司法権の独立
9	憲法訴訟(1)	違憲審査制の意義と類型
10	憲法訴訟(2)	違憲審査権の対象と方法
11	憲法訴訟(3)	違憲審査の基準、違憲判決の効力
12	財政	財政民主主義と租税法律主義、予算制度
13	地方自治(1)	地方自治の本旨、地方公共団体の機関
14	地方自治(2)	条例制定権の範囲と限界
15	まとめ——統治機構の基本原理解	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義の際に適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

筆記試験: 定期試験として実施

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記のテキストを用いるほか、レジュメを適宜配布する。受講者を指名して応答を求めるほか、小テストを実施することもある。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法 第4版	芦部 信喜／岩波書店／／

レジュメを適宜配布するので、その他の概説書を所有している者は、当該概説書でも差し支えない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国の各省庁のホームページ等を参照

その他 / Others

憲法II JB S 憲法II GB

14157

担当者名 / Instructor 倉田 玲

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本国憲法は「基本的人権」(第11条／第97条)を保障している「国の最高法規」(第98条第1項)です。ひとりひとりが「法の下に平等」(第14条第1項)な「個人として尊重される」(第13条)ために、「そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する」という「人類普遍の原理」(前文)に基づいて、権利の保障が規定され、権力の限界が設定されています。

この授業では、日本国憲法による権力の構成と抑制の両面に着目して、統治の分野(第4章「国会」／第5章「内閣」／第6章「司法」／第7章「財政」／第8章「地方自治」／第9章「改正」／第10章「最高法規」)の諸問題を解説します。ひとつひとつの論点について統治の基本原理の双璧をなしている権力分立と国民主権の関係を考察してもらい、全体を通じて日本国憲法に基づく権利と権力の関係を憲法とは別の視角から再検討してもらうことを主眼として、講義の形式で授業を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

日本国憲法の基本原理と全体構造をふまえながら、日本国憲法に基づく権力の限界の設定について理解してもらうこと。もう少し具体的には、講義のなかで解説する統治の分野の学説や判例について批判的に検討してもらい、それを通じて修得された学識を論理的な文章で説明できる程度に、日本国憲法を使いこなせるようになってもらうこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法Iが実質的にも履修済であることが望まれますが、形式的にも未履修である場合などは、参考文献を意欲的に活用して補うようにしてください。また、憲法の歴史が履修済であることも望ましいでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	権力分立(統治の基本原則)	権利と権力／抑制と均衡
2	国民主権(統治の基本原則)	正当性の契機／権力性の契機
3	代表	代表の概念
4	選挙	選挙区／代表法
5	国会(日本国憲法第4章)	国会の地位
6	国会(日本国憲法第4章)	議院の権限
7	国会(日本国憲法第4章)	議員の特権
8	内閣(日本国憲法第5章)	内閣の構成
9	内閣(日本国憲法第5章)	議院内閣制
10	司法(日本国憲法第6章)	司法権の意義
11	司法(日本国憲法第6章)	裁判所の構成
12	司法(日本国憲法第6章)	裁判官の身分
13	財政(日本国憲法第7章)	財政立憲主義／財政民主主義
14	地方自治(日本国憲法第8章)	団体自治／住民自治
15	改正(日本国憲法第9章)／最高法規(日本国憲法第10章)	憲法保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で扱う内容に関連した報道などには留意しておいてください。授業を欠席した場合は、コースツール(WebCT)を利用して講義資料を入手し、任意の参考文献を活用して補うようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	応用力をともなった学識の定着を確認するため、定期試験期間中に筆記試験を実施します。定期試験の出題には、日本国憲法に基づく論述を求める設問を用います。
平常点(日常的)	20 %	重要な事項に関する知識と理解を確認するため、授業時間中に小テストを実施します。小テストの出題では、多肢選択式(択一式)などの短答式の設問を用います。

この科目の成績評価は、定期試験の得点に小テストの得点を加算した合計点に基づき、厳正におこないます。なお、通常の授業時間中に実施する小テストについては、原則として持ち込み自由としますが、定期試験については、法学部において2008年度前期の定期試験への持ち込みが許可される種類および状態の六法のみを持ち込み許可物件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

効果的な学習のために、効率的な復習を心がけてください。なお、日本国憲法に基づいて保障されるべき「学問の自由」(第23条)を、自分の権利としても、他人の権利としても、大切にしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。独自に作成して配付する資料をもとに各回の講義をおこないます。聴講による学習を補うには基本書(体系書／概説書)などが必要ですが、これについては各自で用意して任意の予習や復習に役立ててください。なお、受講に際しては、適当な六法を携行してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法 (第4版)	芦部信喜 (著)・高橋和之 (補訂) / 岩波書店 / 4000227643 / 定評あるオーソドックスな概説書
憲法の本	浦部法穂 (著) / 共栄書房 / 476341030X / 読みやすいコンサイスな入門書
憲法2統治 (第3版)	渋谷秀樹・赤坂正浩 (著) / 有斐閣 / 4641123090 / 使いやすいコンパクトな概説書
初回の講義時に以上の3点を含めた参考文献のリストを配付します。また、必要に応じて、講義中に参考文献を紹介することがあります。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- (1) www.asaho.com
水島朝穂氏による
「平和憲法のメッセージ」
- (2) www.jicli.jp
法学館憲法研究所
- (3) www.ndl.go.jp/constitution/
国立国会図書館による
「日本国憲法の誕生」

その他 / Others

憲法Ⅱ JC § 憲法Ⅱ GC

14159

担当者名 / Instructor 多田 一路

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

憲法の統治機構に関わる部分を扱います。近年、政治の場面では、立憲主義という大原則がないがしろにされる傾向にありますが、立憲主義は憲法の本質的理解と深く関わっています。国民主権や権力分立、違憲審査などの個別の問題を基盤に、なぜ憲法で統治制度が定められているのか、といった本質的な問題も意識してもらうことをめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

統治機構に関する基本的な論点を把握し理解することを目標とします。当然ですが、理解とは、その問題について、論理的に説明ないし表現できるということです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法Ⅰ、戦後日本政治史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	統治の原理としての立憲主義	近代立憲主義、外見的立憲主義
2	国民主権	正統性の契機、権力的契機、憲法制定権力、人民主権
3	国民代表制	純粋代表、半代表、社会学的代表、命令的委任
4	選挙制度	選挙権の法的性格、選挙の原則
5	権力分立	立法府と行政府との関係、司法府との関係
6,7	国会と立法権(1)(2)	国会の地位、国会の組織
8,9	国会と立法権(3)(4)	国会の権限、議院の権限
10,11	国会と立法権(5)(6)	議員、会期、衆議院の解散
12,13	内閣と行政権(1)(2)	内閣の地位、行政の概念
14,15	内閣と行政権(3)(4)	内閣の組織、内閣の権限、内閣の責任
16,17	裁判所と司法権(1)(2)	司法の概念、司法権の限界
18,19	裁判所と司法権(3)(4)	裁判所の組織、裁判所の権限、司法権の独立、裁判官の民主的統制
20	違憲審査制度(1)	違憲審査の意義、違憲審査制の類型、違憲審査権の法的性格
21	違憲審査制度(2)	憲法訴訟、憲法判断の手法、法令違憲判決の効力
22	租税法律主義と財政民主主義(1)	財政議会主義の原則、租税法律主義
23	租税法律主義と財政民主主義(2)	公金支出の制限、予算の法的性格
24,25	地方自治(1)(2)	地方自治の意義、地方自治の本旨
26,27	地方自治(3)(4)	地方公共団体の組織、地方公共団体の権限
28	憲法改正と憲法保障(1)	憲法の変動、憲法保障
29	憲法改正と憲法保障(2)	憲法改正の手続、憲法改正の限界、現代改憲論
30	総括と各回の補遺	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

・講義はそのアウトラインをプラズマディスプレイで提示しながら進めます。アウトラインのファイルはwebCTに置いておくので、必要ならば事前にプリントアウトしてもかまいません。

・webCT上で小テストを課します。この小テストは、一斉に行うものではなく、オンデマンドで一定の期間内に行うものです。詳細は、講義で説明します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な論点について、論理的に表現できているかを評価します。
平常点(日常的)	30 %	小テストを、webCT上で、講義時間外に数回行います。

webCT上で小テストを上記のように成績に反映させますから、各自、webCTの利用について習得しておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小テストをコツコツ取り組んだ者が、期末試験で好成績を挙げています。

また、小テストの解説を、講義の中で行う予定ですので、出席するほうがトクです。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。自宅学習等については、体系書・概説書を利用してください。体系書・概説書は、参考書の欄で例示します。いうまでもないことですが、六法は必携です。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法 (第四版 高橋和之補訂)	芦部信喜／岩波書店／／
憲法学教室 (全訂第2版)	浦部法穂／日本評論社／／
憲法 (第三版)	佐藤幸治／青林書院／／
憲法 (第2版)	辻村みよ子／日本評論社／／
憲法 I・II (第4版)	野中、中村、高橋、高見／有斐閣／／

上記は、あくまで例示であり、この他にも、体系書・概説書は多数。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

市民と憲法研究者をむすぶ憲法問題Web <http://www.jca.apc.org/~kenpoweb/>
 法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp/>

その他 / Others

行政学Ⅰ J S 行政学Ⅰ G

15317

担当者名 / Instructor 村上 弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

行政学は政治学の一分野で、国や地方自治体の行政を対象とするものである。現代の政府活動が拡大するなかで、行政機構は政策の執行だけでなく決定に関しても大きな役割を果たすとともに、さまざまな問題も抱えている。この講義では、行政学全体への導入部のもと、行政の内部過程、つまり中央省庁等の運営・管理のためのさまざまなしくみについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

行政学の標準的な知識と分析枠組みを身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	＊1つのテーマを2～4回で扱う	
1,2,3,4	第1部、行政と行政学の歴史 政府機能の拡大、日本の行政の戦前と戦後、行政学の問題関心	
5,6,7,8	第2部、行政の内的過程 ●組織理論 古典的組織論、人間関係論、サイモン理論	
9,10,11	●行政組織における分業と統合調整 組織編成、計画、リーダーシップ	
12,13	●公務員人事 公務員の採用、昇進、天下り、服務	
14,15	●財政 予算編成過程とその特徴	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

準教科書を授業の前または後に読むことが望ましい。授業の進み方と準教科書の編成は一致しないので、準教科書の目次や索引を活用すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

板書を多用するが、口頭で述べたことも重要な部分はノートすること。

教科書 / Textbooks

<準テキスト>

＊各自どれか1冊を選んで買うことを薦めます。

村松岐夫『行政学教科書』第2版、有斐閣、2001

西尾勝『行政学』新版、有斐閣、2001

今村都南男ほか『ホーンブック基礎行政学』北樹出版、2006

参考書 / Reference Books

西尾勝・村松岐夫編『講座行政学』全6巻、有斐閣、1994～95

福田耕治・真淵勝・縣公一郎編『行政の新展開』法律文化社、2002

新藤宗幸『講義・現代日本の行政』東京大学出版会、2001

東田親司『現代行政と行政改革－改革の要点と運用の実例』(新版)、芦書房、2004

総務省『行政管理・総合調整白書』毎年

行政管理研究センター『データ・ブック日本の行政 2007』2007

飯尾潤『日本の統治構造－官僚内閣制から議院内閣制へ』中公新書、2007

山口二郎『内閣制度』(行政学叢書) 東京大学出版会、2007

大森彌『官のシステム』(行政学叢書) 東京大学出版会、2006

草野厚『官僚組織の病理学』ちくま新書、2001

岩田規久男『「小さな政府」を問いなおす』ちくま新書、2006

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp>

その他 / Others

行政学Ⅱ J S 行政学Ⅱ G

12877

担当者名 / Instructor 村上 弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

行政学は政治学の一分野で、国や地方自治体の行政を対象とするものである。現代の政府活動が拡大するなかで、行政機構は政策の執行だけでなく決定に関しても大きな役割を果たすとともに、さまざまな問題も抱えている。この講義では、行政の外部過程、つまり政治過程のなかでの行政の活動、行政と議会や市民の関係などについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

行政学の標準的な知識と分析枠組みを身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	* 1つのテーマを2～3回で扱う	
1,2,3	●行政責任 責任の諸類型、行政統制の諸方法	
4,5,6	●官僚制理論 M. ウェーバーの官僚制論、その後の理論展開	
7,8,9	●議会と行政 立法、執行過程における官僚制の機能と権力	
10	●利益集団と行政 各種社会集団の参加と影響力	
11,12	●市民と行政 行政情報の流れと市民参加の諸方法	
13,14,15	●行政改革 行政改革の多面性、小さな政府、NPM、規制緩和・規制の充実、政策評価	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

準教科書を授業の前または後に読むことが望ましい。授業の進み方と準教科書の編成は一致しないので、準教科書の目次や索引を活用すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

板書を多用するが、口頭で述べたことも重要な部分はノートすること。

教科書 / Textbooks

<準テキスト>

*各自どれか1冊を選んで買うことを薦めます。

村松岐夫『行政学教科書』第2版、有斐閣、2001

西尾勝『行政学』新版、有斐閣、2001

今村都南男ほか『ホーンブック基礎行政学』北樹出版、2006

参考書 / Reference Books

西尾勝・村松岐夫編『講座行政学』全6巻、有斐閣、1994～95

福田耕治・真淵勝・縣公一郎編『行政の新展開』法律文化社、2002

新藤宗幸『講義・現代日本の行政』東京大学出版会、2001

東田親司『現代行政と行政改革—改革の要点と運用の実例—』(新版)、芦書房、2004

総務省『行政管理・総合調整白書』毎年

行政管理研究センター『データ・ブック日本の行政 2007』2007

飯尾潤『日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ』中公新書、2007

山口二郎『内閣制度』(行政学叢書) 東京大学出版会、2007

草野厚『官僚組織の病理学』ちくま新書、2001

岩田規久男『「小さな政府」を問いなおす』ちくま新書、2006

川北 隆雄『経済論戦—いま何が問われているのか』岩波新書、2005

田中一昭『行政改革』新版、ぎょうせい、2006

福山嗣朗『NPM実務の考え方・進め方—効率的・効果的な政策形成・実施・評価改善』学陽書房、2006年

自治体問題研究所編『NPM行革の実像と公務・公共性』自治体研究社、2006

行政管理研究センター 編『政策評価ハンドブック 新基本方針対応版—評価新時代の到来』ぎょうせい、2007

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp>

その他 / Others

行政法I JA S 行政法I GA

14171

担当者名 / Instructor 正木 宏長

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

行政法は、国や自治体といった行政機関が、民間事業者の取り締まりのような行政活動をするとき、どのような法の拘束を行政がうけるのか、あるいは、行政の規制を受けた民間事業者が、国や自治体に対して裁判を起こすとき、いかなる訴訟を提起することができるか、というような、問題を扱う。

つまり、行政に関する法が行政法である。

本講義では、行政法のうち、「行政法総論」を講義する

到達目標 / Attainment Objectives

- ・行政法の基本概念と判例について、包括的な理解を得る。
- ・行政手続法や情報公開法のような行政に関する基本的な制度について総合的な理解を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法や民法 (特に総則、不法行為の分野) についての、基本的知識を習得した上で履修に臨むことが望ましいが、必須というわけではない。

刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、環境法、経済法、社会保障法、労働法、行政学といった科目も、行政法を修得する上で有益な知識を与える。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1・2回	「導入講義」、「行政と法」	導入講義は行政法の入門的な内容を講義する
第3・4回	「行政法の観念」、「公法と私法」	
第5・6回	「行政法の法源」、「行政法の基本原理」	
第7・8回	「行政組織法」	
第9・10回	「行政過程論と行政の法的仕組み」、「行政立法」	
第11・12回	「行政行為の種類」、「行政行為の効力」	
第13・14回	「行政行為の瑕疵」、「行政行為の効力の発生」、「行政行為の失効」、「行政行為の附款」	
第15・16回	「行政裁量」	
第17・18回	「行政契約」、「行政指導」	
第19・20回	「行政計画」、「行政と私人」	
第21・22回	「行政手続の基本理念」、「行政手続法」	
第23・24回	「行政上の義務履行確保」、「即時強制」	
第25・26回	「情報公開」	
第27・28回	「行政調査」、「行政情報管理」	
第29・30回	「規制、給付、調達、誘導の法的仕組み」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習・復習をすれば学習効果が上がることはいうまでもない。

予習をするときは授業の順序が、教科書と必ずしも一致しないので気をつけること

指定の教科書が難しいと感じたときは、より簡単な教科書 (授業で指定する) を用いて予習・復習をすること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	95 %	学説、判例といった授業内容への理解を問う。
平常点(日常的)	5 %	授業態度が著しく悪い者への減点や、著しくよい者への加点は、あり得るということ
日常点5%は毎回出席をとるという意味ではない		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法I 第四版	塩野宏／有斐閣／4-641-12958-4／四刷以降のものを用意すること

六法は必ず最新版を用意すること。

教科書は、行政手続法改正に対応する補正がなされた、第四版四刷以降のものを用意すること

四刷以前のものをを用いる場合、有斐閣のHPから修正部分をダウンロードしておくこと、アドレスは

<http://www.yuhikaku.co.jp/yuhikaku/gyousei171027/20051021.html>

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政判例百選Ⅰ 第5版	小早川光郎ほか／有斐閣／4-641-11481-1／
行政判例百選Ⅱ 第5版	小早川光郎ほか／有斐閣／4-641-11482-X／
行政法総論講義 第4版補訂版	芝池義一／有斐閣／4-641-13005-1／
行政法概説Ⅰ 第2版	宇賀克也／有斐閣／4-641-12995-9／
現代行政法入門	曾和俊文ほか／有斐閣／978-4-641-13027-2／
行政法	稲葉馨ほか／有斐閣／978-4-641-17901-1／
行政法	櫻井敬子＝橋本博之／弘文堂／978-4-335-35393-2／
行政法入門 第8版増補版	今村成和＝畠山武道／有斐閣／978-4-641-11272-8／
新版 ゼミナール行政法	新山一雄／法学書院／4-587-52501-4／
ブリッジブック行政法	宇賀克也／信山社／978-4-7972-2323-1／
条解 行政事件訴訟法 第3版	南博方＝高橋滋／弘文堂／4-335-35366-9／

参考書は図書館への発注リストを兼ねている

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

正木宏長のHP
<http://www.ops.dti.ne.jp/~andm>

その他 / Others

webCTは使っていないので注意

行政法I JB S 行政法I GB

14172

担当者名 / Instructor 須藤 陽子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

行政法を分けようとする場合、行政作用法・行政救済法・行政組織法という3つに分けることがありますが(「法」と付いていても「法律」ではありません)、立命館大学法学部では、行政作用法を行政法Ⅰ、行政救済法・行政組織法を行政法Ⅱとして講義を行っています。行政法Ⅰでは、国や地方自治体などが行う行政活動において、行政活動をめぐって生じる私人の権利義務関係に関する法的な考え方を学ぶことが中心になります。ここで私が「法的な考え方を学ぶ」という言い回しをしていることに注目してください。非常に抽象的な言い回しをしていると思われるでしょう。講義の冒頭で必ず説明することですが、現行法律約1800本のうち、そのほとんどが「行政」に関わる法律です。もちろん、そのような多数の法律をやみくもに学ぶことを目的とするものではありません。行政法Ⅰの講義では、他の基本法律科目のように、一本の法律を条文に即して学ぶ、というスタイルをとることがありません。行政法Ⅰ(行政作用法)は、法律の条文に即して学ぶのではなく、「行政」に関わる諸法律において共通する法的な考え方、法的仕組みを学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

公務員試験を目指す人、法科大学院入試を目指す人、国家試験科目として勉強している人、単位取得のために必要な人、というように、行政法を必要とする理由や受講生の属する学部(法、国、文、政)は様々です。到達目標は、二段階的に考えましょう。まず、第一の到達目標は必須のものですが、行政法特有の非常に抽象的な理論モデルを「理解」しましょう。暗記ではありません。公務員試験などのために受講している人たちは、「理解」せず「暗記」してしまうことによって応用がきかなくなってしまう傾向にあります。「理解」してから「暗記」です。第二の到達目標は、理論モデルを実際の問題に当てはめて考えられるようになる、ということです。具体的な事例を、最高裁判例と理論モデルの考え方を使って読み解く力を得ることを目標としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法、民法などの基本法律科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「行政法とは」?という設問に対して、多面的に答える	行政作用法・行政救済法・行政組織法
2	「行政法とは」?	公法と私法
3	行政法の基本原理	法律による行政の原理
4	行政法の存在形式①	成文法源、不文法源
5	行政法の存在形式②	行政立法の裁判的統制、行政による基準設定行為
6	行政手続①	行政手続法成立の意義、行政手続法改正…意見公募手続の導入
7	行政手続②	行政指導、申請に対する処分
8	行政手続③	不利益処分手続
9	行政行為論①	行政行為の定義、行政行為の効力
10	行政行為論②	行政行為の分類論
11	行政行為論③	附款論
12	行政行為論④	行政行為の効果発生と消滅
13	行政行為論⑤	行政行為の瑕疵
14	行政行為論⑥	行政行為の裁量の意味
15	行政行為⑦	裁量統制の理論
16	行政契約	行政契約の概念と種類
17	行政計画	行政計画の意義と特色
18	行政調査・情報収集制度	行政調査の概念と種別
19	行政と情報①	情報公開制度
20	行政と情報②	情報公開をめぐる最高裁判例
21	行政と情報③	行政における個人情報の保護
22	行政と情報④	民間における個人情報の保護
23	義務履行確保①	代執行、直接強制、執行罰、強制徴収
24	義務履行確保②	環境法と代執行
25	義務履行確保③	行政刑罰と行政上の秩序罰
26	義務履行確保④	条例にみる罰金と過料
27	義務履行確保⑤	その他の制裁手段
28	即時強制①	即時強制と直接強制

29	即時強制②	警察官職務執行法
30	小テスト実施	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習復習のポイントは、授業時に指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 % 論述式の問題

単元ごとに小テスト(択一)を実施する予定です。小テストは、教える側にとっては受講生の理解度を把握するためのものであり、受講生にとっては自己の理解度を確認して復習ポイントを明確にするためのものであって、小テストの結果は成績評価には一切反映させません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

行政法

稲葉馨・人見剛・村上裕章・前田雅子／有斐閣／978-4-641-17901-1／重要最高裁判例の要約が掲載されているため初学者にとって勉強し易く、読者の興味を引きつけるためにトピックがコラムという形式で掲載されている。

北海道大学、東北大学、関西学院大学、九州大学の四人の先生が作った教科書です。各々の法学部で行政法初学者向けに使われています。教科書の帯には「法科大学院をめざす人」向けに書かれたとありますが、重要最高裁判例の要約、トピック、事例問題の練習問題は公務員試験をめざす人にとっても共通のものであって、両者が使えるテキストに作ってあります。しかし、テキストに掲載されている最高裁判例だけでは足りないので、補充の意味で他の判例等をプリント配布します。

＊六法は授業に必ず持参してください！！

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

行政法Ⅰ(行政法総論)

塩野宏／有斐閣／／

行政法Ⅰ

宇賀克也／有斐閣／／情報量の多いテキスト。各種試験向き

判例行政法入門

芝池義一他／有斐閣／／行政法を判例に即して学ぶ仕組みをとっている

行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ

小早川光郎他／有斐閣／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

行政法Ⅱ J S 行政法Ⅱ G

16671

担当者名 / Instructor 安本 典夫

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

現代の私たちの生活は、国・地方公共団体の行政活動なしには成り立たない。しかし反面、私たちの権利利益が行政活動によって大きな影響を受け、またその違法・不当な権限行使が私たちの生活を脅かすことも少なくない。その行政活動を民主的に統制し、人々の地位・権利を保護・確立することが行政法の課題である。

前期の行政法Ⅰでは、その行政活動が行われる過程に即して、法的問題を学習した。この行政法Ⅱでは、まず、行政活動を行う組織について学習をする。そして、それが行う行政活動によって私たちの権利・利益が侵害された場合、その救済をどう図るかについて学習をする。行政事件訴訟法に基づく行政訴訟、適法な行政活動による損失補償、違法な行政活動による国家賠償が講義の柱となる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①行政組織についての基本的理解を得る。
- ②行政に特有の行為形式として「行政行為」があり、それについての訴訟として取消訴訟制度がある。この訴訟特有の法理をしっかりと理解し、比較的簡単な事例に応用することができるようにする。そして、それだけでは実効的な救済が図られないために他の訴訟形式があることを踏まえて、どのような場合にどのような訴訟によって救済が図られうるかを考えることができるようにする。
- ③国家賠償・損失補償についての基本的理解を得るとともに、国家賠償法については、請求が認められる要件を踏まえて、比較的簡単な事例に応用することができるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

行政法Ⅰを履修しておくこと。行政法Ⅰの知識なしに行政法Ⅱの講義内容を理解することは不可能です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	行政を行う団体と「行政主体」の概念	
2	国・地方公共団体の行政組織	
3	その他の行政組織	
4	行政機関の種類と編成・稟議制	
5	行政機関相互の権限委任・調整と行政監督	
6	公務員制度、公務員の勤務関係	
7	公務員の義務、地位の喪失	
8	行政改革と公務員制度改革	
9	行政争訟の歴史と全体像	
10	行政事件訴訟法の構成と取消訴訟の位置づけ	
11	取消訴訟の訴訟要件(1): 取消訴訟の対象(1)	
12	取消訴訟の訴訟要件(2): 取消訴訟の対象(2)	
13	取消訴訟の訴訟要件(3): 原告適格	
14	取消訴訟の訴訟要件(4): その他の訴訟要件	
15	取消訴訟の審理	
16	取消訴訟の判決	
17	執行停止	
18	無効確認訴訟と争点訴訟	
19	不作為の違法確認訴訟・義務付け訴訟・差止訴訟	
20	公法上の当事者訴訟	
21	住民訴訟	
22	行政不服申立て	
23	国家賠償制度の歴史および国家賠償法1条(1)	
24	国家賠償法1条(2)	
25	国家賠償法2条(1)	
26	国家賠償法2条(2): 河川水害訴訟	
27	損失補償(1): 損失補償の原理、財産権剥奪と損失補償	
28	損失補償(2): 財産権制限・行政活動の変更と損失補償	
29	補償と賠償の谷間	
30	まとめ——行政救済法の展開の方向	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点(検証テスト)	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

行政組織法については、テキストを用いずにレジュメ・資料を配布して授業を行います。行政救済法については、下記記載のテキストを用いますが、適宜レジュメ・資料を配布します。

考えながら講義をきくようにするため、授業中にも質問して発言を求めることがあります。質問があったら、自分ならこう考える、ということを必ず用意して下さい。

途中で小テストを実施します。

きちんとノートを取りながら受講して下さい。六法は必ず持参すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法	稲葉馨・人見剛・村上裕章・前田雅子／有斐閣／978-4-641-17901-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法概説Ⅱ	宇賀克也／有斐閣／／
塩野宏	行政法Ⅱ [第4版]／有斐閣／／
行政法要論 [第6版]	原田尚彦／学陽書房／／
判例行政法入門 [第4版]	芝池義一編／有斐閣／／
別冊ジュリスト『行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ [第5版]』	小早川光郎・宇賀克也・交告尚史編／有斐閣／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

法令データ提供システム <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>
 自治体Web例規集へのリンク集 <http://www.hi-ho.ne.jp/tomita/reikidb/reikilink.htm>

その他 / Others

財政学Ⅰ G

11023

担当者名 / Instructor 河音 琢郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、今日の日本経済の現状とその基での財政活動の総体的な表象を獲得することを前提として、今日の日本の財政構造とそれが抱える諸問題について、講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- 今日の日本の経済・財政構造について理解すること
- 今日の日本財政の抱える諸課題について理解すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	現代日本の経済構造の概観	輸出主導型経済、日本的経営
第3回	新自由主義的経済政策と財政改革	新自由主義政策、ケインズ主義政策、小さな政府
第4回	現代日本の財政制度の概観:①租税構造	課税根拠、租税原則、租税体系、租税論
第5回	現代日本の財政制度の概観:②予算制度	予算制度、増分主義、概算要求、予算論
第6回	現代日本の財政制度の概観:③財政投融资	財政投融资、公的金融、公信用論
第7回	現代日本の財政制度の概観:④国と地方の財政関係	地方分権、地方財政、地方交付税、三位一体改革、政府間財政関係論
第8回	現代の租税構造と税制改革:①	課税根拠、応能説と応益説、租税原則、公平・簡素・中立
第9回	現代の租税構造と税制改革:②	経済活性化税制、「薄く広く」の負担構造
第10回	今日の政府間財政関係と地方財政改革:①	地方分権、財政調整制度、地方交付税
第11回	今日の政府間財政関係と地方財政改革:②	三位一体の改革、税源移譲、地域間財政格差
第12回	社会保障財政と年金・医療改革:①	少子高齢化、社会保障、国民年金、厚生年金
第13回	社会保障財政と年金・医療改革:②	賦課方式と積立方式、保険料方式と税方式、年金制度改革
第14回	社会保障財政と年金・医療改革:③	国民皆保険、医療改革
第15回	講義全体のまとめ:今後の日本財政をめぐる諸課題	小さな政府、財政再建、税制改革

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日常の経済、政治に関する一般的知識の獲得のため、一般紙を購読することが望ましい。

講義の活用法、自学自習の方法等について、詳しくは下記の文献を参照されたい。

麻生潤・河音琢郎・上瀧真生・和田寿博『学びの一步——大学の主人公になる』新日本出版社、2003年刊、第2章

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	各回で取り上げた諸論点について理解し、自らの言葉で適切に論じることができるかを評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。講義の中で配布するレジュメと資料に基づいて講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の財政	内山昭／税務経理協会／4419047216／日本財政の表象と財政学の全体像をつかむための書
図説:日本の財政:平成19年度版	林信光／東洋経済新報社／9784492031841／講義を受けるに当たっての予備知識を得るための書

その他、講義の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

財政学Ⅱ G

11068

担当者名 / Instructor 河音 琢郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1980年代以降、先進諸国は共通して財政赤字の巨額化に悩まれ、財政再建策を講じてきた。しかし、その有り様は、それぞれの財政制度や政治システムの相違に規定されて、異なった展開を示している。本講義の課題は、財政再建という政策課題が、先進各国、とりわけ日本とアメリカとの間でどのように取り組まれてきたのかに論点を絞り、各国財政制度の比較という視点から検討する。そうした中で、各国財政システムの特徴を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

日本とアメリカとの財政システムの特徴について理解すること。
財政赤字のもつ問題点について、理解すること。
財政再建をめぐる諸理論について、理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

財政学Ⅰを履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	財政赤字の政治経済学:①	財政赤字、クラウドディングアウト、財政の硬直化
第3回	財政赤字の政治経済学:②	国債ファイナンス、擬制資本
第4回	財政赤字の政治経済学:③ーテキスト第5章	プライマリーバランス、公共選択論、新制度派経済学
第5回	財政赤字の政治経済学:④ーテキスト第4章	増分主義的予算編成、利益分配政治
第6回	財政再建と予算改革の基本的フレームワークーテキスト第4章	マクロ予算編成、ミクロ予算編成、財政規律、政策評価
第7回	アメリカ国家機構と予算過程の基本構造ーテキスト序章	政策形成過程、連邦議会、大統領制
第8回	アメリカにおける財政再建:① (1970年代)ーテキスト第1章	1974年議会予算法、歳出予算委員会、予算委員会、予算決議
第9回	アメリカにおける財政再建:② (1980年代)ーテキスト第2章	レーガノミックス、双子の赤字、GRH法
第10回	アメリカにおける財政再建:③ (1990年代)ーテキスト第3章	BEAシステム、リコンシリエーション、「ギングリッチ革命」
第11回	アメリカにおける財政再建:④ (21世紀)	財政規律の弛緩、ブッシュ減税
第12回	日本における財政再建:① (1980年代)	臨調行革、建設国債主義、日米構造協議
第13回	日本における財政再建:② (1990年代)	財政構造改革、公共投資依存型財政
第14回	日本における財政再建:③ (21世紀)	プライマリー・バランス、歳出入一体改革、小さな政府、経済財政諮問会議、官邸主導型政治
第15回	講義全体のまとめ:日米比較を踏まえた財政再建策の展望	財政再建、増分主義、包括的予算編成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日常の経済、政治に関する一般的知識の獲得のため、一般紙を購読することが望ましい。

講義の活用法、自学自習の方法等について、詳しくは下記の文献を参照されたい。

麻生潤・河音琢郎・上瀧真生・和田寿博『学びの一步——大学の主人公になる』新日本出版社、2003年刊、第2章

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	各回で取り上げた諸論点について理解し、自らの言葉で適切に論じることができるかを評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アメリカの財政再建と予算過程	河音琢郎／日本経済評論社／4818818453／講義にて使用するので持参すること
講義においては、以下の文献も使用する(講義の際に配布する)	

河音琢郎『「財政危機」と国債市場の構造変化——政府の「国債市場流動化政策」の行き着く先』『経済』2006年5月号

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説：日本の財政：平成19年度版	林信光／東洋経済新報社／9784492031841／今日の日本財政の概観を得るための書
アメリカの連邦財政	渋谷博史・渡瀬義男編／日本経済評論社／4818818410／今日のアメリカ連邦財政の表象と諸論点を把握するための書
官邸主導——小泉純一郎の革命	清水真人／日本経済新聞社／4532351901／経済・財政改革と政治過程の変貌の現実を知るための書
G. W. ブッシュ政権の経済政策——アメリカ保守主義の理念と現実	河音琢郎・藤木剛康編／ミネルヴァ書房／／第1章を、第10・11回講義にて使用
いずれも、予備知識として参考にされたい。そのほか、適宜講義の中で指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference財務省ホームページ <http://www.mof.go.jp>

そのほか、適宜講義の中で指示する。

その他 / Others

地方自治法 J S 地方自治法 G

12973

担当者名 / Instructor 須藤 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「地方自治法」という講義科目は、地方自治の基本法である「地方自治法」という法律の条文に則して地方自治の法的仕組みを学ぶとともに、地方自治行政を学ぶ授業でもあります。各地方自治体の様々な試みを授業でとりあげます。法的知識を駆使して政策実現を図る現場の動きを、最近では、自治体法務、あるいは政策法務という用語を用いて説明することがあります。「できる公務員」「行政にもの言える、知識のある市民」になる下地をつくりましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

第一に、地方自治の法的仕組みを理解すること。第二に、各地方自治体の独自の取組みの法的意味を理解できるようになること。第三に、地方自治に関する判例（情報公開と住民訴訟）を理解できるようになること。以上、三段階の到達目標を設定しています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「地方自治」は行政法学各論の一分野ですから、同時並行で行政法Ⅰを受講することを強く推奨します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日本国憲法と地方自治	戦後の地方自治
2	地方公共団体と住民	行政主体、住民
3	地方公共団体の組織	地方議会、執行機関
4	直接民主主義	直接請求、住民投票、住民参加
5	地方公共団体の事務①	国と地方公共団体との関係
6	地方公共団体の事務②	都道府県と市町村の関係
7	地方公共団体の権能①	条例制定権
8	地方公共団体の権能②	規則と要綱
9	地方公共団体の権能③	自治財政権
10	公の施設	指定管理者制度、保育所の民営化・民間化
11	住民訴訟①	住民監査請求
12	住民訴訟②	住民訴訟
13	情報公開制度	情報公開条例
14	個人情報保護制度	個人情報保護条例
15	住民参加とは？	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述式問題

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ファンダメンタル地方自治法	高田敏・村上武則編／法律文化社／4-589-02741-0／
六法を授業に必ず持参すること！判例及び地方自治の動きについては資料として配布。	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

民法I(総則1) J S 民法I(総則1) G

12961

担当者名 / Instructor 石橋 秀起

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

民法総則(そのうちの約半分の領域)に関する基本的な法制度を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

民法総則(そのうちの約半分の領域)に関する基本的な法制度を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義を受けるにあたって / 【第1講】 I 序論① 民法とは何か	
第2回	【第2講】 I 序論② 民法典について・本講義の対象	
第3回	【第3講】 II 民法における一般条項 / III 法律行為① 法律行為とは	
第4回	【第4講】 III 法律行為② 意思表示の成立・契約の成立	
第5回	【第5講】 III 法律行為③ 契約の解釈・契約の有効要件(合意内容に関するもの)	
第6回	【第6講】 III 法律行為④ 契約の有効要件(意思表示に関するもの その1—心裡留保・虚偽表示)	
第7回	中間テストとその解説	
第8回	【第7講】 III 法律行為⑤ 契約の有効要件(意思表示に関するもの その2—錯誤)	
第9回	【第8講】 III 法律行為⑥ 契約の有効要件(意思表示に関するもの その3—詐欺・強迫)	
第10回	【第9講】 IV 人① 権利能力	
第11回	【第10講】 IV 人② 行為能力(その1)	
第12回	【第11講】 IV 人③ 行為能力(その2)・住所・不在者の財産管理制度 / V 物	
第13回	【第12講】 VI 無効と取消し① 両者の異同	
第14回	【第13講】 VI 無効と取消し② 第三者との関係	
第15回	模擬問題(定期試験レベル)の出題とその解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小型のものでよいので、講義には必ず六法を持参すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
プリメール民法1(第2版)	安井宏ほか／法律文化社／／

参考書 / Reference Books

開講後に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

民法Ⅱ(総則2) J § 民法Ⅱ(総則2) G

15370

担当者名 / Instructor 臼井 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

前期の民法Ⅰ(総則1)につづき、民法第一編「総則」の第五章第三節以下の解説を行う。条文では、民法33条から37条、第99条から第174条の2までになる。民法のなかでも総則部分は、民法全体に共通する問題を扱っていて、それだけに全体に抽象的な民法のなかでも、特に抽象度が高く取っつきにくいことから、初期法学教育に適するような教授法に関する工夫がもっとも重ねられてきた部分でもある。私もこのようなこれまでの先輩の工夫に学びながら、できるだけ具体的な設例をもちいて、わかりやすくすることに心がけつつ、授業を進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

民法第一編「総則」の第五章第三節以下の諸制度、それに関する法律概念・用語・条文を正確に理解していること。
上記に関する判例・基本問題を幅広く理解していること。
以上の理解を踏まえて、応用問題にも正確な法的判断を下せること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくに民法Ⅰ(総則1)の単位は取得しておくこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義の学習内容－民法33条から37条、99条から174条の2までを眺めて、講義内容をイメージしてみよう！－	法人、代理、無効・取消し、条件・期限、期間の計算、時効
2	代理総論・有権代理論	代理の意義・機能、任意代理・法定代理、代理権授与と代理行為、顕名主義、自己契約・双方代理の禁止、復代理
3	無権代理論	無権代理人の責任、無権代理と相続
4	表見代理論	代理権授与表示による表見代理、越権代理、代理権消滅後の表見代理
5	代理権の濫用法理	親権者の法定代理権、民法93条但書類推適用
6	法人総論－最近の法人制度改革を中心に－	法人制度の意義・必要性、社団法人・財団法人、一般法人・公益法人・営利法人、定款、設立主義
7	一般法人法・公益法人認定法の概要と「権利能力なき社団」法理	一般社団・財団法人、準則主義(登記)、公益社団・財団法人、認定主義、「権利能力なき社団」法理
8	法人の外部関係	法人学説、民法34条の定款の目的による制限、定款による理事の代表権の制限、法人の不法行為責任
9	法人の内部関係と法人格否認の法理	社員総会、理事・監事、評議員・評議員会、法人の解散、法人格否認の法理
10	無効・取消し、条件と期限・期間の計算	無効行為の追認・転換、取消権の時効、停止条件・解除条件、確定期限・不確定期限、期限の利益
11	時効総論	時効の意義・正当化根拠、取得時効・消滅時効、時効の援用、時効利益の放棄、時効の中断
12	取得時効	自主占有・他主占有、長期・短期取得時効、原始取得、占有の承継、自然中断
13	消滅時効	短期消滅時効
14	除斥期間－民法724条後段の20年の期間制限を中心に－	除斥期間、権利濫用・信義則
15	代理、法人、時効を中心に復習してみよう！	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

配布予定のレジュメには、「復習」、「調査」、「自宅学習」、「発展学習」、「演習事例問題」などがあるので、教員の指示に従い随時しっかりと行っていたきたい。また、確認問題も3～4回に1回程度の割合で配布しているので、必ず取り組むこと。
なお、数回予定している小テストは、必ず受験して現在の自分自身の到達度を把握し、予習・復習に生かして欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 % 小テストなどの機会に随時具体的に提示して、イメージしてもらう。

定期試験を基本に成績評価する。なお受講態度の悪い者については、減点を行うことがあるので、十分注意していただきたい。

また、小テストを実施した場合は、定期試験の割合が90～80%程度になることもありうる。

なお、毎回出席をとり(出席管理はバーコードで行うため、必ず持参すること)、成績評価にあたり加味することも考えている。30分以上の遅刻者には、出席表を配布しないので、注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業外学習の指示」に従って勉強してください。

また分からないことがあれば、恥ずかしからず、担当教員に直接相談するか、本授業に配属されている先輩学生・院生 (TA, ES) に指定時間に相談することをオススメする。

なお授業では、六法は適宜参照するので、コンパクトなものでよいから、常に持参すること。条文に慣れるときわめて重宝するので、面倒くさからずに必ず六法をめくること。

教科書 / Textbooks

詳細なレジュメを配布する予定であるので、民法Ⅰ（総則1）で従来すでに使用してきた教科書を引き続き使ってもらって構わない。またお薦めできそうな教科書などがあれば、初回講義時にご紹介するつもりである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法総則講義	河上正二／日本評論社／／
民法判例百選Ⅰ	／有斐閣／／
民法の争点	内田貴＝大村敦志／有斐閣／／

法人制度の改革に伴い新しい参考書が複数出版されることが予想されるため、詳細は初回講義時にご紹介するつもりである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

民法Ⅲ(不法行為法) J S 民法Ⅲ(不法行為法) G

15371

担当者名 / Instructor 山本 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

交通事故や欠陥医薬品事故、あるいは環境汚染などを原因とする紛争において損害賠償責任が問題となるとき、不法行為制度が重要な役割を演じる。その他、当事者間に予め契約関係が設定されていない場合の金銭給付の必要の有無に関わり、この科目で講義する。

民法の枠組みの中では、事務管理・不当利得・不法行為という部分に属するが、これを「法定債権関係」という視点から講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

契約を原因として構築される法律関係に対して、法定債権関係の領域はこれを裏側から支えるような関係に立つといわれる事がある。この講義を通じ、受講生諸君の民法全体についての理解が構築できればと考えている。単語だけを暗記して穴埋め問題に答えるという態度ではなく、問題を正面から自分の文章で論述することが出来るような見識を涵養したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

民法・民事訴訟法・商法・刑法などの諸科目を受講していること若しくは受講・履修しようとしていることが望ましいが、それは法学部に在籍する学生ならば当然のことであろう。この講義は、その、当たり前の法学部学生、あるいは他学部でも法律学を学ぼうとする学生であることだけを唯一の受講条件とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	法定債権関係概説(事務管理・不当利得・不法行為と契約的債権関係)	法定債権関係 事務管理 不当利得 不法行為 契約的債権関係 債務不履行責任
2	事務管理(委任なき事務処理)	事務管理 緊急事務管理 他人への干渉の正当化 費用償還請求権
3	不当利得(その1 不当利得法の考え方)	不当利得返還請求権 民法典各所に点在する様々の不当利得制度 民法典編纂と一般的不当利得法
4	不当利得(その2 不当利得特殊問題)	3人以上の当事者間での不当利得問題 いわゆる転用物訴権
5	不法行為法総説	不法行為制度の意義 刑事責任との比較 不法行為制度の目的
6	不法行為責任の発生要件(その1 権利侵害と違法性)	権利 法益 違法性 第三者の債権侵害
7	不法行為責任の発生要件(その2 故意・過失)	故意 過失 注意義務違反 主観的違法要素と違法性との交錯
8	不法行為責任の発生要件(その3 損害の発生)	被害と損害 補償と賠償
9	不法行為の効果(その1 損害賠償)	原状回復 金銭賠償と金銭給付
10	不法行為の効果(その2 賠償すべき損害の範囲とその額)	相当因果関係説 規範の保護目的と保護範囲 損害の金銭的評価と民法416条
11	特殊の不法行為(その1 使用者責任等)	使用者責任 労働災害 報償責任原理 無過失責任
12	特殊の不法行為(その3 工作物責任等)	土地工作物責任 動物保有者の責任 自動車損害賠償責任
13	国家賠償責任	公務員の責任 営造物責任 費用負担者責任 行政組織法との関係
14	製造物責任	消費者 食品被害 医薬品被害 欠陥車問題 瑕疵と欠陥
15	契約法と不法行為法との接点	請求権競合問題、安全配慮義務、証明責任分配

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

基本的に講義形式で行う。時には受講生に質問する場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述問題の形式で出題する。

法定債権関係に関わる法律問題は極めて日常的に生じうる。日常的な社会生活の場面で発生しうる事案問題を出題し、そこに検討すべき法的な論点を抽出し、それについて法律学的に筋の通った検討過程を論述することで示し、妥当と思われる結論を導き出すことが出来るか否か、という観点から評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は最初の講義の際に説明する。

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

別冊ジュリスト 民法判例百選<第5版>II

／有斐閣／／
-----**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

詳細で膨大なレジュメ・講義資料等は一切配布しない。また、パワーポイントなどを活用したビジュアルな講義も行わない。基本的にはもっぱら古典的でアナログ的な講義形式に終始し、受講生はときに講義担当教員からの質問に答えるほかは黒板（ホワイトボード？）に乱筆でかけられる担当者の文字を追いつながら基本的には自分で受講しノートを作成して勉強するというスタイルをとる。重要文言の箇所だけを空白にして詳細な説明を書いたような「穴埋め式レジュメ」などは一切利用しないから、常に自分で講義ノートを作成する姿勢で臨んで欲しい。

民法Ⅳ(契約法) JA § 民法Ⅳ(契約法) GA

12915

担当者名 / Instructor 白井 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

民法第三編第二章「契約」について解説を行う。具体的には、契約の成立にはじまりその効力や解除に関する「契約総則」を学習した後、最も重要かつ日常的な契約である「売買」に関する法的ルールを説明する。その後時間の許すかぎり、「贈与」などその他の典型契約、現代社会特有の複雑な非典型契約について概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

民法第三編第二章「契約」以下の諸制度、それに関する法律概念・用語・条文を正確に理解していること。

上記に関する判例・基本問題を幅広く理解していること。

以上の理解を踏まえて、応用問題にも正確な法的判断を下せること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくに履修可能な民法科目については、すでに単位を取得しているか、履修中であること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	契約法を学ぶにあたってー契約自由の原則とその現代の変容、契約の分類ー	典型・非典型契約・混合契約、諾成・要物契約、有償・無償契約、双務・片務契約、要式・不要式契約、一回的・継続的契約
2	契約の成立、交叉申込み	申込みの誘因、申込み・承諾、意思実現、事後的契約関係論、到達主義・発信主義、承諾適格・拘束力、懸賞広告、電子消費者契約法
3	契約の効力①ー契約の効力一般、同時履行の抗弁権ー	双務契約の牽連性、同時履行の抗弁権、不安の抗弁権、留置権
4	契約の効力②ー危険負担、第三者のためにする契約ー	危険負担、債務者主義・債権者主義、特定物・不特定物売買、第三者のためにする契約、要約者・諾約者・第三者、補償・対価関係
5	契約の解除	債務不履行(履行不能・履行遅滞・不完全履行)、約定解除・法定解除、解除権(形成権)、解除の効果、解除権の消滅
6	贈与	片務・無償・諾成契約、撤回、忘恩行為、定期贈与・負担付贈与・死因贈与(及び遺贈)
7	売買の意義・性質、成立と手付け	諾成・有償・双務・不要式契約、現実売買
8	売主の担保責任総論	無過失責任、債務不履行責任、不特定物売買、法定責任説 vs 債務不履行(契約責任)説、特定物ドグマ、完全履行請求(代物・瑕疵修補請求)
9	売主の担保責任各論	権利・物の瑕疵、他人物売買、追奪担保責任、瑕疵担保責任
10	売買のまとめ	
11	貸借型契約	消費貸借、使用貸借
12	賃貸借①ー当事者間における効力ー	修繕・費用償還義務、担保責任、敷金返還義務、経年劣化・自然損耗分の負担
13	賃貸借②ー第三者との関係における効力ー	無断譲渡・転賃、信頼関係破壊法理、借地借家法、債権者代位権の転用
14	その他の典型契約	雇用、請負、委任、寄託、組合、和解
15	現代型複合契約と非典型契約	フランチャイズ契約、ファイナンス・リース契約、製作物供給契約

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業時に指示した復習用の判例学習教材、予習部分をしっかりと勉強していただきたい。

また小テストを実施した場合は、必ず受験して現在の自分自身の到達度を把握し、予習・復習に生かして欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 % 授業の中で随時具体的に提示して、イメージしてもらう。

定期試験を基本に成績評価する。なお受講態度が悪い者については、減点対象となることもあるので、十分注意していただきたい。

なお小テストを実施した場合は、定期試験の割合が90～80%になることもありうる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業外学習の指示」に従って勉強してください。

また分からないことがあれば、恥ずかしからず、担当教員に直接相談するか、本授業に配属されている先輩学生・院生 (TA, ES) に指定時間に相談することをオススメする。

なお授業では、六法は適宜参照するので、コンパクトなものでよいから、常に持参すること。条文に慣れるときわめて重宝するので、面倒くさからずに必ず六法をめくること。

教科書 / Textbooks

新年度で、新しい教科書が複数出版されることが予想されるため、詳細は初回講義時にご紹介するつもりである。

参考書 / Reference Books

教科書同様、新しい参考書についても、詳細は初回講義時にご紹介するつもりである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

民法Ⅳ(契約法) JB § 民法Ⅳ(契約法) GB

12916

担当者名 / Instructor 小山 泰史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

民法第三編第二章「契約」(521条～696条)について、ほぼ民法の条文の順序に沿って講義する。具体的には、契約の成立、同時履行の抗弁権、危険負担等、契約総則部分を、これまで特に民法1・民法2において学んだ部分との対応に注意しながら授業を行う。次に、本講義で最も重要な部分であり、民法典に規定されている典型契約、特に双務有償契約の代表である「売買」に関する法的ルールを説明する。特に、瑕疵担保責任(570条)が重要である。その後、片務契約である「贈与」や、他の双務有償契約(消費貸借、賃貸借や請負等)、および民法典に規定のない非典型契約(例、リース契約やサブリース契約等)について概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

民法1と2で学んだ契約の成立過程における諸原則(意思表示の瑕疵に関する93条から96条のルール、代理等)を前提として、今度は、契約が正常に成立し、履行されて終了するまでのプロセスを学び、これらのルールが具体的な契約類型の中でどのように機能するかを知ることが目的とする。同時に、平行して開講される民法Ⅵ(債権法)における、債務不履行に関するルールとの関係(特に売主の担保責任)について、全体像を知り、もって、契約法全体の鳥瞰図を頭の中に形作ること。これらが講義の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

民法1および2、民法Ⅵ(債権法)。債権法は、特に同時期に開講されるので、必ず平行して履修すること。
民法3も重要である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	契約の成立	申込と承諾、意思表示の効果発生時期(民法97条)と契約の成立時期(526条)
第2回	契約の効力(1)・同時履行の抗弁権と危険負担	同時履行の抗弁権(民法533条)、危険負担(534条～536条)、双務有償契約
第3回	契約の効力(2)・契約の解除	債務不履行の態様(履行遅滞・履行不能・不完全履行)、債務者の責めに帰すべき事由(帰責事由)、民法415条、原状回復義務、解除の効果(直接効果説・間接効果説)
第4回	売買契約(1)・売主の義務・買主の義務・手付	手付による契約解除(手付損倍返し)、履行の着手、履行の提供(弁済の提供)
第5回	売主の担保責任(1)	担保責任の法的性質(通常の債務不履行責任との異同ほか)
第6回	売主の担保責任(2)——瑕疵担保責任	担保責任は法定責任か(債務不履行責任の特則か)、完全履行請求権(瑕疵修補請求権等)、信頼利益・履行利益
第7回	特殊の売買——三者間の契約関係(付・第三者のためにする契約)	クレジットカード、個品割賦購入斡旋、消費者契約法、特定商取引法
第8回	売買以外の典型契約(1)——贈与・消費貸借(1)	片務契約、要物契約、利息制限法、貸金業規制法、「みなし弁済」
第9回	売買以外の典型契約(2)——消費貸借(2)・使用貸借・賃貸借(1)	継続的契約関係、解約告知、賃貸人の義務、賃借人の義務、費用償還請求権
第10回	売買以外の典型契約(3)——賃貸借(2)	賃借権の対抗要件、借地借家法、定期借地権・借家権、賃借権の譲渡・無断転貸、信頼関係破壊の法理
第11回	現代型の契約(1)——リースとサブリース	リース契約、サブリース契約、借地借家法31条
第12回	売買以外の典型契約(4)——雇傭・請負	建築請負契約における所有権の移転時期、民法176条の意思主義、請負代金債権の保護、請負人の担保責任
第13回	売買以外の典型契約(5)——委任	委任と代理の関係、受任者の報酬請求権、信託法における「信託義務」(fiduciary duty)
第14回	売買以外の典型契約(6)——寄託・組合・終身定期金	受寄者の注意義務
第15回	現代型の契約(2)——フランチャイズ等	フランチャイズ契約

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

2009年をめぐに民法典の債権法に関する大改正が検討されている。本講義で取り上げる民法の典型契約の規定は、数年後には全く新しい内容になることが予想される。しかし、売買契約を基本とする条文の構造までが大幅に変わるわけではないと考えられる。

他方で、最近では、商法だけでなく、民法でも民法それ自体の法改正や、特定商取引法等の法改正のスピードが非常に早い。また、新しい最高裁判決に関する新聞記事も多い。各自、新聞等の記事の動向にも各自注意されたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 % 小テストを実施する場合には、変更することもあり得る。

小テストを実施することがある。ただし、その取り扱いについては、別途告知する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特に、同時に平行して開講される民法Ⅵ・債権法は必ず平行して履修すること。民法Ⅶにおける債務不履行責任に関する知識は、民法Ⅳ・契約法においても必須である。また、債権の消滅に関する事項(弁済の提供・受領遅滞等)も重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法Ⅳ——債権各論 (Sシリーズ)	藤岡康宏ほか／有斐閣／4641159149／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法Ⅱ 債権各論 (第2版)	内田貴／東大出版会／／
民法講義Ⅴ 契約法 (第3版)	近江幸治／弘文堂／／
民法概論④ 債権各論	川井健／有斐閣／4-641-13458-8／
基本講義債権各論Ⅰ	潮見佳男／新世社／4-88384-094-8／
民法判例百選Ⅱ 債権 (第5版新法対応補正版)	／有斐閣／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.law.kanazawa-u.ac.jp/> 金沢大学法学部のホームページ。法学関連のリンク集(大学・裁判所・弁護士会など)

<http://courtdomino2.courts.go.jp/judge.nsf/View1?OpenView> 最高裁判所ホームページの中で、最近の最新最高裁判決を原文で掲載する。

<http://www.moj.go.jp/> 法務省のホームページ。立法動向や審議過程等について知るのに便利。

その他 / Others

民法V (物権法) JA § 民法V (物権法) GA

15349

担当者名 / Instructor 白井 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

民法第二編「物権」の第一章「総則」から第六章「地役権」までの解説を行う。条文では、第175条から第294条までになる。

到達目標 / Attainment Objectives

民法第二編「物権」の諸制度、それに関する法律概念・用語・条文を正確に理解していること。

上記に関する判例・基本問題を幅広く理解していること。

以上の理解を踏まえて、応用問題にも正確な法的判断を下せること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

民法Ⅰ「総則」から民法Ⅳ「契約法」を中心とした民事法系科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	本講義の学習内容－民法175条から294条までを眺めて、講義内容をイメージしてみよう！－	近代的所有権の確立とその現代的修正
第2回	物権法序論	物権の意義・種類、物権の客体「物」、物権法定主義
第3回	物権の効力	物権的請求権（返還・妨害排除・妨害予防請求権）、物権の優先的効力
第4回	物権変動序論	公示原則、不動産登記、動産引渡し、対抗要件主義、公信原則、民法176条「意思主義」の意義、物権変動の時期
第5回	不動産物権変動①「登記」による公示	民法177条「対抗要件主義」の意義、登記を要する物権変動「対抗問題」
第6回	不動産物権変動②二重譲渡の法的構成	上記に関する諸学説
第7回	不動産物権変動③民法177条の第三者の範囲	背信的悪意者・悪意者排除に関する諸学説
第8回	不動産物権変動④意思表示以外の物権変動と登記	法律行為の取消しと登記、解除と登記、取得時効と登記、相続と登記
第9回	登記手続	中間省略登記、登記請求権、予備登記
第10回	動産物権変動①「占有（移転）」による公示	引渡しの意義・種類、現実の引渡し、簡易の引渡し、占有改定、指図による占有移転、立木取引と明認方法
第11回	動産物権変動②占有の公信力「即時取得」	公信力、民法192条の即時取得、盗品・遺失物に関する民法193条
第12回	占有権	占有の取得・態様、占有の効力「占有訴権」、占有の消滅、準占有
第13回	所有権とその共同所有	無主物先占、遺失物拾得、埋蔵物発見、添付、共有、合有、総有、建物区分所有
第14回	用益物権①地上権と永小作権	地上権、永小作権
第15回	用益物権②地役権と入会権	地役権、入会権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業時に指示した復習用の判例学習教材、予習部分をしっかりと勉強していただきたい。

また小テストを実施した場合は、必ず受験して現在の自分自身の到達度を把握し、予習・復習に生かして欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業の中で随時具体的に提示して、イメージしてもらう。
定期試験を基本に成績評価する。なお受講態度が悪い者については、減点対象となることもあるので、十分注意していただきたい。 なお小テストを実施した場合は、定期試験の割合が90～80%になることもありうる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業外学習の指示」に従って勉強してください。

また分からないことがあれば、恥ずかしからず、担当教員に直接相談するか、本授業に配属されている先輩学生・院生(TA、ES)に指定時間に相談することをオススメする。

なお授業では、六法は適宜参照するので、コンパクトなものでよいから、常に持参すること。条文に慣れるときわめて重宝するので、面倒くさがらずに必ず六法をめくこと。

教科書 / Textbooks

新年度で、新しい教科書が複数出版されることが予想されるため、詳細は初回講義時にご紹介するつもりである。

参考書 / Reference Books

教科書同様、新しい参考書についても、詳細は初回講義時にご紹介するつもりである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

民法V (物権法) JB § 民法V (物権法) GB

15350

担当者名 / Instructor 谷本 圭子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

民法第二編「物権」のうち第一章から第六章を中心に講義する(第七章以下の担保物権は講義対象ではない)。受講に際しては、物権ではない民法が規定する権利である「債権」と比較してみたい。物権を有するとは、どういう状態なのか、どのような力をもつことになるのか、考えて欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①各制度の制度趣旨を理解する。
- ②基本的な条文の「要件・効果」を正確に押さえる。
- ③具体的な紛争に適切な法規範を適用する能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

民法Ⅰ、Ⅱを履修済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	物権法序説	近代的所有権の成立、物権法定主義
2	物権の客体	物権の客体としての「物」とは何か
3	物権の効力	優先的効力、物権的請求権
4	物権変動	物権の発生・変更・消滅
5	物権変動の公示	不動産と動産での区別、公示の原則と公信の原則
6	不動産物権変動①	意思表示と登記(177条)
7	不動産物権変動②	「対抗」の意義
8	不動産物権変動③	登記を対抗要件とする物権変動
9	不動産物権変動④	登記をしなければ対抗することができない第三者
10	登記制度	登記手続、登記請求権、仮登記
11	動産物権変動①	引渡しその他
12	動産物権変動②	即時取得(192条)、盗品・遺失物の例外
13	占有権	占有訴権、物権的請求権との関係
14	共同所有	共有、合有、総有
15	用益物権	地上権、永小作権、地役権、入会権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回事例を検討するので、その事例についてどのように法律が適用されるのか、自身で復習して検証する癖をつけてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	事例問題を中心とした論述形式を予定している。

受講に際しては、六法(コンパクトなものでよい)を必ず携帯すること。

授業はレジュメに沿って行が、レジュメに記載していないことも述べたり板書したりするので、自身のノートをもつことを薦める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法Ⅰ・総則・物権総論[第3版]	内田貴／東大出版会／／
毎回レジュメを配布し、講義はレジュメに沿って行。教科書については、自分にあったものを購入することで足りる。ここにはあくまで参考までに挙げたにすぎない。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法判例百選Ⅰ 総則・物権 星	星野英一他編／有斐閣／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教育学I LA

13788

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義 (I) では言語学、日本語の文法・音声、日本語学史などを学び、言語一般や日本語の構造、音声、語彙・意味についての基礎的な知識の習得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに、日本語を含む言語一般の持つ様々な問題を自分自身で分析できるようになるための方法論を身につけることが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション, 言語学	比較言語学
2	言語学	ソシュール言語学
3	言語学	形態論
4	言語学	形態論
5	言語学	統語論, アメリカ構造主義言語学, 生成文法
6	言語学	統語論, 生成文法
7	言語学	意味論, 古典的意味論, 認知言語学
8	言語学	意味論, 認知言語学
9	言語学	意味論, 認知言語学, カテゴリー
10	言語学	意味論, 認知言語学, 比喩
11	日本語文法	品詞, 活用, 日本語学史
12	日本語文法	動詞
13	日本語文法	ヴォイス, テンス, アスペクト, モダリティ
14	日本語文法	指示詞, 「ハ」と「ガ」
15	日本語の音声	音素, アクセント, イントネーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教育学I LB

13817

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義 (I) では言語学、日本語の文法・音声、日本語学史などを学び、言語一般や日本語の構造、音声、語彙・意味についての基礎的な知識の習得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに、日本語を含む言語一般の持つ様々な問題を自分自身で分析できるようになるための方法論を身につけることが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション, 言語学	比較言語学
2	言語学	ソシュール言語学
3	言語学	形態論
4	言語学	形態論
5	言語学	統語論, アメリカ構造主義言語学, 生成文法
6	言語学	統語論, 生成文法
7	言語学	意味論, 古典的意味論, 認知言語学
8	言語学	意味論, 認知言語学
9	言語学	意味論, 認知言語学, カテゴリー
10	言語学	意味論, 認知言語学, 比喩
11	日本語文法	品詞, 活用, 日本語学史
12	日本語文法	動詞
13	日本語文法	ヴォイス, テンス, アスペクト, モダリティ
14	日本語文法	指示詞, 「ハ」と「ガ」
15	日本語の音声	音素, アクセント, イントネーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教育学II LA

16301

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義(Ⅱ)では日本語教育学Ⅰで学んだ知識を土台として、語用論、第二言語習得理論(主な習得モデル、中間言語、学習ストラテジーなど)及びバイリンガル教育、コミュニケーション理論、異文化コミュニケーション、日本語教育事情、音声教育などを学ぶ。

授業では実際にさまざまなタスクを行い、日本語教育能力検定試験及び教育の現場で役に立つ実践的な知識や能力の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

多様な日本語教育及び学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	オリエンテーション、語用論	語用論、発話行為、協調の原理
	語用論	ポライトネス、プラグマティック・トランスファー
	語用論	コンテキスト、非言語コミュニケーション、アコモデーション理論
	語用論	コミュニケーション・スキル、アサーティヴ・コミュニケーション
	社会言語学	社会言語学、言語接触、ビジン・クリオール、バルカン言語連合、外来語
	第二言語習得	対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究
	第二言語習得	バイリンガリズム、イマージョン・プログラム
	第二言語習得	年少者教育、学習者のストラテジー
	方言と共通語	ネオ方言、コード・スイッチング、ウチナーヤマトウグチ
	異文化コミュニケーション	異文化適応、リエントリー・クライシス
	異文化コミュニケーション	異文化トレーニング
	異文化コミュニケーション	異文化トレーニングの形式・目的・内容
	音声教育	音声教育の問題、教材、教授法
	アクション・リサーチ	アクション・リサーチ、自己研修型教師

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教育学Ⅱ LB

16322

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義(Ⅱ)では日本語教育学Ⅰで学んだ知識を土台として、語用論、第二言語習得理論(主な習得モデル、中間言語、学習ストラテジーなど)及びバイリンガル教育、コミュニケーション理論、異文化コミュニケーション、日本語教育事情、音声教育などを学ぶ。

授業では実際にさまざまなタスクを行い、日本語教育能力検定試験及び教育の現場で役に立つ実践的な知識や能力の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

多様な日本語教育及び学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	オリエンテーション、語用論	語用論、発話行為、協調の原理
	語用論	ポライトネス、プラグマティック・トランスファー
	語用論	コンテキスト、非言語コミュニケーション、アコモデーション理論
	語用論	コミュニケーション・スキル、アサーティブ・コミュニケーション
	社会言語学	社会言語学、言語接触、ビジン・クリオール、バルカン言語連合、外来語
	第二言語習得	対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究
	第二言語習得	バイリンガリズム、イマージョン・プログラム
	第二言語習得	年少者教育、学習者のストラテジー
	方言と共通語	ネオ方言、コード・スイッチング、ウチナーヤマトウチ
	異文化コミュニケーション	異文化適応、リエントリー・クライシス
	異文化コミュニケーション	異文化トレーニング
	異文化コミュニケーション	異文化トレーニングの形式・目的・内容
	音声教育	音声教育の問題、教材、教授法
	アクション・リサーチ	アクション・リサーチ、自己研修型教師

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教授法演習 LA

14947

担当者名 / Instructor 北出 慶子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教育学Ⅰ、Ⅱ、日本語教授法基礎演習で学んだ基礎知識をもとに、実際の授業に必要な知識や実践的な力を養うことを目標とする。

前期は、シラバス作成、学習目標設定、教材分析などのコース・デザイン方法について学ぶ。また、主な外国語教授法とその背景、特徴、教室活動について学ぶ。初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や効果的な指導法を検討する。

後期は、前期に学んだコース・デザイン方法、教科書分析、教授法をもとに、具体的にどのように授業を組み立て、どのような練習を行えばよいかを学ぶ。初級学習者対象の設定で教案を作成し、模擬授業ならびに授業分析を行う。模擬授業の振り返りから教師、学習者、両方の視点について考える。

到達目標 / Attainment Objectives

前期:

- 1) 実際に日本語を教える際に必要な準備項目と方法について知る。(シラバス、学習目標設定)
- 2) 初級教材分析を通して日本語教育の教材と教材選択の際の留意点について学ぶ。
- 3) 日本語教育における教授法の基礎知識を学び、授業への取り入れ方について考える。

後期:

- 1) 実際に教壇に立って教える際の具体的な導入方法や教室活動を考える。
- 2) 1回の授業の組み立て方について学ぶ。(教案作成、学習活動の選定、模擬授業、授業評価)
- 3) 1)と2)の項目について、教師、学習者、両方の視点から考える姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ、Ⅱ、日本語教授法基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業概要と導入、課題説明、自己信念チェック	日本語教師の役割、日本語の教え方に関する考え方
2	コース・デザインの流れと決定要素Ⅰ	レディネス、ビリーフ (信念)、ニーズ
3	コース・デザインの流れと決定要素Ⅱ	シラバス (何を教えるか)
4	コース・デザインの流れと決定要素Ⅲ、教材分析グループの決定	授業目標、教材、教具
5	コース・デザインの流れと決定要素Ⅳ	副教材の利用
6	外国語教授法Ⅰ	外国語教授法の概要と変遷、文法翻訳法、直接法、オーディオリンガル法、
7	外国語教授法Ⅱ	TPR、コミュニケーション・アプローチ、コミュニティ・ランゲージラーニング
8	外国語教授法Ⅲ	コミュニケーション・アプローチの練習例、教授法の流れ
9	教材分析と教え方	
10	教材分析と教え方	
11	教材分析発表	
12	教材分析発表	
13	教材分析発表	
14	学期末課題 個別指導	
15	学期末課題 個別指導	
16	授業の概要と導入、初級の学習目標、日本語能力	授業設計前の準備事項
17	コミュニケーション能力を育てる授業Ⅰ	授業の流れ、導入方法
18	コミュニケーション能力を育てる授業Ⅱ	基本練習活動
19	コミュニケーション能力を育てる授業Ⅲ	応用練習活動
20	授業設計 (一回の授業の学習内容と学習目標の設定)	
21	教案作成の要素と留意点	
22	ゲスト・スピーカー (国内・国外の日本語教育現場の実情報告)	
23	教案個別指導、日本語クラスでの文化的側面の扱い方	
24	教案個別指導	

25	模擬授業と反省
26	模擬授業と反省
27	模擬授業と反省
28	模擬授業と反省
29	模擬授業と反省
30	模擬授業と反省

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習演習形式 (グループや個人で課題に取り組み、それを評価し合う) で授業を進めるので、課題への主体的な取り組み、授業への接触的参加を望む。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	詳細は前期、後期ともに授業内に説明する。
平常点(日常的)	70 %	出席と授業中の参加度、小課題、教材分析発表 (前期)、模擬授業と反省 (後期)
課題の詳細は前期・後期の授業第一日目に説明する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学内の留学生日本語クラスボランティア用メーリングリストに入ると、授業参加の機会もあるので積極的に利用されたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語教師の役割・コースデザイン	国際交流基金／ひつじ書房／／主に前期に使用予定
初級を教える	国際交流基金／ひつじ書房／／主に後期に使用予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「新・はじめての日本語教育・2 日本語教授法入門」	高見澤孟 監修／ASK (アルク)／／
「よくわかる教授法」	小林ミナ / アルク出版／／
「初心者向き すぐ役立つ 日本語の教え方」	小島 聡子／アルク出版／／
「日本語教授法ワークショップ」増補版	鎌田修他 編著／凡人社／／
「成長する教師のための日本語教育ガイドブック (上)・(下)」	口義一&横溝紳一郎／ひつじ書房／／
「実践日本語指導みなおし本ー語彙と文法指導編ー」	編著K.A.I.T／アルク／／
「日本語の教え方ABC」	寺田和子 他／アルク／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

留学生との交流BBS <http://kitade.sunnyday.jp/classes/>
日本語学習のためのリンク集 <http://www.ritsumeai.ac.jp/~kitade/links.htm>

その他 / Others

日本語教授法演習 LB

14983

担当者名 / Instructor 遠山 千佳

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教育学Ⅰ、Ⅱ、日本語教授法基礎演習で学んだ基礎知識をもとに、実際の授業に必要な知識や実践的な力を養うことを目標とする。

前期は、シラバス作成、学習目標設定、教材分析などのコース・デザイン方法について学ぶ。また、主な外国語教授法とその背景、特徴、教室活動について学ぶ。初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や効果的な指導法を検討する。

後期は、前期に学んだコース・デザイン方法、教科書分析、教授法をもとに、具体的にどのように授業を組み立て、どのような練習を行えばよいかを学ぶ。初級学習者対象の設定で教案を作成し、模擬授業ならびに授業分析を行う。模擬授業の振り返りから教師、学習者、両方の視点について考える。

到達目標 / Attainment Objectives

前期:

- 1) 実際に日本語を教える際に必要な準備項目と方法について知る。(シラバス、学習目標設定)
- 2) 初級教材分析を通して日本語教育の教材と教材選択の際の留意点について学ぶ。
- 3) 日本語教育における教授法の基礎知識を学び、授業への取り入れ方について考える。

後期:

- 1) 実際に教壇に立って教える際の具体的な導入方法や教室活動を考える。
- 2) 1回の授業の組み立て方について学ぶ。(教案作成、学習活動の選定、模擬授業、授業評価)
- 3) 1)と2)の項目について、教師、学習者、両方の視点から考える姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ、Ⅱ、日本語教授法基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業概要と導入、課題説明、自己信念チェック	日本語教師の役割、日本語の教え方に関する考え方
2	コース・デザインの流れと決定要素Ⅰ	レディネス、ビリーフ (信念)、ニーズ
3	コース・デザインの流れと決定要素Ⅱ	シラバス (何を教えるか)
4	コース・デザインの流れと決定要素Ⅲ、教材分析グループの決定	授業目標、教材、教具
5	コース・デザインの流れと決定要素Ⅳ	副教材の利用
6	外国語教授法Ⅰ	外国語教授法の概要と変遷、文法翻訳法、直接法、オーディオリンガル法
7	外国語教授法Ⅱ	TPR、コミュニケーション・アプローチ、コミュニティ・ランゲージラーニング
8	外国語教授法Ⅲ	コミュニケーション・アプローチの練習例、教授法の流れ
9	教材分析と教え方1	
10	教材分析と教え方2	
11	教材分析発表	
12	教材分析発表	
13	教材分析発表	
14	学期末課題 個別指導	
15	学期末課題 個別指導	
16	授業の概要と導入、初級の学習目標、日本語能力	授業設計前の準備事項
17	コミュニケーション能力を育てる授業Ⅰ	授業の流れ、導入方法
18	コミュニケーション能力を育てる授業Ⅱ	基本練習活動
19	コミュニケーション能力を育てる授業Ⅲ	応用練習活動
20	授業設計 (一回の授業の学習内容と学習目標の設定)	
21	教案作成の要素と留意点	
22	ゲスト・スピーカー (国内・国外の日本語教育現場の実情報告)	
23	教案個別指導、日本語クラスでの文化的側面の扱い方	
24	教案個別指導	

25	模擬授業と反省
26	模擬授業と反省
27	模擬授業と反省
28	模擬授業と反省
29	模擬授業と反省
30	模擬授業と反省

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習演習形式 (グループや個人で課題に取り組み、それを評価し合う) で授業を進めるので、課題への主体的な取り組み、授業への接触的参加を望む。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	詳細は前期、後期ともに授業内に説明する。
平常点(日常的)	70 %	出席と授業中の参加度、小課題、教材分析発表 (前期)、模擬授業と反省 (後期)
課題の詳細は前期・後期の授業第一日目に説明する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学内の留学生日本語クラスボランティア用メーリングリストに入ると、授業参加の機会もあるので積極的に利用されたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語教師の役割・コースデザイン	国際交流基金／ひつじ書房／／主に前期に使用予定
初級を教える	国際交流基金／ひつじ書房／／主に後期に使用予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・はじめての日本語教育・2 日本語教授法入門	高見澤孟 監修／ASK (アルク)／／
成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下	川口義一 & 横溝紳一郎／ひつじ書房／／
実践にほんご指導見なおし本一 語彙と文法指導編	編著 K.A.I.T／アルク／／
日本語の教え方ABC	寺田和子 他／アルク／／
よくわかる教授法	小林ミナ /アルク／／
初心者向き すぐ役立つ 日本語の教え方	小島 聡子／アルク／／
日本語教授法ワークショップ増補版	鎌田修他 編著／凡人社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

留学生との交流BBS <http://kitade.sunnyday.jp/trs/>
 日本語学習のためのリンク集 <http://www.ritsumeai.ac.jp/~kitade/links.htm>

その他 / Others

日本語教授法基礎演習 LA

14907

担当者名 / Instructor 彦坂 萬智子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるかという方法である。前期では内容について学ぶ。

まず、音声学について [IPA] と比較しながら日本語の音声・発音の特徴を学ぶ。次に、文字・語彙についてそれを支える仮名・漢字を中国漢字との対照、外国語との意味比較から考える。文法・構文については、文末決定性のある日本語を、テンス・アスペクト・ムードなど、述部の特徴を中心に学習する。

後期では方法について学ぶ。まず、言語教育のメソッド、アプローチ、テクニック等と呼ばれる教授法を概観する。次に、教室でのインターアクションについて考える。教室環境、練習の種類と教具・教材、また教師からの働きかけに焦点を絞って、クラスルーム・リサーチという実証的な方法で分析を試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

日常生活でも留学生や異文化に対して交流・理解を深める姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語教育能力検定試験合格を意識すること。

日本語教授法には絶対的なものがあるわけではないことを理解し、日本語学習者と意味を分かち合おうとする姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語への学術的な関心を寄せ、それを日常生活全般に活かす努力を重ねること。講義の内容を正確に受信し、また自ら発信する力を養う。タスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長を図る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- 1 まず、日本語学、日本語教育学および言語系周辺の科目を履修する。
- 2 次に、日本事情及び異文化間コミュニケーション周辺の科目を履修しておくことが望ましい。
- 3 また、日本と国際関係論についての科目を同時に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1 ガイダンス (コース・デザイン) ニーズ調査	
2	ニーズ抽出 コース・デザイン (シラバスとカリキュラム) の修正	音声・音韻論 1 [IPA] と50音図
3	音声・音韻論 2 拍とシラブル	
4	音声・音韻論 3 アクセントとイントネーションとプロミネンス	客観テスト「音声・音韻論」
5	タスク1「音声・音韻論」についての課題	課題内容については該当授業時に提示する
6	文字・語彙論 1 日本語の文字、仮名と漢字と外来語	
7	文字・語彙論 2 語の構成	
8	文字・語彙論 3 語の意味	客観テスト「文字・語彙論」
9	タスク2「文字・語彙論」についての課題	課題内容については該当授業時に提示する
10	文法・構文論 1 日本語構文の特徴	
11	文法・構文論 2 テンスとアスペクト	
12	文法・構文論 3 ムードとヴォイス	客観テスト「文法・構文論」
13	タスク3「文法・構文論」についての課題	課題内容については該当授業時に提示する
14	前期試験1 60分 + 試験解答解説 30分 =90分	筆記試験: 客観テスト
15	前期試験2 前期試験を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う+文章表現	口頭試験: 主観テスト
16	後期セミナーのガイダンス	日本語教授法概観
17	Natural Method, Direct Method, Oral Method, Army Method, Phonetic Method, Natural Approach, Audio-Lingual Approach, Total Physical Response Approach,	
18	教授法に関する過去問題の実施	教授法に関する過去問題の解説
19	タスク1 日本語教授法概観	課題内容については該当授業時に提示する
20	コース・デザインの第一段階	教室の環境 学習活動の形態 学習者と教師 学習者と用具
21	コース・デザインの第二段階	シラバスとカリキュラム

22	コース・デザインの 第三段階	教育の実施ー接続助詞をタスクとして
23	タスク2 コースデザイン	課題内容については該当授業時に提示する
24	日本語テキストの実例 1	練習の種類 : デイベート法 ロールプレイ法 プロジェクト・ワーク法
25	日本語テキストの実例 2	ゲームを使った教授法
26	日本語テキストの実例 3	ゲームを使った教授法
27	タスク3 日本語テキスト	課題内容については該当授業時に提示する
28	評価法 : 教師の働きかけ 発問・応答の行動 誤用の扱いとフィードバック テストの種類	評価法 : 評価の誤差
29	後期試験1 60分 + 試験解答解説 30分 =90分	筆記試験:客観テスト
30	後期試験2 後期試験を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う+文章表現	口頭試験:主観テスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	客観テスト(補充法・選択法・再生法等) 14週 + 29週 (前期 + 後期 = 記述式テスト)
平常点(日常的)	50 %	主観テスト (口頭試験・タスク・レポート・クラス評価表) 平常点 (出席率・授業への意欲的な態度)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語教授法基礎演習 LB

14946

担当者名 / Instructor 彦坂 萬智子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるかという方法である。前期では内容について学ぶ。

まず、音声学について [IPA] と比較しながら日本語の音声・発音の特徴を学ぶ。次に、文字・語彙についてそれを支える仮名・漢字を中国漢字との対照、外国語との意味比較から考える。文法・構文については、文末決定性のある日本語を、テンス・アスペクト・ムードなど、述部の特徴を中心に学習する。

後期では方法について学ぶ。まず、言語教育のメソッド、アプローチ、テクニック等と呼ばれる教授法を概観する。次に、教室でのインターアクションについて考える。教室環境、練習の種類と教具・教材、また教師からの働きかけに焦点を絞って、クラスルーム・リサーチという実証的な方法で分析を試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

日常生活でも留学生や異文化に対して交流・理解を深める姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語教育能力検定試験合格を意識すること。

日本語教授法には絶対的なものがあるわけではないことを理解し、日本語学習者と意味を分かち合おうとする姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語への学究的な関心を寄せ、それを日常生活全般に活かす努力を重ねること。講義の内容を正確に受信し、また自ら発信する力を養う。タスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長を図る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- 1 まず、日本語学、日本語教育学および言語系周辺の科目を履修する。
- 2 次に、日本事情及び異文化間コミュニケーション周辺の科目を履修しておくことが望ましい。
- 3 また、日本と国際関係論についての科目を同時に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1 ガイダンス (コース・デザイン) ニーズ調査	
2	ニーズ抽出 コース・デザイン (シラバスとカリキュラム) の修正	音声・音韻論 1 [IPA] と50音図
3	音声・音韻論 2 拍とシラブル	
4	音声・音韻論 3 アクセントとイントネーションとプロミネンス	客観テスト「音声・音韻論」
5	タスク1「音声・音韻論」についての課題	課題内容については授業時に提示する
6	文字・語彙論 1 日本語の文字、仮名と漢字と外来語	
7	文字・語彙論 2 語の構成	
8	文字・語彙論 3 語の意味	客観テスト「文字・語彙論」
9	タスク2「文字・語彙論」についての課題	課題内容については授業時に提示する
10	文法・構文論 1 日本語構文の特徴	
11	文法・構文論 2 テンスとアスペクト	
12	文法・構文論 3 ムードとヴォイス	客観テスト「文法・構文論」
13	タスク3「文法・構文論」についての課題	課題内容については授業時に提示する
14	前期試験1 60分間 + 解答解説30分間=90分間	筆記試験: 客観テスト
15	前期試験2 前期試験を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う + 課題文章表現	口頭試験: 主観テスト
16	後期セメスターのガイダンス	日本語教授法概観
17	Natural Method, Direct Method, Oral Method, Army Method, Phonetic Method, Natural Approach, Audio-Lingual Approach, Total Physical Response Approach,	
18	教授法に関する過去問題の実施	教授法に関する過去問題の解説
19	タスク1「教授法概観」についての課題	課題内容については授業時に提示する
20	コース・デザインの第一段階	教室の環境 学習活動の形態 学習者と教師 学習者と用具
21	コース・デザインの第二段階	教室の環境 学習活動の形態 学習者と教師 学習者と用具

22	コース・デザインの第三段階	教育の実施ー接続助詞をタスクとして
23	タスク2「コース・デザイン」についての課題	課題内容については授業時に提示する
24	日本語テキストの実例 1	練習の種類 : デイベート法 ロールプレイ法 プロジェクト・ワーク法
25	日本語テキストの実例 2	ゲームを使った教授法
26	日本語テキストの実例 3	ゲームを使った教授法
27	タスク3「日本語テキスト」についての課題	課題内容については授業時に提示する
28	評価法 : 教師の働きかけ 発問・応答の行動 誤用の扱いとフィードバック テストの種類	評価法 : 評価の誤差
29	後期試験1 60分間 + 解答解説30分間=90分間	筆記試験:客観テスト
30	後期試験2 後期試験を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う + 課題文章表現	口頭試験:主観テスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	客観テスト(補充法・選択法・再生法等) 29週 + 30週 (前期 + 後期 = 記述式テスト)
平常点(日常的)	50 %	主観テスト (口頭試験・タスク・レポート・クラス評価表) 平常点 (出席率・授業への意欲的な態度)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本語史 LA

13818

担当者名 / Instructor 彦坂 佳宣

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

・日本語教師として知っておくべき「日本語の歴史的な諸相」を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

・現代日本語を理解する上で必要な日本語の過去の様相について、その主要点を理解できること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・日本語学概論その他類似科目
 ・イノベーション・プログラム「日本語教育」の初年度の諸科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代日本語の源流としての日本語の歴史	ソール、共時態と通時態、過去の遺産としての現代日本語
2	音韻の概説1	50音図、音声と音韻、音韻の種類の変化
3	音韻の概説2	アクセントの体系、型の対応
4	語彙の概説1	語彙の量的側面、語種、語構成、
5	語彙の概説2	語彙の体系、意味、意味変化
6	文法概説1	活用の仕組み、活用体系の変化
7-8	文法概説2	助動詞の変化—分析的傾向へ
9-10	文法概説3	係り結びの変化、呼応の関係の変化
11-12	文法概説4	主語と助詞、格助詞、接続助詞の変化
13-14	標準語と方言概説	標準語と方言、位相
15	歴史的な変遷の概要についてのまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	授業内容のあらましを理解し、それを文章の形でまとめられること。
平常点(日常的)	30 %	授業内容のあらましを理解し、それを文章の形でまとめられること。

クラスはLAとLBとの2クラスがあるが、内容は同じである。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業には欠かさず出席すること。
 古典語の内容は休むと理解できにくい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ケーススタディ日本語の歴史	半沢幹一他／おうふう／4-273-03267-8／常時使用する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「講座日本語と日本語教育」	／明治書院／／
『講座日本語学』	／明治書院／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

独立法人-国立国語研究所 <http://www.kokken.go.jp/>

その他 / Others

初年度から日本語教員能力検定試験に挑むように。
 ただし、このプログラムはその受験対策のためのものではなく、日本語の歴史的な概観を得るためのものである。しかし、受験も意識した内容をもりこむことはある。

日本語史 LB

13902

担当者名 / Instructor 彦坂 佳宣

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

・日本語教師として知っておくべき「日本語の歴史的な諸相」を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

・現代日本語を理解する上で必要な日本語の過去の様相について、その主要点を理解できること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・日本語学概論その他類似科目
 ・イノベーション・プログラム「日本語教育」の初年度の諸科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代日本語の源流としての日本語の歴史	ソユール、共時態と通時態、過去の遺産としての現代日本語
2	音韻の概説1	50音図、音声と音韻、音韻の種類の変化
3	音韻の概説2	アクセントの体系、型の対応
4	語彙の概説1	語彙の量的側面、語種、語構成、
5	語彙の概説2	語彙の体系、意味、意味変化
6	文法概説1	活用の仕組み、活用体系の変化
7-8	文法概説2	助動詞の変化—分析的傾向へ
9-10	文法概説3	係り結びの変化、呼応の関係の変化
11-12	文法概説4	主語と助詞、格助詞、接続助詞の変化
13-14	標準語と方言概説	標準語と方言、位相
15	歴史的な概観上の重要点	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	授業内容のあらましを理解し、それを文章の形でまとめられること。
平常点(日常的)	30 %	授業内容のあらましを理解し、それを文章の形でまとめられること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

クラスはLAとLBとの2クラスがあるが、内容は同じである。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ケーススタディ日本語の歴史	半沢幹一他／おうふう／4-273-03267-8／常時使用する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『講座日本語と日本語教育』	／明治書院／／
『講座日本語学』	／明治書院／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

独立法人-国立国語研究所 <http://www.kokken.go.jp/>

その他 / Others

初年度から日本語教員能力検定試験に挑むように。
 ただし、このプログラムはその受験対策のためのものではない。